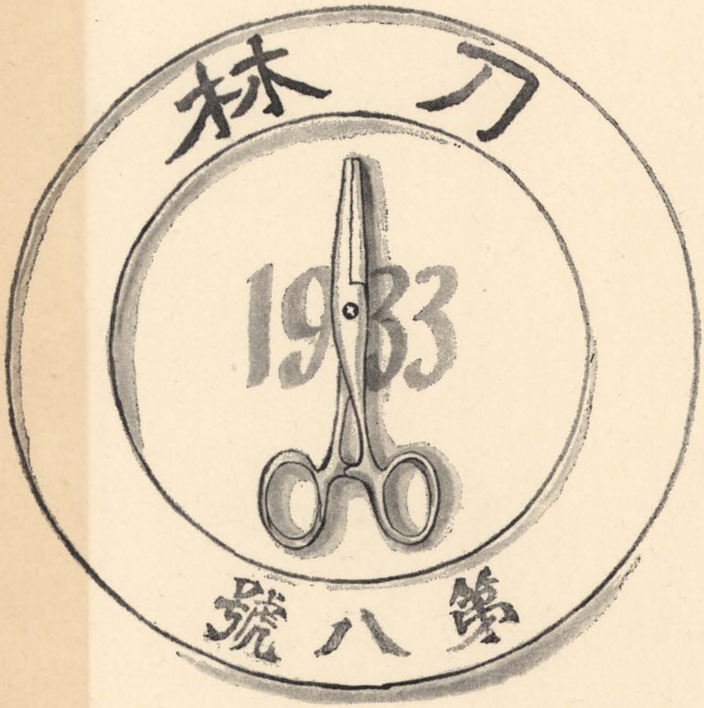
林刀

8

1933


刀林
1933
第八號

刀林　第八號　目次

扉
口繪（茂木先生）
祝賀地圖（諸先生發展現況）　五八
歡迎版書（別館屋上）　一一六
送別
同窓會
外科手術漫談　茂木藏之助　一
研究と治療――信念と博愛　前田和三郎　一三
院外團に屬して　佐藤太平　一三
茶の香り　夢の人　一六
院務を回顧して　勝栗生　二三
熊本便り　竹下貫一　二七
小樽便り　太郎生　三一

珍談二つ　K・I・生　三八
開業醫　S・M・生　四二
日立便り　濱名元中　四五
會員近況　四七
同窓會報告　六一
御禮　六三
學術
外科　六四
整形外科　六七
抄讀會　七一
文献の探索　もゝたに生　七五
醫局
茂木先生　八二
外來診察室　八三
外科醫局發展近況　八四
檢査室の事ども　（試藥係）　八五
病類別索引の話　（S　生）　八七
別館案内記　（つね子）　八九

動物實習 (H・N・生) 九三
學會行 (T・H・生) 九四
謝恩觀劇會 九八
歡迎旅行記 九九
新入局員紹介 一〇二
前橋舟遊び記 (M・N・生) 一〇九

文苑

江戸時代情死小考 純山 一一七
獨吟行 馬相 一二五
ライオンと虎と私 古珍 一二九
俳句の辯 馬相 一三三
女神のうたへる歌 白風 一三七
駄句 はしもと 一四二
外科醫局の歌 一四二
外科を謳ふ 文生 一四三
外科醫局音頭 TAM 一四四
外科醫局の歌 比古 一四五
三十一文字 田舍のアッペ 治生 一四六

アルコールの力　つれづれ生　一四九

種にならぬ話　酔狂生　一五一

スポーツと救護

對青山外科運動競技　一五六

醫局庭球便り　一六〇

醫局野球便り　一六三

野球は如何にして優勝せしか（野球定九郎）　一六六

外科チームの戰績（長　坂）　一七〇

新運動場　一七五

弓道場の話　一七八

三四會運動會　一七九

富士救護座談會　一八〇

拳鬪救護　一八八

醫局便り　一九一

名　簿　二〇二

編輯後記　二〇六

奥　附

目次終り

今年は吾が醫局は、庭球をのぞいて、あらゆる運動競技に優勝しました。

其の戰績を物語る盃を前に、茂木先生の寫眞を撮らせて戴き、口繪と致しました。來年は、庭球にも優勝します。

向って右より。

教室對抗リレー優勝盃

對青山外科運動競技優勝盃

教室對抗野球優勝盃

です。小さい方は昨年度までの盃、大きいのは、今年新に作られたものであります。

（尙先生には、醫局員一同と寫したき御希望でありましたが、刀林發行の日も迫り、又醫局では光線も惡きため、殘念ながら院內寫眞場で撮せていたゞきました。）

祝賀

論文通過

中村次郎君　昭和七年十二月
志田元秀君　同
今井金治君　同　八年三月
横山虎雄君　同　八年四月
明樂治部輔君　同　八年七月

昇格

町田謙二君（助教授）昭和八年四月
藤原道純君（講師）同
百溪定七郎君（同　）同　五月

歡迎

歸局

横山虎雄君　昭和八年九月（病理教室より）
相見三郎君　昭和八年十一月（長野縣より）

新入局

伊藤原君　昭和七年四月（十一回卒業）
萩尾又八君　同
大岡保司君
大塚廣君
釜江省司君
高橋眞雄君
中野宗夫君
長坂謙三君
山口恒造君
重盛福七郎君
木村知孝君　同（金澤醫大より）
渡邊敬君　（熊本醫大より）

送別

門橋勇君　昭和八年一月（入營）

中村寛君　同

古山實君　同

森文雄君　同　二月（東京電燈病院）

小澤武雄君　同　同（伊東病院）

堀田善二郎君　同　三月（豫防醫學教室へ）

布留文夫君　同　同（藥物學教室へ）

佐藤太平君　同　同（靜岡日赤病院）

川田正雄君　同　四月（同）

志田元秀君　同　同（同）

栗本勝之進君　同　同（同）

成内穎三郎君　同　五月（滿鐵撫順病院）

田中周吉君　同　六月（中目黒瀨尾病院）

高橋福三郎君　同　九月（自宅開業）

濱名元中君　同　十月（日立鑛山元山病院）

同窓會

外科手術漫談

茂木藏之助

凡べての醫學的療法を大別すると（一）藥物療法（二）食餌療法（三）臟器療法（四）血清療法（五）ワクチン療法（六）氣候療法（七）理學的療法（八）器械療法（九）精神的療法（十）手術的療法に區分せらるゝ。世間には外科醫者は何んでもかんでも手術ばかりしたがるやうに誤解して居る人もあるが、決してそんなものではない。外科的疾患に對しては其の病氣により、又病狀の程度或は時期等により、以上凡べての療法を取捨撰擇して處置をするもので、或は二三乃至數種の療法を併用する事もある。併し手術的療法は何と云ふても外科醫の生命とする所で、最も屢々行はるゝものであるが、此の手術的療法は他の各種の療法とは全く別箇のもので、甚だ複雜したものである。然るに世間では外科的療法とはどんなものかよく了解せぬ人が尠くない。依つて玆に其の大要を述べて見やうと

思ふ。

何人が云ひ出したのか、佛心鬼手と云ふ言葉がある。病氣を癒し、病人の苦痛を去るてふ深き慈悲心を以て、思ひ切つて充分に手術をせよとの意味である。蓋し手術の要諦を表現せる金言ではあるが外科的手術の眞面目はまだ〳〵此の言葉だけでは云ひ盡せぬ。更らに幾多の條項がある。

先づ手術を行ふに當りては豫め診斷を確定する事が必要である。然るに病氣によりて一目して容易に診斷せらるゝ場合もあるが、病氣によりてはなか〳〵診斷が困難なる事がある。老大家の等しく云はるゝ言葉であるが、醫者は醫者になり立ての時が一番何でも解るやうに思ふ。又解からなかつたら本を見さえしたら直ぐ解かるものと思ふ。然るにだん〳〵經驗を積むに從つて解らぬ事が多くなつて來る。又本を見ても解らぬ事が少くない。從つて場合によりては最初の診察では診斷が附かぬ爲めに暫時經過等を觀察して漸やく診斷が確定せらるゝ事もある。或は特殊の檢査法を行ふて甫めて診斷せらるゝ事もある。

内科的方面に於ては特に用心を要する急性傳染病中には疑似コレラ、疑似赤痢だのと云ふ名稱がある。即ちコレラや赤痢の疑もあるが診斷が確定せぬ場合には、其の病氣の疑の下に處置をしながら經過を觀察して診斷を下だすのである。又黴毒性の疾患にも色々あるが、診斷不明なる場合には、試驗

的驅黴法と云ふて、二三週間黴毒の療法を試みて其の奏効有無によりて診斷を定める事もある。外科的方面には疑似云々と云ふ名稱はないが試驗的切開術とか、試驗的開腹術と云ふものがある。即ち診斷が確定せぬ場合には兎に角手術的に患部を開いて見て診斷を定め、之れに從つて善處すると云ふのである。特に急性腹膜炎や腸閉塞症や内出血等の疑のある場合には一刻を爭ふて手術せねばならぬので、徒らに診斷の末節に拘泥して手術の時期を遲延せぬやう。兎に角重きに從つて手術を試みて診斷と共に手術を行ふ事が屢々ある。なほ病氣の診斷に向つては多年の經驗、周到なる注意、學識の深厚等が關與する事は云ふ迄もない。

手術者には上手な人と下手な人とある。それは生れつき器用な人と不器用な人とで違ふのであるが、イクラ器用な人でも鰻を始めて割かしたらなか〳〵旨く割けるものではないが、慣れた人は見て居ても氣持のよいやうにスラ〳〵と割く、手術も鰻を割く程澤山やつたら隨分旨くなるものだらう。外人は一般に日本人に比して手先が不器用だが、熟達した外科醫の手術は誠にあざやかなものである。

初心の手術者は皮膚を切るにも恐る〳〵切るが、慣れた手術者は一頓に切る。而して出血にはさまで驚かぬものであるが、手術に慣れぬ人は出血があるとビク〳〵して止血に之れ努める、二十數年も前の話である。私と同時代頃に大學を卒業した新學士が外科醫局に入局して間もなく、故參助手に手

傳つて貰らつて頸部の手術をしたのであつたが、頸靜脈を傷つけて、どつと出血したのを見て、ビックリして青くなり、腦貧血を起して危く倒れそうになり、肝心の手術者が室外に運び出された。爾來その先生は手術が恐ろしくなり、外科醫たる事を斷念して內科醫になつて仕舞つた。併し慣れた外科醫は大抵の出血には驚かぬ。而して適當なる處置を施す。昔、スクリバ先生の外科で、ある助手が先生の留守中に横痃の手術をして股動脈を損傷し、驚いて出血を止めやうとしたが、なか／＼止まらんので、仕方なしに止血器で動脈を押えて其上に大業に繃帶をして置いた、翌日スクリバ先生が廻診の時にこれを見附けて、誰れが此の手術をしたと、どなられたが、それは股動脈を傷つけたのが惡いと云ふのではなく、若し股動脈を傷つけたのなら、なぜ手術部の上方で股動脈を出して之れを結紮して置かなかつたかと云ふのであつたそうである。

慣れぬ人は手術をするに餘裕がない、從つて手術中に何か豫定以外の事故が起ると、まごついて仕舞つて、思はざる不覺を取る事がある。併し慣れた人は假令手術中に事故が起つても驚かぬ、平氣で適法を講ずる。曾つて私はフランスの外科の泰斗ドアヤン氏の手術を傍觀した事がある。輸尿管瘻の整形手術をやろうと云ふのであつたが、いよ／＼輸尿管を周圍より分離して引き出し、輸尿管はなか／＼丈夫なものであると云ふて、太い大きな手で引つぱつて見せたが、どうしたものか、其の輸尿管

がプスンと切れて仕舞つた。我々であつたら、アッしまつたと云ふ所だが、先生少しも驚かぬ。平氣で腎臓部を消毒して、見る間に該側の腎臓を剔出して仕舞つた。今でも其の沈着の態度が目に殘つて居るやうである。要するに手術に際しては膽大にして、しかも細心の注意を要する、虚心平氣にして心に餘裕あるを要する。手術に際しては手術前に下だしたる診斷のみに捉はれずに診斷の誤つた場合の處置をも考へて居らねばならず、又手術中に起るべき色々の偶發事故をも考慮して居らねばならぬ。而してそんな場合には、あわてずに適當なる處置を施さねばならぬ。此等は經驗を積むに從つて膽が据り餘裕を生じて來るのであるが、手先きの器用、不器用と同樣に、多少人々の生來の性質も手傳つて來る事であらうと思はれる。

一體外科的手術は他の療法とは大に趣を異にして居るもので、藥物療法にしても其他の療法にしても其の處方さえ定まれば、大抵誰れがやつてもさしたる相異はないものであるが、手術的療法に於ては單なる療法ではなく。同時に診斷、鑑別、豫防等を含むものである。即ち手術を行はんとする場合には、先づ其の病氣に對して如何なる方法が最も適切のものであるかを撰定せねばならぬ。而して手術に當つては外部から見た診斷と一致して居るか、否やを確定し、若し又之れに類似の疾患があれば之れを鑑別せねばならぬ。又其の病氣がどの程度まで擴まつて居るかを鑑定せねばならぬ。又病氣に

よりては皮膚の下だけにあるものか、筋肉や骨に關係がないか、或は內臟に關係があるかを判別せねばならぬ。又手術に際しては出血があるので、手早く之れを止めねばならぬ。又神經や其他の組織を傷つけぬやうに注意もせねばならぬ。時としては又病氣の原因を探りつゝ進み、小なるは蟻の穴よりも小なるものに注意を要し、骨や關節の手術に當りては滿身の力を籠めて行はねばならぬ事もある。又手術後皮膚を縫合するにも色々の注意が必要であり、特に整形手術となると種々の美術的工夫を要する事もある。其他手術に際しては化膿を起さぬやうに各方面に注意を要し、又手術中は成るべく患者に苦痛を與へぬために無痛法を顧慮して居らねばならぬ。併し無痛法もあまりやり過ぎると、之れがために恐ろしき危險に陷る事もある。要するに、手術に際しては瞬目の間に種々雜多の事項に深甚の注意を拂はねばならぬ。曾つて故高木兼寬博士が手術後のガーゼ事件に鑑定人として法廷に出られた時に、醫者が手術をするに當つては、痲醉を心配し、出血を顧慮し、手術部を注意し、患者の全身狀態を監視し等々、到らざるなき緊張と努力を要するもので、恰かも軍人が戰場に臨めるが如きものであると說破せられた。蓋し明言であらねばならぬ。

元より手術にも難易があり、簡單なるものは何等の心配なしに一寸して出來る。併し簡單な手術でも油斷大敵、いつ、どんな事が起るか知れんから、常に心を配つて居らねばならぬ。然るに又大きな

手術となると、外科醫は全く一生懸命になつて手術をする、寒い時でも下着一枚となつて汗みづくになる。藥物療法は勿論、理學的療法でも、其他の療法でも、こんなに眞劍になつて努力するものはあるまい。イヤ内科醫でも胸部を一心になつて診査する時は、自然に汗がにじみ出るとの事であるが、外科手術の時はそんな生やさしい汗ではない、時としては手術者の汗拭き係が要る位に拭いても〳〵流れ落ちるやうな汗が出る事がある。又外科醫が一生懸命になつて手術する時は、目附きまで違つて來る。

手術の時によく怒る先生がある。日常は溫厚恭謙なる人でも、手術になると人が變つたやうに助手や看護婦をどなりつける。ある大學敎授が他の病院に賴まれて行つて其處で手術を始めたが、いつもの癖を出して怒り出したら、初めての雷にびつくりして、器械係をして居た看護婦が腦貧血を起して打倒れたと云ふ。併し怒ると云ふのはあながち咎むべきでない。それは怒るのは手術に熱心のあまりに來るので、相撲を見て力こぶを入れて思はずどなり出すやうなものであろう。連發的にどなり出す癖のある先生は、或はどなる事によりて調子づけられて手術を進めて行くのではないかとさえ思はるゝ。兎に角どんな療法でも、治療中怒り出すと云ふ事は手術的療法以外には見られない一現象である。

手術的療法に於て他の療法になきもう一つの特徴は手術によりて時としては、患者に死を來たす危

險のある事である。藥物療法に於ては誤つて劇藥を使用した場合でもなければ治療によりて死を來たす事はない。其他の療法に於ても直接に死を來たす事はないのであるが、獨り手術的療法に於ては死の危險がある。手術中に於ける直接の危險は出血、ショック、肺虚脱、空氣エムボリー、衰弱死、心臟痲痺、痲醉に因る危險等で手術後に於ける危險は手術後の化膿、肺炎其他の合併症である。就中手術中に危險な事があれば、直ちに以て手術者の責任と云はれる。手術者は此等の危險を冒して、云はゞ患者の身體を戰場として病氣と孤軍奮闘するのである。手術者は患者の死に直面して闘ふので常に多大の努力と緊張を要するのである。併し手術を嫌ふ人は此等の危險を慮つて手術を恐ろしいものと思ふのであるが、此等の危險は相當の注意の下に行へば大抵避け得らるゝものであるが、併し一面から云へば、ある病氣があつて、手術的療法以外に生命を救ふ事が出來ぬものとしたならば、所謂生命を賭して手術する事も必要である。或は虎穴に入らずんば虎兒を獲ずの譬の如く幾多の危險を冒して手術を敢行する事もある。此の如き場合には一層の勇氣と果斷とを要する。歐米では隨分思ひ切つた手術をして居る――勿論之れが爲めに死亡する事も多いが――併し一面に於ては之れが爲めに外科學の進歩に貢献する事も多大である。併し我國に於ては槪して歐米のやうに思ひ切つた手術の出來ぬ事が多い。患者を一人殺すことは百人を助くるよりも世評に影響する事が大きいので、假令多少の

見込があると思ふても、萬全の策を取りて手術を敢えてせぬ人が多い。

次に必要なる事は醫學の智識養成に怠つてはならぬ事である。醫學の發達は駸々として休む間もなく進歩する。いくら其の醫者が器用であつても、經驗が積んで居つても、人間一人の進歩は知れたものである。學界に於ける幾多の研究の發表は多少玉石混合の誹はあるにしても。大體に於て各自が專心に研究又は經驗して發表した結晶である。從つて時としては今まで不可解の醫學上の問題が新研究によりて解決せられたり、不治のものとせられたるものが治癒したり、或は簡便の療法も出て來ると云ふものである。近い話が近來盛んになつた輸血法などでも、本法のなかつた時代には助かるべきものもみす〳〵殺して仕事つたのだが、輸血法の實施により屢々起死回生の妙を發揮する事がある。併し、もし今なほ本法の實施方法を知らぬ外科醫があつたとしたならば、どうであろうか昔は醫者と南瓜は古い程よいと云ふたものであるが、成る程經驗を積んだ醫者はよいには違ひないが、醫學の進歩に注目せざる古南瓜醫者は決して立派なるものとは云へぬ。現今日本の醫學も進歩したとは云ふものゝ、大局の上から見れば誠にみじめなものである。今後更らに〳〵發達すべきで、前途は誠に遼遠たるものである。從つて我々は及ばずながら、此發達に後れざらん事に努力しておらねばならんのである。

熟達した外科醫の手術は、初心の手術者よりも手術は旨いには違ないが、馴れた醫者でも場合によ

りては手術後省みて物足りなさを感ずる事もあろう、特に心急ぎて手術をする時や、氣分の勝れぬ時或はあまり緊張し過ぎて手術した時は、思はざる失敗する事もある。又馴れぬ手術場や馴れぬ助手で手術する時は、手術のやり苦い事が多い、又特別の理由なくして一寸した加減で手術に熟練せる人の手でも多少出來不出來のある事がある。此の點手術も一種の藝術ではないかとさえ思はるゝ。併し何と云ふても經驗の深き外科醫は初心の手術者に比して凡べての點に於て格段の相異のある事は云ふ迄もないが、曾つてある外科の大家が憤慨して話された。手術に熟練した外科醫の手術料も、學校駈け出しの若い醫者の手術料も大した相異がない、否其の地位によりては若い醫學士さんの手術料が反つて高い事があると云ふ。誠に不合理千萬な事ではある。例へば蟲様突起炎や脫腸の手術にしても、熟練の外科醫は十分內外で濟ますのに初心の手術者は四五十分も二三時間もかゝる事がある。而して其の間手術中の苦痛に於ても、又手術後の成績に於ても兩者の間には多大の相異がある。同じ馬を書くにしても、書の先生の書いたものと、弟子の書いたのと同じく見られてはたまらんわけである。併し素人は勿論、醫者すらも手術なるものゝ眞相をはつきり呑み込んで居らず、手術を投藥や注射同樣、誰れがやつてもそう異るものではない位に考へて居る人々が尠くないやうである。併し以上述べ來つた條々を考ふるならば、稍や外科手術なるものゝ意味を了解せらるゝ事と思ふ。

併し一體醫者の仕事と云ふものはあまり有り難いものではない、今は勇退して閑職にあらるゝ外科の某泰斗は顧みて自分はよくあんな仕事をやつて來たものだと述懷せられたそうであるが、醫者特に外科醫の仕事はなか〳〵厄介なものである。人々のいやがる膿や大便や血液や汚いものを平氣でいぢくり廻はして、汗みづくになつて勞働し、或は誤つて手術の際病菌に傳染し生命に危險なる事すらある、手術中の心配苦勞ばかりか、手術後の後療法を心配し、合併症に苦勞し、幸に助かれば當り前で死亡でもするものなら醫者が殺したやうに云はれる、肉體上及精神上外科醫者位働らくものは比較的少ないだろう、しかもかく働らいて獲る所幾何ぢやと云ひたくなる位である。

併し、併し、翻つて顧みると外科醫者には人に味はれぬ樂しみがある、世の中は苦あれば樂ありである、澤山の病人を取扱つて居る間には、自分の心まかせに癒らぬ病人もあつて、心の奥が暗くなる思をする事もあるが、手術が自分の思ふやうに濟んで、其後の經過がずん〳〵よくなるのを見た時は、手術や後療法に苦しんだもの程、有りがたさに滿ち〳〵した樂しみがある。而して私には病者に一視同仁で、貴族も富豪も眼中にない、イヤいくらえらい人でも自分が診て治療するとなると、いくら其の人がえらくとも其の人に對して、一種の優越感をさえ感じるのである。私は此の二點に於て何が何でも人に味はれぬ王者の氣持を以て心秘かに樂しんで居るものである。

研究と治療——信念と博愛

前田和三郎

吾々大學の臨牀に育つたものは大學の敎室に居る間は勿論、敎室を離れて他の臨牀に預かるにしても、又獨立し實地家として立つにしても研究と治療の二者を兩立させなくてはならん、研究にのみ走ることも又單に治療にのみ走ることも不可である、而して研究にあたつては信念が必要である、治療にあたつては博愛が必要である、患者から慈父として親まれるには愛の心がなくてはならん。

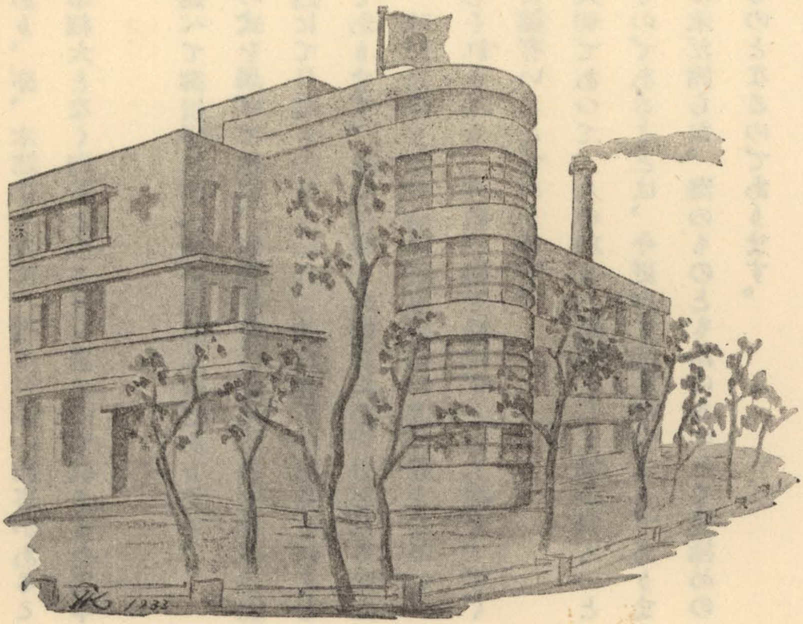
自分が禿筆をかつて信愛の二字を書き整形外科敎室に掲げてある所以はこゝにある。

院外團に屬して

佐藤太平

私は永いこと刀林會員たる同窓諸兄の御世話になりつゝも教室内にあつて及ばずながら氣持丈けでも刀林の編纂に御手傳ひもし、會員諸兄に向つて原稿の催促もしたのでありましたが、今年からはその永く住み慣れた教室を去り、諸先輩諸兄と御分れして、位置を換へて已に院外團に屬して了つたのでありまして、原稿の催促を受ける様になつたのですが、今、雜誌刀林の發刊當時の事共を回顧すれば誠に感慨の深いものがあるのです。

扨て、院外團として何か書かねばならぬのでありますが、病院の現狀や土地の狀況などについて



は、曩に栗本君が三四會雜誌にも書いたことでもあり、亦、本誌にも川田、栗本君等の記事があることでもあり、左もなくとも方々から澤山の情報で事細大となく御承知のことゝ思ふので私より今更申上げる必要もないことであります。

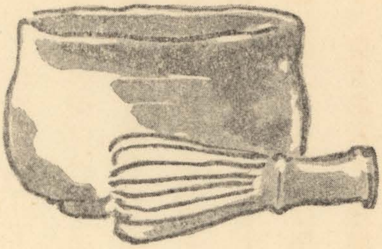
それで、私は只一言自分の只今の心境の一端を述べて御挨拶に代へ度いと思ふのであります。

我等の日赤靜岡支部病院は去る六月十一日開院の式を擧げて以來、病院經營の主體たる醫員は勿論調劑員、事務員等凡て一丸となつて非常なる意氣込にて日曜も祭日も忘れて生れ立ての病院を何んとかして確固たるものとせんものと努力して居るのであります。私は何時も此等諸氏の努力を見る時は感謝の念で胸が一パイになるのでありますが、亦、時には餘りに内輪の遠慮のない連中許りなので。所謂兄弟垣に鬩ぐこともないでもないのです、然しそれとても、外敵の侮を受けずと云ふ譯で、すぐ和解して了ふので問題にはならずに濟むことは誠に難有いことであります。

凡て、何事によらず、事の成否は人の和が最も大切であつて、人の和さへ確固として動かぬものとなつて居れば如何なる隙碍も敢て恐るゝに足らぬものであることは、今更申す迄もないことでありますが、特に私共の病院の如き開設早々にして基礎の未だ固らぬ。海のものとも山のものとも見極めのつかぬ場合に於ては此の人の和が何よりも大切なものとなるのであります。

この事は我が北島醫學部長も御心に掛けられたものと見えて、私が靜岡に赴任の時御揮毫を御願ひ致したのに對して「一和万事成」の書を下されたのでありますが、私は此の先生の書を難有く表装して居間に掲げ、日夕修養の鑑とし、只管ら院内の和衷調協に努め、以て世間からは慶應の分院の如く做されて居る靜岡の日赤病院の基礎建設に全力を盡して居る次第であります。

終りに、同窓各位の相變らざる御後援を乞ひ奉つて筆を擱して頂きます。



茶の香り

夢の人

早いものです。

一世一代の大床間を背負はされて茂木先生のおとなりで花嫁のヘルツノイローゼみたいになつてから——

一世一代のプラツトホームでフンケンゼーエンどころかアクーラ、バセドウ氏病の症候を起してから—— 早いもんです。

富士山の頂は白くなつたです。

朝三階の醫局でシユルツエを着かへながら先づ雪の富士を讃美しあふのです。いゝ趣味だと思はん

ですか？　清々しい氣持であるです。こつちへ來てからは朝からこんなに清淨なんです。富士山の見えないときには——

それは知らんです、我々のせゐぢやないです。「天災」といふものです——（これは先日柳家金語楼君が敎へてくれたです）

■第一感——目——

今度とまればシヅオカ……と感激インテルバルが再發してエクソオフタルムスの眼を汽車の窓から出してみるとJOPKのアンテナが見えたです。「茶の靜岡」大きな廣告板です驛を出るとその名も行幸道路―これはもの丶三十間もいかぬうちに御用邸の土塀に衝突しちやつてるです、相手が相手ですからインオペラブルでせう―角にデパート松坂屋、我が日赤と並んで靜岡第一の建築美を誇つてるです、屋上にはささやかながらプレヤボールトが動いてるです。

駿河城趾―つまり石崖と濠があるです、三十四聯隊橘中佐は今も銅像で殘つてるです、外濠の中に所謂お役所や學校があるです、御丁寧にカンゴクもあるです。

內濠に沿ふては咲けば櫻がきれいらしいです、しよつちう釣をしてるです、これもカンサツがゐる釣です。突きあたりに淺間神社があるです、裏の賤機山は手ごろなとこです、靜岡全市安倍川―海も

見えるです、何かあつたら轉向してみたい氣分になれるです。

靜高學生の赤を特高課ではこゝ迄つれてつてみせてやる相です。

自動車をとばすと久能山三保松原、龍華寺の大蘇鐵と樗牛の墓―こゝいらで大概へばつちやうです―次郎長親分の銅像と墓、そしてかへりの靜清國道ぢや大抵居眠りですこの國道から一寸折れると、日本平（にほんだいら）といふのがあるです、凄くいゝ景色です背負つちやゐないです、お子供さんには狐ヶ崎遊園地―花月園なんかよりはぐつといゝです。

■第二感――耳――

こつちへ來てから靜岡三田會主催で日赤落成紀念の音樂會があつたです、ワグネル一行のケーオーの唄―いつもながらいゝ氣持がしたです「幻の門」を早速買つてきてもうとてもうまく唄へるです。

おくればせながら川畑文子をひどい雨の晩にきいたです、入道館といふ寄席が一軒あるです、先日金語樓獨演會に大擧して腹を抱え久方ぶりにリコウになつてきたです。

その翌々日が小唄界の名星勝太郎姐さん―こりやあインチキでしたです。

叶家勝太郎　但し本物よりシャンだつたです、この當地は浪花節がもてるんだそうで、いゝのがかゝるそうですがどうも怪しいです、鼬甲齋虎丸、吉田奈良丸、東家藥燕のたぐひかも知れないです。

キングコングが今歌舞伎座にかゝつてるです。
長蛇の列を引くこと慶早戰みたいです。
びつくりしてやめて歸つてきたです。

■第三感——鼻——

シヅオカは美女の匂のうすい土地です。
有名な苺は匂はんです、みかんも手にとらねば匂はんです、名代の花火も未だ鼻をつくには至らんです、たゞ僕のうちの兩隣からは毎朝盛んに肥料の匂がするです。

■第四感——口——

割烹—浮月樓、求友亭、佐野春樓　これが代表的であるです。
浮月は慶喜公のおうちだつたそうで東海の名園と號してるです、要するにたゞ廣い庭です、大きな鯉だけが僕には魅力あるのであるです、求友—料理は一番うまいです女中はいゝです、酒も翌日何んともないです、第一離れが澤山庭をかこんでゐていゝ氣分になれるです、佐の春は氣がきいてゐるです、即ち何んにもいらないぜ—なんて地金を出して飲みにゆくのにあつらひむきです。
ハイフキで有名な吐月峰の近くの山腹に待月といふ料理兼—があるです、トロロ汁で名をうつてゐ

るです、庭も自然美です。
トロロも大變うまいです、安倍川を越した郊外です、遠出のつく場所であるです。
も一つトホデの場所に翠紅園があるです。
オリヂナル香水風呂があるそうです。
池川、神田屋　うなぎを食はせるです。
僕はうなぎは病院前の成田屋の方がうまいと思つてるです。
支那料理だつてあるんであるです。
美濃屋あなごや　クーローヨーをうまいと思つて食べたです、鯉は骨つぽかつたです。
一品料理がいゝんだと思つたです。
江戸家といふオデンやを見つけたそうです、蟹かなんかを店先につんで一寸、らしい相です、みかくといふミカドみたいなのがあるです、安いです、日曜日の晝食を大抵こゝからとりよせて食ふです。
ライン喫茶店　に扇子屋といふのが七間町通りにあるです、いつも滿員です。
病院のすぐ近くの外濠の角に白亭といふショーシャな茶亭があるです、十五位の可愛いゝ娘もこのごろニキビが見えてきたです、一寸氣になつてゐるです。

僕は今天ぷらにかつれてゐるです。

みかんは色づいてきたです、苺は十二月にはシャブれるそうです、安倍川餅はあまくないです、どこへいつても茶は細い長いのを使つてゐるですが、ワサビは刺身にもつけてこないです。

■第五感――

シヅオカは氣候のイ、ところ―だそうです、一風呂あびてサテと思ふ頃に風がピッタリとやんで浴後の汗のやり場を失はせる夕凪の苦しさなんていふのは夏の初めにやつてきたわれ〳〵がいけないんだそうです。

シヅオカの眞價は一冬を過してみて始めてわかるんだそうです。だから―今の僕は何もいへんです、ダカラ―今住つてる家には爐がきつてあるです―ナンテ事もいつちやいけないんです。

■第六感――

ジン公はお上品であるです、酒をのまんです、男をあまりに警戒しすぎるです。そのくせとてもよく賣れるです、藝妓家三十七軒、一本百四十名、半三十名、一寸おそくゆくと大概目ぼしいところはお座敷です。

「縣廳といふところは實によくまあ宴會があるです―それにこの土地ではアトクチが殆どきかないです、そのかはり晝間から呼んでゐても夜更け迄どこからも呼び出しの口はかゝらず悠々とお酌してゐてくれるです、八重千代、福松、志郎、浪子、歌子、由喜枝、福龍、糸葉、こゝいらのキレイドコロは足袋を泥だらけにしてもおこらないです、東京にゐた頃の氣分であばれられるです。

ワルテンはゼッタイにない―んだそうです、湖月満月梅月のついてる粹なうちがあるです、けれど「コンドノショチョウハ……アルヨ」であるです。

前述のトロロの待月の女中は自動車の響きでいかなる深夜といへども目をさましお客樣にわざ〳〵戸をたゝかしたことなしと自慢してゐたです。

大變氣のきいた女中であるです。

カッフエーはドッサリあるです、僕はあまり好かんです、それで知らないです。

終りに臨み僕は目下やかましき分宿問題について更に〳〵第六感の研究にふけつてゐるです。

「リテラツールなきアルバイト」の完成は諸兄の御來遊によつてのみいよ〳〵伸展するものと思つてゐるです。

院務を回顧して

勝栗生

樂しかりし都の、親しく交際して下すつた諸兄とお別れして佐藤先生の下、川田、志田兩先輩に從つて當地に參りましてから早や四ヶ月になりました。月日は駿馬の如くと云ひますが、この過去の月日は今回顧すれば短かくもあり、永くも思はれます、先づ平々凡々とやつて來ました。

全く當地に參つた時は諸兄の大集ひから離れて且つ又感激と不安に滿ちた淋しさと何んとなく窮屈な氣持でした。殊に病院の出來上るまでは日赤支部樓上に仕事するでもなしに、集り唯病院が出來ても患者が來るだらうかと心配したり、偶々町へ出ても人に見られる樣な肩凝りする思ひで毎日暮しました。

六月に入つて開院式は迫る、工事は夜業續き愈々明日明後日となつて躍る心は徹夜の機械搬入に慰められました、何にしろ工事は夜十二時まで、しかも入口はコンクリートが乾かないので窓から、午前一時から皆樂しそうに働きました。十一日は開院式、初夏の晴天、クリーム色の病院の一角高く赤十字の旗が紺碧の空になびく此の日は色々の意味で忘れ難くありますが、感激の最高は北島、西野、茂

木の諸先生があの暑さにも又御多忙にも拘はらず、わざ〳〵お出でなすつて下さつた事、又なさけなかつた事は支部なるものに吾々の經驗ない差別待遇を與へられために諸先生諸先輩と祝賀の宴に侍べ得なかつた事だが、今から見れば統べて愉快な記憶です。十九日診療開始までは機械の整理、診察室の机や、衝立や、ベットの配置、外來具そなへ付けの藥品、兎に角少しでも母校外科の面影に近い様にそれだけで暮しました。看護婦諸姉は赤十字生へ抜きであつても學生時代を本社で過した連中ばかり此の連中と呼吸を合はせてもらふ爲めにも可成りの努力を要しました。

愈々十九日朝病院に入る時、玄關に人影が無いので一寸獨りで待合室を覗く氣にもなれず、三階の醫局でも皆不安に滿ちて何んとなくそは〳〵しつゝ定刻勇を鼓して一かたまりに下りて行きましたら數名慣れない目付きではあつたが待合室に見えた時は患者樣々とほつとしました。此頃の勤務は固くなり過ぎた位の緊張で佐藤先生は第一、川田さんは再來、小生は豫診、志田さんは物療と每日々々日增しに多くなる患者を樂しみにして働きました。診療第二日目に外來手術と入院之は子供の「ペリプロ」第三日目に精系水腫の入院をつかまへました、話に依ると母校外科の最初の手術は副睾丸炎の由、甚だ類似の處に吾々の前途の幸を確信して愉快に元氣よく手術場開きをやりました、六月は外來一二三名、入院十一名。八名の入院患者と卅七名の再來を殘して七月に入りました。初めの內は何處でも

そうでせうが永い病氣全治しない病氣が多く、患者は奇想天外の治療をたのみにして來るのが多いんでしたが、日が經つに從つて手術の種類も數も多くなり、どうやら火木土と定めた手術日も明かず外來の所置室のタイルも水に濡れない事は珍らしい樣になり、又金曜日のギプス日もコルセット假り合はせでも何んとかある樣になりました、しかし最もあり得べきアッペは先生のラヂオの放送のありました七月中旬、過ぎからやつと來ました。七月は外來新患二三〇名、入院卅名、八月は午前中の診療で外來新患三〇五名、入院卅九名、諸兄が休暇の樂しさを偲びつゝ每日先生初め一同が朝の入院患者繃交から外來手術と暮しました。此頃から今まで縣下の患者に大部分占められて居た外來が次第に當市の人の數を增して來ました。暑い凌ぎにくい夕凪にあへいだ日から何時とはなしに涼しくなつて、雨降りの日が多くなりこう云ふ日は外來患者も少なく一人二人と數へる日もあり、少し順調過ぎた安心に秋風と共に警告を與へて吳れる樣に感じられ九月は外來新患二五一、入院四六名、十月はそろ〳〵蜜柑が赤くなつて醫者が靑くなり外來新患二二七名、入院三九名、十一月現在では外來新患一〇八名入院二一名、次第に靑さを增して居ります。目下の處入院患者は廿二三名、外來舊患（再來）廿四五名、新患は二三日前から七八名ありまして、兎に角忙しく暮せます、總じて殆ど物療を專門になさなければならないい志田さんを失つて院長、川田さんと共に先づ精一杯にやつて來ました、患者の種類

としては特にお傳へする樣なこともありませんが、外傷、飛び込みは少なく殊に後者は先づ稀有に屬して居ります、比較的多いのは痔核、痔瘻、關節炎それに瘭疽又胃下垂の手術も今日まで四例あり、割に良好な成績を擧げて居ります、今までの處蟲突は廿八、胃癌は五、但し之は総べてプローベに終りました。

餘り面白くないことをくだくだしく書き並べるのもどうかと思ひますから之で失禮致します、今日此頃は天氣晴朗、毎日優雅な白雪の富士を眺めつゝ暮して居ります。

天離る都にしあれど
白雪の富士が峰下暮す樂しも。

熊本便り

竹下貫一

又「刀林」の頃となりましたね、恩師茂木先生始め同窓の諸兄愈々御勇健のことゝ慶賀いたします。昭和五年の初夏信州から再び慶應に歸つて阿部教授の御指導をうけることゝなり、研究室の人となりまして以來「刀林」にも思はざる御無音に過ぎましたが今夏漸く豫定の仕事も終り色々の家庭の都合もあり遂に思出深き東京を去り郷里熊本へ歸りました、そして今さゝやかな病院を建築中です、諸兄が例年の通り恩師を圍みて一夕の謝恩の日の頃には大部分完成しまして開院の準備に忙殺されてゐることゝお思ひ下さい、私が現在に到る迄には色々の事情もあり、色々の事變もありまして恩師茂木先生にも種々御高配を煩しましたが、それらはすべて私一身の事柄でありますので拔にしまして歸國以後のことを申上ます。

夏も間もなくの頃醫局の同窓の諸兄の大勢の方々の御見送りを感謝しつゝ、懷しの東京を去りました熊本へ歸りましてすでに五ヶ月になりますが、私一身上の變化はアッペがなくなり、ヒゲが出來たことであります。

丁度歸國しまして一ヶ月もたゝない或夜、開業のことで終日飛廻つて疲れ切つて就床した夜半、突然腹痛を感じて目が覺めました、ギユーッと締めつけられる樣な腹の中をかき廻される樣な苦しい鈍痛、それが下腹部に感じ廻盲部に感じ、何處と云ふはつきりした處なく何の爲の腹痛か解らずたゞ只事でないと云ふ事だけはすぐさとりました、その内にどうやらアッペだなと云ふ自覺をしたのは丁度夜明の頃でした、アッペならすぐオペラチオンと云ふ風になるのが私共外科醫の考へる當然の順序でありますが、こと吾身に關することでありますから、その決心はつき易くつき難いのであります。當然オペラチオンすべきであつて又しなければならないと充分自覺してゐ乍ら、それぢや頼むと云ひ得ない自分の弱さを叱つたりしました、此んな時茂木先生でもおられてすぐ手術した方がよいと云つて下されば何の躊躇もないのですが、自分で診斷をつけて自分で手術のインヂカチオンを決するのですから恥し乍らそう簡單に行かなかつたのです、漸くオペラチオンすると決心したのが朝の九時頃でした、外科醫であつて化膿したのを持つて行つてはと云ふ痩我慢も手傳つたのですが、遂に熊本醫大の萩原教授にお願ひしました、私の一番下の弟が萩原外科にゐる關係もありましやうが、醫局員總動員の下に萩原教授も特に丁寧にやられた樣でした。

慶應外科茂木先生の弟子だと云ふ意識も多分にあつたことゝ思ひます、けれども當人たるや手術室

に這入る迄は糞度胸をすえてゐましたが腹膜を開いた頃から遂に悲鳴を擧げました、自分乍ら案外弱蟲だと思ひました、勿論ロカールアネステヂーがうまく行つてゐなかつた樣でした、腹膜鉗子で挾まれた時の火のついた樣な痛みは今尙感じられます、そう云ふ事で遂にナルコーゼの厄介になつたことは申す迄もありません、もう一二ヶ月早く發病したら茂木先生にお願ひ出來たものをと、くやしく思ひました、けれども一方又自分自身の勉强の爲には大變都合がよろしかつたと思つてゐます、兎に角他流試合に自分自身をぶつつけて見たのですから、そんな餘興入りの開業準備ですから進まないこと甚だしいのです、やつと開業地を選定し、工事にかゝつたのが九月の半ばでした、現在は天候に惠まれ工事も着々進行してゐますので豫定の今年末には完成すると思つてゐます。

當熊本市は人口十八萬餘り、全國都市の何處とも同樣開業醫の洪水は申す迄もありません、ことに前身熊本醫專並に縣立病院、今の熊本醫大及附屬病院があり、地元の關係上開業醫の大部分は前身醫專及醫大出身者であります、從つて當然その勢力も甚大であります、他は九州及長崎の醫大の勢力下で慶應は殘念乍ら遠く及びません、けれども故北里先生の出身地でありますので醫師團並に智識階級には新進慶應の名は相當に親しみと尊敬を以て迎えられ、ボツ〳〵慶應三色旗の色彩も輝かしいものになることゝ思ひます、現に吾が一回生小兒科の蓑田君が開業され天草には三回生の北内君及び大谷君

が開業され、又慶應關係には眼科の行德君、近く婦人科の江副君（舊佐野）が開業されたので當熊本も益々慶應の勢力が延びて行くこと丶思ひます。小輩も及ず乍ら渾身の勇を振ひ吾が慶應茂木先生の率る外科の名譽にかけて努力を續けて行きたいと決心してゐます。

熊本は東京に較ぶれば大分暖かく感じます。

觀光地九州、どうぞ一度はお遊びにお出掛下さい、終りに茂木先生の御健康と同窓各位の御發展とを祈ります。

—阿蘇の噴煙のたなびく處—　・一一、一〇記

小樽だより

太郎生

北海の港小樽に來てから三年になる。其の間に感じた事どもを辿つて見よう。

小樽は港町である。東北に石狩灣を望み、後三方は山から圍れて居る。人口十五萬、猫の額の様な低地に密集した町でドス黒いゴミ〳〵とした坂の多い町である。函館と共に北海道、樺太、カムチヤツカの物資集散地である。町はドス黒いが綠の山に圍れた青い海に巨船の浮ぶ景色は珍しい。冷凍船、蟹工船、材木船、石炭船、重油船、青筒、赤い國の船、北洋警備の驅逐艦、碎氷艦等が出入する。

小樽には大した名所も名物もない。歷史が淺いからであらう。手宮の古代文字、コールバイヤー、天狗山、公園、水天宮、製鑵位のものである。近郊には追分に名高い忍路高島があるが今は淋しい漁村である。オタモイ、赤岩、桃内、積丹、張碓の嶮がある。透き通つた海、昆布の搖ぐ美しい海底、斷崖、絶壁のコンビである。溫泉定山溪も近い。

小樽は金融、商業の中心地で石炭、材木、海産、雜穀を主なるものとし一般に商人氣質で手術料等ショッチウ値切られる。近來カフエーが增へたが昔乍らのマドロス相手のゴケヤは全市に網を擴げて

居る。

北海道の春は鰊からと言はれて居る。鰊の事を春告魚と言ふ。北海道の漁業の概ねは鰊である。鮭、鱒、蟹、昆布も有名であるが鰊を除いて北海道を語る事はできない。山々の雪も鹿の子に春の暖みに解け始める頃、鰊は大擧して小樽近海に產卵の爲に押し寄せて來る。海の色がすつかり變つてしまう。一夜にして何十萬石となく獲れる。漁村も町も鰊で埋つて臭くなる。生鰊は仲々うまいものであるが大部分は身缺か肥料にする。

鰊が過ぎれば雪は解け去り、山々の草木は若葉に青々として半年の雪から開放された人で町は活氣を呈する。

五月半になると梅、櫻、桃は一勢に花を附ける。公園の夜櫻に徹宵飮みあかす人が多い。

次で鈴蘭は野に一面に唉く。馥郁たる花の中に摘む乙女の姿は亦似合はしいものである。

丁度浮間ヶ原の櫻草に似てもつと雄大で高尙なものだ、安平、早來、島松等千歳川の上流附近に多い。

六月も過ぎれば櫻桃、苺に親しむ。

七月半の住吉神社のお祭は全市お祭氣分で、曲馬團や見世物が出て田舍染みた氣分のするものである。

雪が解けて錢函の濱に芝は青々と雲雀は天高く囀る頃、スキーを片附けた私共はゴルフに出掛ける。手稻の山々に白く頂く雪も日々に消えて七月にはなくなる。スキーヤーとゴルファーとが錢函驛で落ち合ふのも珍しい對照である。病院のゴルファーは五人で山本、青木、神岡、戸張、井上で病院や三田會、倶樂部トーナメントに皆活躍して居る。三年もやつて居るがハンディ廿四にやつとなつた。ゴルフは仲々面白いものだ。止められない。雪のない休みの日には必ず錢函リンクスで白い球を飛ばして居る。夏になれば幾ら北海道でも海水浴はやれる。日曜はゴルフで惜しいのでウイークデーに毎日病院が引けてから近くの熊碓や鹽谷海岸にバスで行つて一浴び浴びる。寒いので焚火をして入る。海は實に綺麗である。透き通つた海底に昆布が一面に生へてゐる。潛水はガンゼ、海鼠、鮑、シヲリ貝等が獲れる。小樽近海は太公望の多い所である。磯釣ならアブラコ、ソイ、カレイ、カジカ、サバ等川ならヤマベ、鮎、ウグヒ、イトウ等が釣れる。海水浴の期間は極めて短く半月位しかない。北極に近いせいか夏はとても早く夜が明ける。錢函のクラブハウスに泊れば三時半頃より八時頃迄リンクスを廻つてから出勤に間に合ふ。夜は四時から九時頃迄海で遊ぶ。眞夏の樺太を訪れた事があるが冬服でストーブを焚いて居た。

秋が訪れる。氣溫が日増しに下る。北海道の紅葉は綺麗だ。濶葉樹が紅葉する。イタヤ楓は眞赤に

なる。木の種類が多いから赤紅葉する程度が異なり秋の定山溪、水源地、天狗山は錦の様である。其頃余市の林檎、ヒメンココクワ、山葡萄が盛りとなる。小供の頭程ある十九號の味は亦格別である。コクワや山葡萄を熊は盛んに溜め込む。冬籠りの食糧である。山にも凶作の訪れる時は熊は里に出沒する。

秋雨はやがて霙や霰となる頃、北見や石狩には鮭が獲れる。石狩の鮭網を見たが網にポン〱跳ね返へる鮭を樫の棒で毆り殺す。鼻曲りの石狩鮭は日本一である。筋子の生を毎日食へる。鮭の三平亦北海の珍味である。鰊と筋子と鮭の三平の味を覺えたら内地には歸られぬと言はれてゐる。

やがて十一月に入れば雪は訪れる。今年の初雪は十月廿四日であつたが十一月には山は眞白になつてしまつた。小樽は半年冬である。十一月から四月迄は雪に閉されてしまう。越年が來たと言ふ。北海道のうちは何處でも爐が切つてある。赤い炭火のおこつてゐる上には色々な彫刻を施し磨き上げた自在鍵に南部の鐵瓶が掛つて居る。爐の廻りには綺麗な玉砂利を敷きつめてお茶の道具が並んで居る。雪が降つて來ると爐では過せない。何處でもストーブを焚く。客間、居間、臺所と三つ位は必ずある。小供は冬になると喜ぶ家には居ない。粉雪吹く戸外の坂道でスキー、橇スケートに終日興じて居る。小供等の進歩は早い。學校にも上らない小さい奴がクリスチャニャやジャムプを手もなくやつて居る。

雪の降り始めには聖ヶ岡、公園、金比羅廻りで主にゲレンデをやるが少し積つて來れば天狗山に登る。五百米位の山であるが危險な所もなく二時間半位の面白いコースなので一シーズン中二十回は登る。病院の黒板に本日天狗登山一時聖ヶ岡集合と出ると皆集る。リユツクを背負つて一列になつてチツクサツクを作り乍ら天狗に登り拾古發から一氣呵成に下る。ウイークデーには朝六時に起きて天狗山へ登り一滑りして九時には病院に出る。

各日曜はスキー俱樂部のスケジユールに依つて方々の山を歩く。大抵のコースは行つて見た。ワイスホルン、ニセコアン、遙山、手稻岳、奥手稻岳、札幌岳、無意根岳、朝里岳等々各山皆異つた味を持つて居る。

北海道の冬は極めて寒い。從つて雪質は非常に善くワツクスは善く効く。山頂には海豹を取り粉雪を蹴つて白樺、エゾ松の森を縫ふて銀盤にスプールを描く快味は北海道でなくては味はれぬと思ふ。

雪は一月二月が善い。

小樽の街の女は角卷にベール、雪下駄、仲々善いものである。

小樽の言葉は荒い東京辯であるがローカルな面白い熟語がある。「今日山さ行つたら途中でお腹がニヤ〳〵して來るし足はヤメるし散々カツパ返へつたのでゴツペ返した、アーユルクナイ、アメタ、

アメタ」等。

小樽病院

小樽病院は靜岡の出來る迄は唯一の慶應の地盤であつた。先輩の後を繼いで私は此處に來た。三十年も經た歷史的病院である。從つて古色蒼然として餘り綺麗でない。場所は小樽の中央にあるが閑靜すぎる傾向がある。

慶應系になつてから十年近く經つ。奥田、關、岡本院長と續き、外科は張谷、駒井、關、山本、井上と續いてゐる。現在總員十二名、十名は慶應である。內科、岡本院長、追川(五)小川(六)外科、山本副院長(一)井上(七)婦人科、青木(二)國分(七)小兒科、神岡(四)皮膚科、戸張(七)耳鼻科中澤(九)ベット百五十、外來二百、プレ六十名、昭和三年以來市立病院となつた。病院の成績は良好である。

當外科一年間の患者統計を取つて見たが、外來千七百、入患四百名で入患は小樽市內の者約七割で市外は小樽より西の方余市積丹、倶知安島方面が主である。特別仕立の發動機で來るものもある。外來患者は大部分は小樽のものであるが三時間位も汽車に乘つて每日通ふのもある。何處でも相であらうが春夏は忙しいが秋冬は閑散である。北海道は健康地と言はれてゐるが餘り珍しい病氣もない。肛

門疾患を當地ではガッチャキとして恐れ速に手術する習慣があるので一番多い。次はアッペ、外傷、化膿性疾患、其他である。時にはアイヌが入院する事もある。

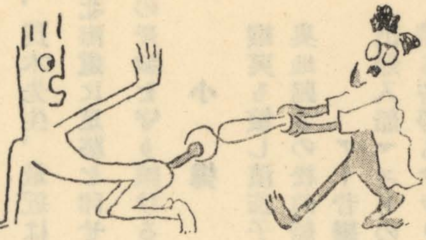
昨夏は札幌に學會があつたので皮膚科、小兒科、婦人科の御歴々大擧して訪れて下さつた。北島先生、茂木先生、最近は秦先生を迎へて一夕の宴を張り樂しい追憶に浸つた。吾々は其度に喜び、昔を偲び北海道に足跡を印せらるゝ慶應の方々は必ず當地を訪れて下さつた。北の牙城を守り續ける努力と勇氣を新しくする事が出來た。

小樽小唄

蝦夷も懐し濱茄子咲いて　ピリカメノコの濱踊り
奥地歸りの松前船も　神威岬が越えらりよか
ア—昔戀しい　小樽の港
出船入船マストの林　通ふ艪の音　唄の聲
積る苦勞もサラリと消えて　影も二つの顔と顔
ア—戀のマドロス　小樽の港
ヤン衆、工船、樺太稼ぎ　汽笛が鳴ります　蒲鹽通ひ
永い船路の疲れも消えて　北海のオアシス夢の街
ア—灯影懐し　小樽の港

K・I・生

田舍醫者平々凡々で毎日を送つてゐるので御報告申上げる程の種もありません。最近出會つた珍談二つ筆にまかせて書き列べます。



臂に材木の刺つた話

この數日來非常に忙しかつたので疲れたと云ふ理由(?)で夕方から一寸暇を見て院内の數人と附近の料亭に息拔きに出かけてゐた。

一杯飮んで陶然としてゐると病院から外傷の患者が來たから直ぐ歸つてくれと云ふ電話。外傷では捨て置かれまいと赤い顔を擦りながら急いで歸つて見ると病院の門前に一臺のトラックが停つてゐる。

診察室では五、六人の土工風の男が寢臺の上にねかされた患者に何かわめいてゐる。

附添つて來た洋服男を呼んで聽いて見ると○○峠の道路工事中、山崩れのため土砂と共に數十尺の谷底に墜落埋沒したのを掘り出して某醫の應急手當を受けて直ちに來院したのだと云ふ。

洋服男は更に語を繼いで患者の臀部に大きな材木が刺つてゐて引張つても仲々拔けないから至急取つて貰ひ度いと云ふ。

型の如く患者を診察するに體格中等大筋骨逞しい三十男、多少興奮してゐるが意識明瞭、脈搏は幾分速いが緊張はよく正調其他の胸腹部內臓に著變を認めない。顏面、手足に處々多少の擦過傷あるも大した事はないらしい。

一番患者の苦痛を訴へる左臀部を診ると洋服男の云つた樣に成程土砂に塗れた一本の旗竿程の太さの棒が左臀部から斜に內下方に突きさゝつて上端が二寸程皮膚外に頸を出してゐる。大腿の下約三分の一の部で皮膚が非常に凹んでゐる。變な事があるものだと大腿下部を調べて見ると、

前記の土砂に塗れた材木の樣な部分をよく洗つて診ると骨だ。大腿骨の頸部の骨折なのだ。折れた下端が軟部を突き破つて臀部の皮膚外に約二寸も飛び出して創及び骨は全く砂に被はれてゐたので一寸何んだか解り兼ねたのだ。

土工達が臀に材木が刺つたと思つて引張つたのも無理はない。

一寸珍らしい外傷でした。

飲み違ひ

本縣は廢娼の魁として全國に其範を垂れてゐる……と云ふと如何にも尤もらしく聞へるが實は公娼がない代りに私娼が非常に發達してゐる。

この話の主人公も其の私娼窟の女である。

この數日來肩胛部の筋炎で通院中の彼女が歸り際に受付の窓口から覗いて子宮の藥をくれと賴んだ。受付氏は心得て先生膣球が欲しいと云ふ云ですがと僕に傳へた。

こんな場合毎週一回の檢診は當病院で行つてゐることなので彼女達であれば大抵樣子が解つてゐるので時に膣球等は診察せずに與へる事もある。

丁度此日も非常に忙しかつたので受付氏の云ふ儘にワギノール五個を與へた。

二日許り何の事もなく過ぎ僕も彼女に膣球を與へた事など忘れてゐた。

すると三日許りすぎた或日彼女が繃帶交換を終つて診察室を出際に、先生先日の藥を飲んだが下腹の痛いのはまだ少しも癒りませんと云ふ。

僕は彼女の腹痛を診察したこともなければ、まして腹痛に對する內服藥の投與等した憶がないので一寸何と返答してよいやら迷つた。

すると看護婦が傍から先生先日膣球を與へましたがと云ふ。僕ははつと思つた。同時に吹き出し度くなつたが彼女も僕と看護婦の顏を見較べて薄々氣付いたらしく赤い顏をして俯いてしまつたので、僕も此れ以上たしかに上の口から飮んだかと聞き直す勇氣もなく氣まり惡さうに診察室を出て行く彼女を見送つた。

× × × ×

後から氣付いた事なのだが彼女等の仲間では下腹痛は子宮病から來るものと思ひ込んでゐるので、下腹痛の時は子宮の藥を服めばよいと思つてゐるらしい。とんだ失敗でした。

開業醫

S・M・生

今夏の約二十日間を甲府で暮した。或る病院の留守番を頼まれたのである。要するに開業醫をやつたわけである。道樂半分でやつてゐるお醫者様ならいざ知らず收入問題は絶對必要條件であるはずである。從つていろ〳〵の面白い失敗經驗が出來た。

外科病院では外來など問題に成らぬ、入院手術の多い事が第一條件でなければならぬ。所が地方によつては大物は仲々外科醫を訪れない大抵内科醫に取られる、從つて先づ小外科特に外傷專門と云つた樣な看板になるわけである。甲州は隨分氣の荒い所である外傷患者が必ず一日二三人は來た此れが誠に有難いお客樣である。殊に頭の傷でもあれば出血甚しい。傷口何寸深さ骨膜に達するとか云つて翌朝の紙上をにぎわすものでも處置は至つて簡單である。不完全の消毒でも有難い事には決して化膿しない、一針一圓位頂戴しても患者の方では決して不服ではないらしい、特別細く縫合するわけではないが先づ六、七圓は取れる。所が時によるといろ〳〵の牽制を受ける、それは診斷書の場合である全治二週間以上と以内では加害者の處分に大分影響があるらしい。そこで腕まくりの荒くれ男に二週

間以内の診斷書を强要される事がある。一寸いやなものである甲府の近くに古川と云ふ町がある。此の町のお祭りに警官と靑年が衝突した。靑年連中全部が拘留をくらつたおまけに留置場で散々なぐられたらしい。所が古川のお醫者さんは一人として診斷書を書かない僕の所へ持ち込まれて閉口した。世渡りも難しきかなと思つた。

或る時六、七里も在の田舍からスカビエスの患者が來た、丁度藥局にミチガールが無かつたので、紙片に書いて藥屋で買つてつける樣に話した、自分では親切のつもりである、所が散々泣かれて愚痴を言はれた。患者の心理を解せざるも甚しと深く恥入つた。醫局では少いが地方では筋炎が中々多い、多發性の筋炎で死亡する場合が隨分あると聞かされた、所が膿がたまつてゐるか、ゐないかと云ふ事を馬鹿に念を入れて聞かれる、たまつてゐると言つても、どうしても見ないと承知出來ないらしい。こんな事が醫者の名聲に關係あるらしい。そこで家族の前で切開するのであるが切開する方でも膿を出すまでびく〳〵ものである、五圓の切開料を頂戴するのにも汗だく〳〵である。

或る時陰囊水腫の患者が來た。田舍のお醫者樣に見せたら若し明朝までに小さく、成れば脫腸であるが小さくならなければ陰囊水腫であると言はれたと云ふクラーゲである、成程開業醫の名診斷ぶりであると感服した。

時々往診がある、仲々いやなものである、一度カルモチン自殺未遂患者によばれた。いつ頃目をさますかと念入りに聞かれた時には冷汗を流した。でたら目が適中した時にはほんとにほつとした。

一番困つたのは子供の病氣である例へわからなくとも、わかつた樣な顏をしなくてはいけないんださうである、所がどうしても腑に落ちない場合があつた。不安の顏付きを見ぬかれたらしい、一度で來なくなつた、一寸憂鬱なものである、健康保險と云ふ誠に厄介のものがある、手數だけ掛つて實收のないものである、甲府は有名の機業地である、從つて健康保險の大部分は女工さんであるが大抵瘭疽である、女工の瘭疽は糸の性質と深い關係があるらしい。一名女工仲間では「ヨリ」と稱してゐる、一番多いのは右の示指である、季節とは無關係らしい。

大抵夜分工場歸りに來る從つて一日暇と云ふものがない、暑い關係もあるが寢るのは十二時頃になる、床に入ると近くの料亭から三味が聞えて來る、甲府は割合派手の町である、いろ〳〵耳に入らぬではないが落ち付きを見せてゐた、僅か十五日間ではあつたが約八十名の新患を見た。只一人僕の顏を見ただけで歸つた。患者があつた。終日不愉快であつた勿論僕の風采甚だ上らざるが爲めである。年齡、風采、開業の必要條件であるはずである。（一九三三、一一、一七）

日立便り

濱名元中

なつかしい醫局を去つてからもう半ヶ月になりました、段々「自分は赴任したのだな」と云ふ氣分に成つて來ました。此の數日は平然として初診も出來れば往診もします。そして看護婦講習生の前で講義さへします。手の洗ひ方だの手術野の消毒法なんかをしやべつてますと醫局の先生の口眞似の樣になつておかしくなる時があります。外來患者が居らなくなつた時や特診の居ない當直の夜はことに醫局がしのばれます。窓を明けても鼻の先に山があつて四谷の空も町の灯も見えません。ラヂオを聞いたり、動物園の何かの樣にポケットに手を入れて廊下を行き來します。赴任以來患者に醫師に又看護婦に對して何時でも自分のどこかに「慶應外科教室製」とレッテルがある樣に感ぜられてなりません。醫局の名をけがさない樣しつかり奮鬪するつもりです。まだ面白い話はありません。唯一つ失敗談を申上ます。

十一月九日　患者　五歳の女　今朝より左の手があがらない、お母さんは腕關節の近くが痛がる樣ですと云ふ。診ても分らない。着物をぬがせてバッシーヴに腕をあげて見るとたやすく出來る。異狀

はなさゝうだ。そこで一つの空箱（ゴノコクチゲン）を出したが左の手にはとらない。段々肘關節の方をふれてみるとどうやら形が少し變だ。こりや若しかするとズヴルクサチォンでは無いかと考へただが初めての經驗どうして整復するのか分らない。茂木先生の下卷は目の前にあるのだが、大勢の患者のとりまきの手前そう容易にも見られない。まゝよと思つて即席の自己流整復法を試みた。引いて伸ばして曲げる。子供は泣きだす。困つた。待て待て落付けともう一度やる。子供は大きな涙をボロボロさせて泣く。と關節のかつこうが少し變つた。骨が折れた樣でもなし、だが依然として「いたいいたい」と云ふ。勇氣を出して本を見る決心をきめ、今なほるから一寸そこへ寢てみなさいと云つて隣のベットにねかせた。本を手にとると子供が後から箱をくれと云ふ。箱を持つた子供は兩手でおもちやにしはじめる。そこで半信半疑「どうだなほつたらう」と云ふてみたら、子供は「うん先生がなほしたからえたかね」と云ふ。そして皆から禮を云はれて面くらつたのは新來の先生(?)でした。子供はゴノコクチゲンの箱をうれしさうに持つて歸つた。何だか狐にばかされた樣だ。こんな時には早く本を見た方がいゝなと思ひました。これからはよく勉强してこんな又これ以上の失敗を少くしたいと思つてます。

皆さまの御壯健を祈ります。氣がむきましたら日立へもおこし下さい。お待ちして居ます。十一月十三日

會員近況

○　　　　　　　　　　柳　壯　一

拜復　貴局御一同茂木先生を初め皆様御健勝の由何よりの御事と存じ候、小生も相變らず元氣にて、心もちだけは若く暮し居り候間乍他事御休神被下度、愈々スキーのシーズンに入り皆雪を待ちこがれ居り候。

○　　　　　　　　　　大　庭　國　紀

その後は御ぶさたいたしました。

御一同御達者なによりと存じ上げます。

本年九月で開院五周年を迎へました、これ偏に恩師先輩諸兄の賜と深謝してゐます。

國家非常時醫家また轉向非常時。

御一同の御健康御奮闘一番を祈ります。

○　　　　　　　　　　梅　村　六　郎

「醫者の運動」

君子は爭ふ所なし、必ずや射か、と云ふほどの理由でもありませんが、私は此所三、四年弓を引いて居ます、揖

議して升下し、而して飲む、其味は忘れられないです。春夏秋冬の風光を帯びる朝庭に立つて弓を片手に無念の境に遊ぶその味も亦忘れられないです。動もすれば墮落の淵に陷り易い開業醫にとりて、弓は精神的に肉體的に何よりのものかと思ひます。

○

戸田四郎平

拜啓　刀林發行の勞を多謝いたします。

小生も小田原に來て四年になりました。醫局に居る時は左程にも思ひませんでしたが、田舍へ來てからは月日のたつのが馬鹿に早く感ぜられます。明年四〇となります。こんな狀態でいつまで働くのか考へさせられます。田舍に居ると Reiz がなく頭は空虛です。幸に家族一同無事な事を何よりと思ひます。

○

赤松常信

外科教室益々發展大慶の至です。

慾を云へば頭のある人がうんと勉强してもつと「アルバイト」を出して貰ひたい、學界に認められない教室出身者は肩身が狹い。

小生開業滿二年すつかり田醫になつた、勉强とても出來ず、雜誌を讀んで大勢に後れない樣にしてるだけだ。大分世間には馴れて來た、世渡りもうまくなつた。

醫局に居て世間見ずに理論を振り廻し理屈云つてた時が純で一入懐しい。

同窓會諸兄に此機會に敬意を表し併せて健康を祈る。

○　　　　　　山　本　　　順

拜復外科醫局益々御隆盛の段奉慶賀候。

先日上京の際は御歡待に預り御禮申上候。

當地は十月廿四日初雪を見し有様流石奥地の冬の訪れは早きものに候「スキーシーズン」も漸く迫り院内にてもこれが漸く話題を賑はし居り候。小生も當地に參りてより子供一人增加合計五人（女二人男三人）と相成り候。親父はなか〳〵ツライものに候。

先は右簡單ながら近況御報告申上候。

○　　　　　　關　市　　　衞

御返事遲延御申譯無之候。

老生並に家族一同無事にて暮し居候。

醫院の方も一人仕事には丁度よい位の者に有之候が入院あるため思ふ樣に外出不出來何方樣へも御無沙汰計り致して居り候。

○　　　　今井金治

拜呈　冷しい秋になりました、先生をはじめ醫局の皆様には相變らず元氣の事と存じます。
私もこゝに來てから、もう八ケ月になります。永く都に居たゝめ來た當時は非常に淋しく感じましたが、此頃はもうすつかり馴れて、自動車の窓から四方山の紅葉を眺めながら往診出來る呑氣さに滿足して暮して居ります。
病院の方は御蔭で相當繁昌して居ります。時々困る患者があると慶應病院に紹介して見て頂いて居ります。
何か面白い材料が見付かりましたら會誌に載せて頂く樣後から御送りいたします。　頓首

○　　　　篠原靜夫

每度御無沙汰致しまして、申譯ありません。
同窓會諸兄、相變らず御元氣にて御奮鬪のこと結構と存じます。小生は勤め人とも開業醫ともつかぬ生活を致して居ります。近々に當地に病院を始めようかと只今計畫中であります。其節は亦詳しくお報らせ致しますが今から皆樣の御援助をお願致しておきます。
茂木先生初め皆樣の御健康と、刀林の健かな成長をお祈り致します。

○　　　　牛久昇治

いつも御無沙汰ばかりで失禮して居ります。大連に來てから滿一年になり、當地の生活にも慣れ、氣候にもすつかり自信が付きました。

その後お蔭で家族一同無事、小生も益々元氣で病院の方も相變らず忙しく働いて居ります、醫局よりの便りを何よりも樂しみに待つて居ります。

茂木先生始め醫局各位の御健康を祈ります。

○　佐藤太平

拜復　其後は思ひながら失禮仕り候。

仰せに從ひ何かその内御寄稿申し上げ度く存じ居り候。

右御返事迄。　敬具

○　大曾根幾次郎

八月初旬から急に横濱の山下病院へ來ることになり、住所も本牧へ移して了ひました。當病院は市井一般の夫とは大部異つた色彩を持つて居りますので最初は勝手が判らず些か弱りましたが、幸に森豊明君が先任して居られたので非常に心丈夫でもあり愉快に働く事も出來ます。永い間には色々な珍談やら失敗談やらが出て來る事と思ひますが兎に角最善を盡してやつて見る積りです。

○　濱野碩太郎

誠に御無沙汰に打ち過ぎまして申譯御座居ませんが、茂木先生を始め皆々樣御機嫌麗はしき御事と拜察します。

本年八月より下記の處に轉居いたし、主として外科をやることゝ相成り年來の希望を一部達しました譯です、刀林

を通じ皆々様へ宜敷願ひ上げます。（略）

○　　　　　　　　渡邊治生

今年は鹽入川でハゼが釣れます。陽溜りで糸を垂れて居ると暑い程です。房州の冬は暖かなのが結構です。その代り紅葉はありません。

飛行機の飛ぶ下を自轉車で病院に通つてます。房州秋刀魚に油の乗らないのが殘念です。

お正月になると年齢を一つとります。他に變つたことはありません。

○　　　　　　　　原廣治

拜啓時下秋冷之砌皆々様愈々御清祥奉賀候陳者小生恩賜財團濟生會神奈川縣病院奉職以來既に一星霜を經申候その間先生はじめ醫局各位ことに八回生諸兄の御援助の下に着々病院改善の歩を進め居り候ことを深く感謝致し居り候。何卒今後とも一層の御援助御鞭韃相願度病院の情況に就ては森山君より詳細御報導の事と存じ先は不敢取右御報告まで。

○　　　　　　　　佐藤盛二

醫局各位の御多幸を衷心御慶び申し上げます。私は御蔭様で無異、平凡ですが、患者を見たり、讀書をしたりして居ります。この五月から四ケ月ばかり大阪と京都に旅行して、主に皮膚泌尿器科を視て參りました。近來は又勉強する事が興味になりました。又醫局へでも入つて勉強して見たい様な。

關西で嬉しかつたのは慶應醫學の聲價の擧つてゐる事でした、茂木先生の本を某醫科の學生が、こぞつて指定敎科書の様に讀んでゐるのを見ました時は、何とも云へぬ誇らしい氣持に打たれました。私は今横濱市の中央尾上町三ノ三六の分院で患者を診ております。

○　　吉野史朗

謹啓　秋冷の候醫局諸先生様益々精勵の段慶賀至極に御座候。例年の通り刀林發行の趣御通知に接し申候共御報告申上ぐべき事も無之恐縮の至に御座候。

小生も離京以來幸ひ健康にて業務に精進致し居る次第に御座候間御安心被下度。

在局中の事を思ひ懷舊の情に堪へず候。

諸先生の御健康を祈り申候。

家庭は妻なし息なし。

葉は落ちて　鈴なり柿や秋深し

露草のしほれて野分の風淋し

○　　松井八郎

拜啓　刀林の御發行を祝し併而各位の御健康を祈り申候。

小生相變らず勤務に忙殺せられ患者を退院せしむる事にのみ專念致し居り候。退院のみを考へる等一寸他にては

見られざる別天地に御座候。

本年一月林君の凱旋を迎へ君の健康を祝して間もなく左下腿骨折にて入院する身と相成り候。骨折の體驗は餘り感心するものに御座なく候へ共「骨折つてから、骨折の治療が甘くなつた」位が取り柄にて、「二糎位の短縮は跛行せず」身を以て證明仕り候。天氣豫報には稍遠しと雖ども天氣の變り目等には疼痛をまし居り候。

又日本國民を一名增加致しこの春には二人して百日咳を患ひ閉口仕り候。

以上相變らずの甚だ僅少と相成り候へ共、目下は一同頑健にて冬籠りの準備致し居り候。

終りに外科整形外科醫局並同窓會各位の益々御發展を祈り居り候。

○

井上太郎

御無沙汰しました。醫局の諸先生御元氣の事と思ひます。近況を御報せします。十一月三日ゴルフのトーナメントあり、病院より山本、青木、神岡、戸張、井上と錢函へ行きましたが、ヒドイ吹雪でどうにもならず空しく歸りました。山は眞白でスキーが出來ます。ストーブがなくては寒くて仕方ありません。當夜は三田會あり出席者多く盛會でした、病院の方はクランケは幾らか減りましたが季節的關係で仕方ありません、もう近い中にスキーが始められると思ひます。

○

吉岡勝衞

拝啓　御無沙汰して申譯ございません。

醫局の皆樣益々御元氣にて活躍のこと丶存じます、小生も田舍に來て、そろ〳〵三年相變らず、平凡の生活を續けております。そろ〳〵都が戀しくなりました。

信州の秋は最盛りにて碓井峠の紅葉も見頃です。

御閑暇には御來遊下さい。

末筆ながら先生はじめ醫局御一同樣の御健康を祈ります。　匆々

○　中村廣人

御葉書有難く拜見致しました。

其後醫局の皆々樣も御元氣に御活動の事と存じます。東京を離れて早や一年、伊豆の片田舍での生活は文字通りのランドアルツトになり切つて凡そ十年以上も後れて居るだらう所のこの土地の文化に向つて多少なりとも向上の道を採らうと覺悟をして居ますが、未が薄才微力恥しながら何一つとして仕事らしい仕事もせず無爲に暮して居ます。刀林發刊を千秋の想ひで待つて居ます。

皆樣に宜しく。

○　加藤銀治郎

醫局離れて一年半御無沙汰のみして居ます、滿蒙の防疫に毎年派遣される同窓生視察に來られた諸先生等から醫局の動靜を伺ひ雜誌から諸兄の元氣を推察して居ます。只今住んで居る小平島は大連と四里離れて居るので大連へ

出る事も容易でなく、病人相手に雜務に追はれて滿足して居ます。內地から滿洲と云へば、何處でも活氣に滿ちた寧ろ殺氣の溢れた所の樣に思ふでせうがそんな所は新京、奉天或は最前線だけの話、大連なんて、燈臺下暗しと云ふのか、太平樂です、刺戟が欲しい位です。人生のロングコース、只ネバリあるのみと思つて居ます。醫局諸氏の御健康と活潑なる御研究の發表を心から御待ちして居ます。

○　　富田勝郎

拜復先日は刀林發行に際しわざ〳〵御來信を頂き恐縮の至りです。何時も思ひながら遂々御無音に打ち過ぎ申譯ありません。茂木先生始め醫局諸先生には愈々御元氣で御過しの御樣子遙かに御喜び申述べます。古き言ながら、月日の經つのは早いもの小生當地に參りましてから丁度一年、すつかりランドアルツトになつて仕舞ひました、未だ思ひながら一度も上京の機なく寓舍の一室で過ぎし醫局時代の懷しい思ひ出にふける事がしば〳〵です。

刀林御發行に際し何か是非のせて頂き度く存じて居りますが、何分筆が動かず唯焦燥の氣のみ殘念ながら御無沙汰御詫びだけで失禮致します。例に依り見事な刀林の御惠送を樂しみに致して居ります。末筆ながら諸先生の御健康を祈り上げます。

○　　小方則太郎

永らく御無沙汰致しました。

先生始め諸兄には益々御元氣のことゝ存じます。

當地に參りまして最早一年半すつかり土地のものになつてズウ〳〵が珍らしくなくなつたのには、いさゝか悲觀してゐます。

先日婦人科の戸野原先生が來られて村上先生と小生と三人になりました、その外五所川原に三田會があつて同勢十餘人時々集つて「若き血」を唱つては飲んでゐます。

末筆ながら皆樣の御健康を祈ります。

○ 辻岡元

前略　御返事遲れ申譯無之候

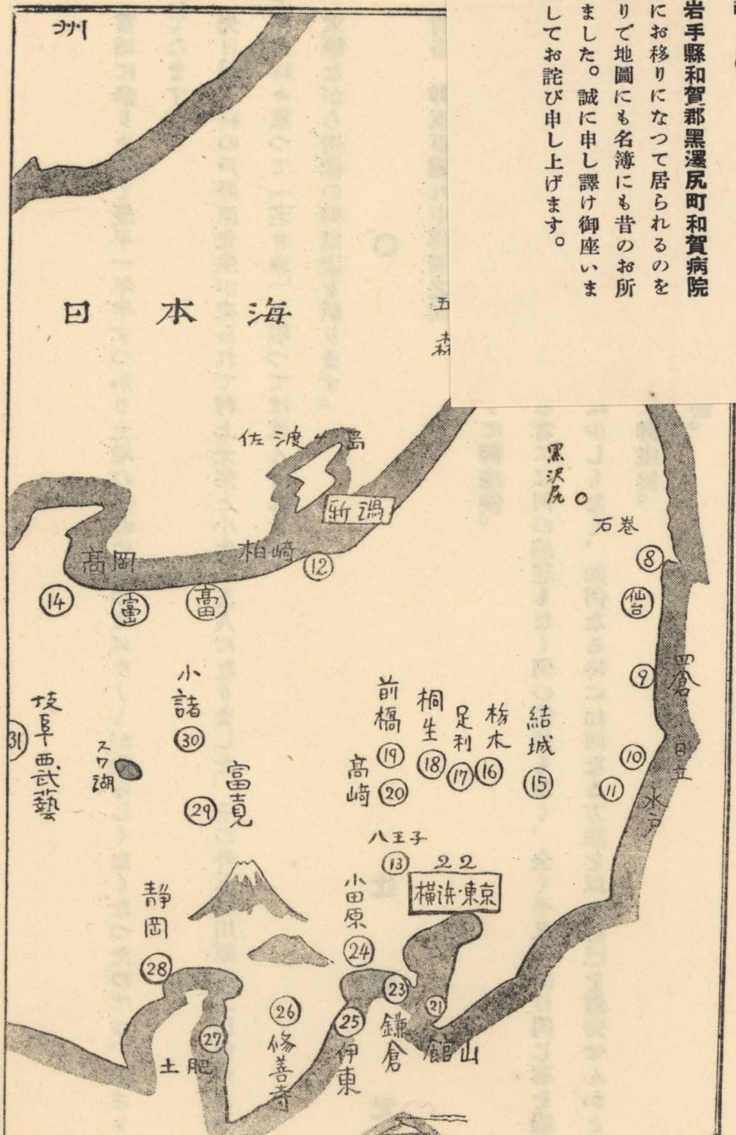
醫局諸先生益々御發展の由大慶の至りに御座候。

醫局を去り開業の爲全力を盡して居る者には何の感想もなく何の情操もなく、全く平凡に毎日同じ事を繰返し醫局に居る時の樣な「ホガラカ」な氣分は少しもなく、如何なる時に如何なる方法を以て自己を慰安せんかと考へるのみにて他に慾心無之全く汗顏の至りに御座候。

何れ各位の御力添へを御願ひ申し上候。

末筆ながら茂木先生始め各先生の御健康を御祈り申上候。

(60頁へ續く)



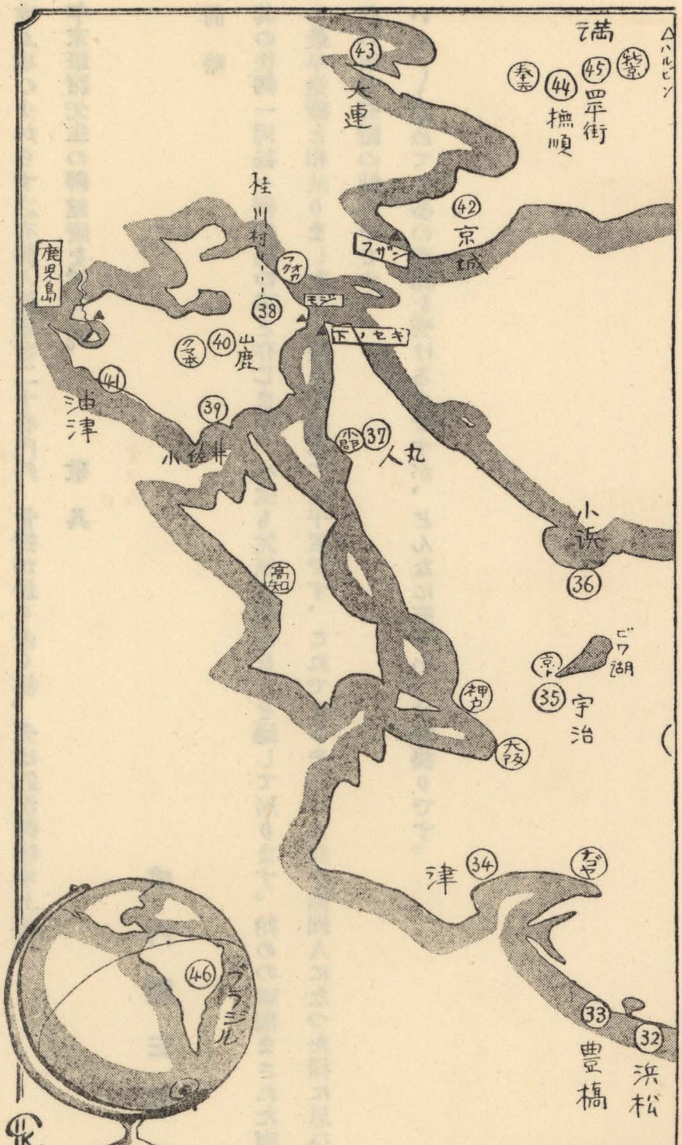
御詫び

高巣三四一先生—岩手縣和賀郡黑澤尻町和賀病院

右にもう四年も前にお移りになつて居られるのを今年の編輯員の誤りで地圖にも名簿にも昔のお所を掲載してしまひました。誠に申し譯け御座いません。こゝに訂正してお詫び申し上げます。

1 中村　勝氏
2 三　橋　氏
3 小　内　氏
4 柳　　　氏
5 山本、井上氏
6 村　上　氏
7 小　方　氏
8 上　石　氏
9 木村　守氏
10 濱　名　氏
11 柴　沼　氏
12 高　桑　氏
13 四　條　氏
14 吉　崎　氏
15 稻　葉　氏
16 澤　江　氏
17 槍　田　氏
18 赤　松　氏
19 關　口　氏
20 今　井　氏
21 渡　邊　氏
22 犬養、中村復、片柳、大槻、鎌田、林、近藤、關、新田、篠原、森文、高橋福、古川、蓮江、田中、辻岡、寺田氏(以上東京)
阿部氏(川崎)
森信氏(田奈村)
原、大曾根、森豐、小口、佐藤盛氏(以上横濱)
23 大　庭　氏
24 戸　田　氏
25 小　澤　氏
26 神山　知氏
27 中村　廣氏
28 佐藤太、川田、志田、栗本氏
29 中村　武氏
30 吉　岡　氏
31 山田　晟氏
32 梅村、森下氏
33 松　橋　氏
34 富　田　氏
35 本　郷　氏
36 濱　野　氏
37 吉　野　氏
38 成　松　氏
39 神　野　氏
40 竹　下　氏
41 弓　削　氏
42 松　井　氏
43 牛久、加藤銀氏
44 成　内　氏
45 高木、~~高業氏~~
46 八木、細江氏

醫學部内ノ方ハ入レテアリマセン



○　　　　相見三郎

拝啓

刀林御發刊をお祝ひ申し上げ候小生今夏病氣の爲め歸省致し候節は諸先生の御同情を辱ふし有難く御禮申上候。御蔭様にて健康恢復從來通り勤務罷在候殺伐なる土地にて、氣の荒き勞働者相手の事とて御殿育ちのポット出には面喰ふ事の少からず之有候入院患者二十名内外、骨折が最も多く候。先は近況御報申上候。

乍末筆諸先生の御健康を祈り候。　　　　敬具

○　　　　成内穎三郎

前略

其の後御一同益々御清榮の事と存じます、小生も元氣旺盛に日々を過して居ります。始めの頃惱まされた南京蟲にも最早免疫と相成りましたから幾ら喰はれても平氣です、これでどうやら半人前の滿洲人になつた様に思ひます此の頃支那語の勉强中です。

いよいよ始めての冬の洗禮を受けるのですが、どんなに寒いか一寸氣掛りです。

同窓會報告

○昭和九年度同窓會役員

會長　茂木藏之助先生

評議員　犬養六郎君（いろは順）
大庭國紀君
大曾根幾次郎君
上石英造君
竹下貫一君
梅村六郎君
柳壯一君
山本順君
前田和三郎君
木村博君

幹事　町田謙二君（昭和八年十一月改選）

鍋島勉君（會計）
瀨尾甯三君
笹島彦次郎君
伊藤國男君
板橋剛君
山口恒造君

○昭和八年度會計報告（昭和七年一月―八年十一月現在）

收入の部

昭和六年度繰入金	三、二八七・三四円
一般收入金	九九八・二〇
（内佐藤先生紀念品寄附金	二〇七・五〇）
銀行利子	五九・二二
計	四、三四四・七六

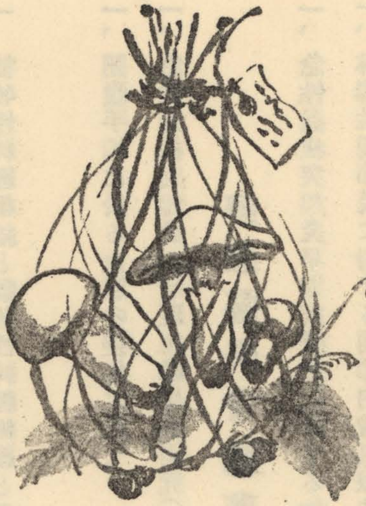
支出の部

一般支出金	一、七一六・九八円
（内慶應醫學十週年紀念別刷（一、五〇〇）	一、二二六・九二
計	一、七一六・九八

差引殘高　二、六二七・七八

同窓會會計　鍋島勉 ㊞

尚今度振替口座東京二九二七五番に加入しましたから御利用下さい。



御禮

遠く醫局から離れられて、醫局の爲慶應の爲御勉勵下さる各先輩諸兄より、折にふれ、季節につれ土地土地の名產、名物を、吾々後進の爲遙るばる御送附に預り、眞に有難く御禮申し上げます。其度毎に御禮の御挨拶は申し上げて居る筈ではありますが或は、珍味、佳趣に取まぎれ、御挨拶を缺き失禮致して居るやも計り兼ねますが何卒上の樣な理由による失態故、御勘辨被下度御願申上げます。
常に吾が醫局を念頭に御活躍の諸氏に對して些少なりとも此の刀林が何かの御役に立てば幸と存じます。

學　術

第三十四回日本外科學會總會

昭和八年四月一、二、三日京都帝國大學法經第一番教室に於て開催せらる、當外科よりの演題左の如し。

一、植物性神經纖維と動物性神經纖維との結合再生に就て　中村君
一、開腹手術に於る血壓の變化に就て　栗本君
一、急性蟲様突起炎の病理組織學的研究（第一報）　瀨尾君
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　土方君

慶應醫學會總會（十一月九日）

一、急性蟲様突起炎早期病變像に關する知見補遺　土方君
一、淋毒性關節炎に對する關節內盈氣療法　島田君

外科集談會

第三一四回より第三二四回まで當教室よりの演題なし。

外科教室より發表せし文献

一、三叉神經痛と外科的療法　（診斷と治療　第二十卷八號　昭、八、八）　町田助教授

一、結核性腹膜炎及びその外科的療法　（臨講　第四十一號　昭、八、八）　同

一、凍傷　（醫學輯覽　第九十一號）　同

一、火傷　（醫學輯覽　第九十五號）　同

一、血液屬（血液型）　（醫學輯覽　臨時體液診斷號）　同

一、男兒肺炎双球菌性腹膜炎及其法驗例　（グレンツゲビート　第七年　十一號　昭、八、十一）　土方君

一、結核性蟲樣突起炎の二例　（グレンツゲビート　第七年　十號　昭、八、十）　同

一、手術後發進性皮膚壞疽の一例（グレンツゲビート　第七年　一號　昭、八、一）　瀨尾君

一、開腹手術に於ける血壓の變化（慶應醫學　第十三卷　八號　昭、八、八）　同

一、結節性精系動脈周圍炎に就て（慶應醫學　第十三卷　二號　昭、八、二）　小野田君

一、膵癌の一例　（グレンツゲビート　第七年　十一號　昭、八、十一）　同

一、日光紫外線の研究第二篇　日光紫外線量の時間的並に季節的變動に就て（日本外科學會雜誌　第三十三回　八號　昭、七、十一）　志田君

一、エンテロコッケン腹膜炎知見補遺　（グレンツゲビート　第七年　一號　昭、八、一）　伊藤由君

一、大網膜捻轉症に就て　（グレンツゲビート　第七年　十號　昭、八、十）　栗本君

一、黃疸及下腹部の着色斑點を伴ひたる膵臟壞疽治驗例（グレンツゲビート　第七年　九號　昭、八、九）　森山君

整形外科學教室記事

第八回日本整形外科學會總會（昭和八年三月卅一日、四月一日　於京都帝大）

一、骨關節結核患者に於ける補體結合反應（豫報）　畠中君

一、結核性膿に於ける結核菌の染色及び集菌成績に就て　武藤君

一、骨關節結核患者より採取せる膿に關する研究　伊藤由君

一、諸種關節患者に於ける關節液に關する研究　同

一、脊椎腫瘍に就て　岩原講師

一、宿題報告結核性脊椎炎の診斷　前田教授

整形外科學教室

整形外科集談會

第六十六回集談會

一、外傷性脊髓軟膜出血の際に行ひたる脊髓蜘蛛膜下腔洗滌の一例　成内君

一、外傷性肋間筋皮下斷裂の一例　酒井君

一、ミエログラフイーと興味ある脊椎内手術例　岩原講師
其五、馬尾神經ノイリノーム

第六十七回集談會

一、脊椎カリエスと肺結核　前田教授

第六十八回集談會

一、ミエログラフイと興味ある脊椎内手術例　岩原講師
其六、脊髓硬膜外海綿様血管腫

一、脊椎カリエスの病期分類及び赤血球沈降反應　前田教授

第七十回集談會

一、造鼻の經驗（患者供覽）　岩原講師

一、ベック氏法により處置よる尿道下裂の一例　畠中君

第七十二回集談會

一、脊椎披裂の手術例　野崎君

一、脊髓癆性脊椎並に膝關節疾患の一例　龍野君

一、頑固劇甚なる疼痛に對する手術的療法　岩原講師

業　績　集

一、赤血球沈降速度に關係ある外的條件の二三に就て
其五、傾斜　（慶應醫學　第十二巻　第十一號）　岩原講師

一、後頭下穿刺法と自家改良穿刺針に就て
（醫科器械學雜誌　第十巻　第五號）　岩原講師

一、ミエログラフィーと脊椎及脊髓外科知見補遺、脊髓内孤發結核手術例追加
（日本整形外科學會雜誌　第七巻　第六號）　岩原講師

一、Maydl 氏法に依る先天性膀胱披裂の一治驗例、附膀胱粘膜の知覺に就て
（グレンツゲビート　第七年　第五號）　神山君

一、ヨードカリの赤血球沈降反應に及ぼす影響に就て（實驗的研究）
（慶應醫學　第十三巻　第四號）　相見君

一、「脊椎カリエス」に於ける年齢の診斷的意義並に「脊椎カリエス」と肋膜炎との關係
（日本整形外科學會雜誌　第八巻　第三號）　島田君

一、「ミエログラフィー」と脊椎及脊髓外科知見補遺 Neurinomatose に就て　岩原講師

附脊髓液腔内に注入された沃度油の運命

（日本整形外科學會雜誌　第八卷　第三號）

一、結核性脊椎炎（脊椎カリエス）の診斷　前田教授

（同　右）

一、脊椎カリエスの診斷と治療　前田教授

（診斷と治療　第二十卷　第十、十一號）

抄讀會

―（昭和七年）―

第七十八回　十月二十五日（火）

一、蟲様突起炎手術に關する血液像の價値　中村廣君
一、肋間筋のリス　志田君
一、乳腺腫瘍のX線診斷　相見君
一、尿閉とその療法　武藤君
一、脊椎彎曲症に於ける脊髓の壓迫性麻痺　野崎君

第七十九回　十一月二十二日（火）

一、痔核電氣的手術法　田村君
一、火傷に用ふるタンニン酸溶液の水素イオン濃度に就て　布留君
一、腦水腫の治療に對する輸尿管硬腦膜吻合術　古山君
一、輸血後過敏症に對する疑義　小平君

第八十回　十二月十五日（火）

一、小兒期に於ける鼠蹊ヘルニア手術後の檢査成績　君塚君
一、腹腔内への潰瘍穿孔の診斷　田中君
一、腹膜後部腫瘍のヘッセ診斷　酒井君
一、畸形性骨炎及纎維性骨榮養障碍と肉腫との關係　照井君
一、局所及傳達麻痺に於ける組織死　齋藤君

—（昭和八年）—

第八十一回　一月二十四日（火）

一、手術後虚脱に際する血管系統並に
　循環血量の意義　土方君

一、下顎神經節及耳神經節切除術並に
　三叉神經幹切斷術　伊藤由君

一、術後癒着性及絞扼性イレウスを
　考慮せる汎發性腹膜炎の療法　濱名君

一、手術後肺合併症の豫防及療法　若林君

第八十二回　二月十四日（火）

一、Ewing 氏骨肉腫知見　百溪君

一、縫合材料の鍍銅及その生體に及ぼす影響　小野田君

一、人工氣胸療法の外科的擴張　伊藤國君

一、大腿骨折斷端の解剖に就て　板橋君

一、大腿の攣縮及下肢の絕對的短縮の
　手術的除去に就て　畠中君

第八十三回　三月十四日（火）

一、スコリオーゼの手術に就て　鍋島君

一、潰瘍の救急手術としての胃腸吻合術成績　瀨尾君

一、廻盲部に於けるアクチノミコーゼの一例　島田君

一、パンクレデルマザルベに依る創傷療法　森山君

一、綜合的エンツエフアル、アルテリオグラ
　フイーと其の手技並に危險　龍野君

第八十四回　五月九日（火）

一、急性蟲様突起炎の診斷殊にロブシング氏症狀に就て　武藤君

一、手の消毒トリクロールエチレンの使用に就て　明樂君

一、胃癌手術前に於ける鹽酸療法　田村君

一、非特殊性海綿質疾患の病理機轉に就て　野崎君

一、示指を以てせる拇指の造設術　小平君

第八十五回　六月十三日（火）

一、アルビー氏手術の遠隔成績に就て　酒井君

一、火傷瘢痕癌及四肢相對的癌腫　照井君

一、急性蟲様突起炎治療に就て

一、鼠蹊腺の廓清に就て　井手君

一、後日の自然治癒を考慮に入れての腸管瘻造設に就て　宮尾君

一、創傷治癒に就て　齋藤君

一、假關節と正常骨關節との關係　伊藤原君

第八十六回　七月四日（火）

一、「アセチールヒヨリン」を以てせる外傷後強直並に關節炎の療法及豫防　伊藤由君

一、腰椎麻痺法の一進歩　若林君

一、乳癌手術に於ける皮膚保存法及乳腺成形術の一法　伊藤國君

一、脊髓空洞症の手術的療法に就て　萩尾君

第八十七回　九月十九日（火）

一、腹膜炎の血清療法　小野田君

一、アイス、スポーツに依る外傷　畠中君

一、蟲様突起炎様症狀を起す蟲様突起粘膜重積

一、蟲様垂炎手術後の廻盲部重積　大塚君
一、腹膜感染の防護　大岡君
一、高壓エーテルによるナルコーゼ　釜江君

第八十八回　十月十日(火)

一、手術後腸管麻痺に對する高張食鹽水注腸に就て　鍋島君
一、脊髓癆性脊椎症　龍野君
一、ヴィタミンと創傷治癒　髙橋君
一、大腸の穿孔傷　中野君

第八十九回　十一月十四日(火)

一、埋沒縫合　明樂君
一、イレウス手術成績進歩につき　笹島君
一、慢性再發性膝關節水腫の洗滌療法　野崎君
一、下腿潰瘍に於ける外來的療法に就て
一、皮下腹膜内十二指腸破裂　渡邊君
一、　長坂君

文献の探索

もゝたに生

別に文献を探すのに練達なわけでは無いが、考へられる範圍で一番細いと思はれる探索網を書いて各位の經驗の敎示を受けたい。

先づ例を外科的疾患の臨床例に取る。若し珍しい一例を出來るだけ精細に檢査して記載したとする。それでも價値は充分あるわけで、何年の後かには誰か丹念な人があつて綜合研究の對照にして吳れる。併し世界の學界で自分の例がどんな位置に在るかを知るには文献を探して讀む必要が起つて來る。

◎前　準　備

先づ稀有な例が有つた時に、次の圖書を見て稀有なる事を確め、落ちて居る檢査を補充し、索引雜誌のどの物件名を引くかを定める。

Deutsche Chirurgie Lief. 1-67 1879-1913

Neue Deutsche Chirurgie 1-54 1912-1933

Die Chirurgie

Practische Chirurgie

茂木外科學

三輪叢書

日本外科全書

醫學輯覽

東西醫學大觀

今後特に記載の無い本は皆醫局に在るものとする。

◎索引

次に索引に取り掛る。外國の外科索引雜誌は

Zentralorgan Chir. 1913-1933

を使ふ。例へば「チフス」性大胸筋々炎なら Typhus, Infect-krh, Pectralis, Myositis, Muskel 等の項目を見て必要な文献を摘出して行く。日本の索引雜誌では同様に

「醫學中央雜誌」　明治四五年—昭和八年

を索引して行く。兩方の雜誌が品切れになると次の雜誌に移る。

Zentralblatt Grenz. Med. Chir. 1-18 1898-1917

「日本醫事雜誌索引」 明治二五年—大正七年

索引雜誌後の新しい雜誌は

「醫學原著索引」

「醫事及び雜誌索引」

の二者が外國と日本の雜誌の表題を月遲れ位に知らせて呉れる。

◎孫　引　法

愈々以上の索引雜誌が切れると古くからある全科の索引雜誌に移るか孫引法に依る。少くも日本の文献は孫引法に依らなければ索引雜誌は外に無い。外國の全科の索引雜誌は後に書くから篤志家は其れを用ふる。此處では孫引法に移る事にする。即ち今迄索引で出た原著を見て其の中の文献から新しい文献を撰び出して又次へ進む。此の場合前準備に掲げた N. D. Ch. 及び其の前身の D. Ch. の文献が充實して居るし Henke-Lubarsch の病理學を見て置く必要がある。

◎原著を手に入れる法

原著獵りの孫引時代で一番困るのは何處に雜誌が有るかである。外國雜誌は各醫局か中央圖書に在

る。新しい日本の雜誌も大抵同樣である。外科醫局には「雜誌目錄」昭和七年があるから是を見て先に用を足す。併し古い日本の雜誌なら中央圖書、病理、豫防醫學の順で聞いて步く、理學科、皮膚科も救助して吳れる。初めて行つた時に外の本の表紙もよく見て來る。

偖愈々院內で原著の手に入らぬ事が解つた時はどうするか。二法がある。他の大學へ行くか抄錄で我慢する。他所へ出かける前には中央圖書へ行つて大正十年版の

「外國學術雜誌目錄」

を見るすると何處の圖書室に何卷からあるかちやんと出て居る。日本中で北海道に一冊しか無い場合もあらうと言ふわけである。日本の雜誌で此麼便利な目錄が無いので圖書館目錄を手に入れて見當をつける。餘談ではあるが帝大に見に行くとシヤンなタイピストが居て一枚六錢で內容を寫し取つて吳れる。切ない思ひで讀んで來なくても濟む。

抄錄で間に合はせる場合には非常に澤山の雜誌がある。大體こんな種類の雜誌を三種に分けるとすると、第一が純粹の索引雜誌で次が是に抄錄を有するもの、第三が原著雜誌が附錄として抄錄を載せて居る場合である。關係の深い所を揭げると、

一、索引雜誌

全科　Index Medicus 1927-1931 Chicago.　（中央圖書）

〃　日本醫事雜誌索引

〃　醫學原著索引

〃　醫事及雜誌索引

二、索引及抄錄雜誌

外科　Zentralorgan etc.

〃　Zentralblatt Grenz. etc.

〃　Jahresbericbt Chirur.

全科　Schmidt's Jahrbücher etc, 1834—1922 Leipzig　（中央圖書）

內科　Kongrsszentralblatt gesam. Inn. Med. etc　（〃）

病理　Zentralblatt allg. Path etc.　（病理）

細菌　Zbl. Bakt. Parasit.　（〃）

三、抄錄掲載雜誌

外科　Zbl. f. Chirur.

〃 Zeitsch. Orthop. Ch.　（中央圖書及外科）

其他 Surg. Gynec. Obst.

Brit. med. J.

Presse med.

Wochenschrift 類　（中央圖書）

◎餘　談

此うして摘出した文献は古い疾患では山を成すであらう。併し長くかゝつて年度別に分類して置くと矢張り盡きて終ふ。

幸運な場合には自分と同じ疾患を丹念に調べて一々抄錄迄して大いに論じてあるのがある。此麼時は其の年以前の文献は大概探索しないで濟む。

論文に文献を載せる時は其の重要さに從つて取捨すべきと思ふ。

「科學論文の書き方」を一寸見て置くといゝ。

雜誌の名を略するには製本しない新しい雜誌の表紙に指定してある。若し無ければ索引雜誌の略し

方を模倣する。雜誌の何處にあるかを示すには、雜誌の年齢、頁及び暦年の順にする。雜誌の年齢とは Band, Jahrgang, Tome, Annee, Volum 又は Lieferung, No. 等を書くのである。頁を書けば Heft 號は入用で無い。

附記として Jahresbericht Chirurgie を紹介する。一年に一冊出て二年宛遅れて出る。一九二八年度以後は Zentralorgan の病類別索引であるが、一九二七年三十三巻迄は其の年の外科の論文の年報である。是が完備すれば樂に文献が探せるが醫局には未だ充分に揃つて居ない。それでくど〳〵此麼事を書いて見たのである。

醫局

茂木先生

先生には毎日お元氣で朝早くより講義に、外來に、廻診に、手術と實に其の御忙しさは少しも變りありません。そして又醫局員の御指導と全く寸暇もなきありさまです。

又其の間いろ〳〵御仕事をさなれます。今年は外科總論の美しく、充實せる改版第十を出版せられました。

此の春の外科學會には風邪のため、御出席なく、會場淋びしさを覺へました。しかし先生にはわざ〳〵書狀に細々（こまごま）と御助言を出席醫局員に下さいまして一同感激したのであります。幸にして先生の御健康は間もなく快復せられました。誠に慶賀する次第であります。

先生は又忙中閑を利して野球に釣にお出かけになります。今夏は遠く九州地方まで著書の材料を求めて旅行せられたるかたはら、瀬戸内海に紀州灘に糸を垂れ、又十月東北醫學會に御講演の折、金華

山沖に舟を浮べて大漁を得られました。かくの如く先生は實に元氣であります。
最後に開業せられて居る同窓會諸兄に刀林を通じて先生の御言傳てが御座います。
それは若し諸兄の病氣其の他の事故により一時診療を休まるゝが如き場合は、醫局に御話し下されば醫局員を其の間臨時にお手傳に差し向けるとの事であります。

外來診察室

第一診察室は佐藤先生が靜岡日赤御赴任以來町田先生が代られて、茂木先生(月、水、金)木村先生(火、木)町田先生(土)が御診察なされます、診察時間は相變らず十一時迄です。
茂木先生には毎週火曜日に再來を御診療せられます。
フライの診察は處置室にて行ひ學生のポリクリを致します、これは木村、町田、神山、藤原、百溪諸先生が致して居ります。
整形は前田先生(月、水、金)岩原先生(火、木、土)が相變らず御診察せられます、フライも一緒に診察しポリクリも此處で行はれます。
外科は別館が出來てから手術が月、水、金に行はれますので、本館の手術は火、木、土ですから現在毎日手術が御座います、整形は月、水、金の三日手術日です。

外科醫局發展近況

昨年は外科十週年記念號の發刊があつて貴い我外科教室の過去の行績を知る事が出來ました、のみならず一年一年と發展を重ねて來た我外科の全貌を知る事が出來ましたらう。此處に別館も一月より開館致し入院患者も夥しく其數を增して參りましたことは我々御同慶の至りです、內にこの發展あり外部の膨脹亦著しく其一班御報せ致しまするならば、先づ第一に靜岡日赤病院へ佐藤、川田、志田、栗本四先生の御赴任も擧げねばなりません、次に遠く滿洲撫順御赴任の成內先生、近くは東電病院への森先生など枚擧に遑なき程です、更に橫濱警察病院へ副院長として木村先生の御出張、外科主任として土方先生の赴任の內定を見るなど愈目醒しき發展ぶりです。

最後に町田先生には十一月より下谷病院に月、水、金に御出張せられ又醫局內諸先生の四ヶ月交代に橫濱濟生會に出張及び六ヶ月交代の下谷病院出張のことも發展史上に附加へねばなりません。

検査室の事ども

試薬係

大學クリニクの検査室ともなれば、少くとも臨床と關係有る諸検査は、例へ其の検査が月に一度位のものでもイザといふ場合に大騒ぎをしなくても出來る様に許す範圍内に於て準備して置く可きものではないだらうか。今迄の検査室は大變狹く、又外來の繃帶材料置場ともなつて居たので、兎角亂雜になり勝で検査がやり惡くて嫌になるといふ聲を聞く事が度々でした。それでも少しなんとか出來ないものかと思ひ先づ試藥の整理を始めた所、丁度町田助教授、百溪講師からもお話しがあつたので此れ幸ひと、以前より約一坪半程擴げ第二診察室との間にスクリーン及開戸を取り着け、又第一診察室との境の今迄〆切になつて居た戸を開く様にし、交通を便にし一方豫診室との交通を遮斷した。此れにより初診及再來のクランケが尿、糞を扱ふ所を見なくてすむ様になり、神經質なクランケも不愉快にならなくてすむと思ひます。

更に室の眞中に水道及ガスの設備ある机を置き、此の上で時々ではあるが胃液、糖尿の検査が何時

でも氣輕に出來る樣にする筈です。左方のワンドテイシユに檢尿コツプが澤山列んで居て檢査の妨げになるのを改め別に材料置場をつくり、ワンドテイシユをフライとし此處で檢尿、檢便をする事としました。右方のワンドデイシユでは主として細菌檢査を行つて頂く事とし、此處に今迄なくて不便だつた顯微鏡を午後七時迄は置くことにしました。同時に夜間の檢査も出來る樣に顯微鏡用スタンド及電燈も設備しました。夜のアツペの特診のロイコチーテンも檢査室で檢らべられます。

此處の檢査室では臨床と關係あるものを檢べるのですから、其れに用ふる試藥も自づと一定範圍内に制限される理です。それで試藥は檢査の目的に從つて一組づゝにして列べてみようと思つて居ます。例へば胃液檢査用試藥といつた風に。

器具も少し增しました。常備されて居る器具、試藥等が直ぐ判る樣に試藥原簿及備品錄を設へ、試藥係の交代に際しても不便を無くする樣にしました。

檢査室規定とでいふものをつくつて何時も整理して置き度ひと思ひます。

外科入院患者病類別索引用紙の製本の出來た話

S　生

入院カルテの各號用紙の中に唯一枚紙質、記載項目の違ふ異端者がある。しかも退院の時には「部門」なる欄へ、「V・D」とか「I・C」とか一々種本を見て記入せねば病棟のお係りに追跡されて廊下邊りで記入せねばならないといふ代ろ物だ。これが即ち「慶應義塾大學病院外科入院患者病類別索引」と云ふ用紙だ。退院一人毎に一枚宛たまると一年には千三百枚になる筈だ。果して之が後日如何なる役目を演ずるものかといふに一向に働いては居ないらしい。さればその運命はと見ると、一束になつて棚の上。

これは大變、所謂萬病とか四百四病を「I」から「IX」に分類した、先輩の御苦勞に對しても申しわけない次第。用紙も泣いて居る様子。

そこで、おせつかいが一人出て、總て醫局の病類別表に則り、お手近の昭和七年度から整理を開始した。

感心に病名のないものはないが、部門番號のないもの「A・B」の小分類記號のないもの、書いてあ

つても出鱈目なもの等々。この違つた奴には閉口した。整理の進まなかつた第一原因は之だつた。總數の約二割近くあつた様だ。

全四冊に製本して見て驚いたことには一番厚い第二卷が總て「アッペ」であつた。その他いろ〳〵あるが省く。

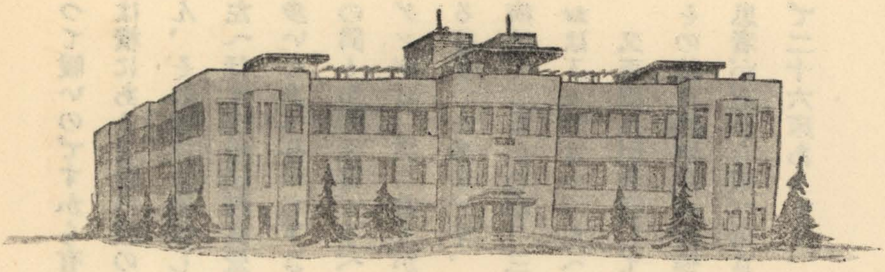
尙一人で二種の病氣のあつた人の分は一枚寫しを取つて、各々の部門の方へ入れた。それには兩方へ「再」とか「別」とか記入しておいた。

又何とも分類の仕方のない様なもの及び外科的に大して意味のない分類に迷ふ様なものと一緒にして第四卷の雜の部へ放り込んだ。配列も大體分類別表に據つて列べたが中には數の多いものから列べたものもある。

內容は製本の背にもローマ數字で記入してある。

「何の爲に」と目的あつて作つたわけではないけれども、棚の上から圖書室へ出たのであるから何にでも御自由に活用してやつて下さい。きつと用紙も喜んでお役に立つものと思ひますから。

昭和六年度の分も近々製本が出來上ります。(十一月十日)



別館案内記

つね子

別館がいよ／＼完成しまして、一月から開館しました、これから御案内致しませう。先づ本館大廊下のろ號と、は號の間から中庭へお降り下さい、奇麗なコンクリートの道が出來て居りますから足が汚れる心配はありません。道の兩側には丁度楓、錦木、銀杏等が赤に黄に色を競うてゐます、春は春で櫻の花が滿開です、春に良し、秋に良し全く氣持の良い道です、しかし時々上から鳩の群が時ならぬ糞の雨を降らすことがありますから御注意下さい、雨の日はろ號又はは號の廊下を靜かにお歩き下さい、突き當ると別館への地下道の入口です、エレベーターがありますがこれは患者專用ですから達者な方は轉ばぬ樣に階段をお降り下さい、こゝが夏猶ほ寒き地下道です、しかし夏にこんなに寒いのなら、さぞ冬になればの御心配は御無用、冬になればかへ

つて暖いのですから有難いものです、こゝから別館までは一寸急勾配で滑つて轉ばぬ様、御心配な方は横にある急製の板の階段をお昇り下さい、こゝは看護婦の力ではとても寢臺車を押しあげられません、その時には後押しがつきます、こゝを昇ると別館地下で賣店が正面にあつて右へ行けば職員食堂左へ行けば看護婦食堂附添食堂浴室があります、エレベーターもありますがこれは歸りに乘るとして歩いて上へ昇つて下さい。昇つた所が正面入口でこゝに事務室があります、右へ行くと藥局がありその隣りが研究室ですべての設備が完備してゐます、こゝから北の棟には內科醫局、その向ひがレントゲン室で、突き當りが講堂です、階段講堂になつてゐまして廣いけれど何となくまとまつた感じのする落着いた講堂です、後へ戾つて正面玄關へ引きかへしませう、その正面が所謂中央一階で神經科の病棟で二等が九床、三等が五床あります、しかしこゝの正面の扉は開きません、御用の方は二階よりお入り下さい、左へ行くと內科で東、南の病棟があつて三等十七床、二等二十六床あります。

又正面へ引き返して二階へ昇りませう、二階の中央は神經科病棟で二等九床、三等五床あります、その他に娛樂室の設備もとゝのつてゐます、こゝの病室の窓はすつかり明けきれぬ樣になつてゐて、患者が窓から飛び出さぬ樣にしてあります。二階東は產婦人科三等病室で三十六床あり南が二等病室で二十六床あります、北の棟へ行くと左側が產室で右側が外科、產婦人科共同の手術室で、大小二つ

の手術室があります、こゝの大手術室は見學者の爲に天井が硝子張りになつてゐます、下から見るとあんな高い所から見てもとても見えるまいと思ひますが上から見ると案外に近く見えます。

三階が外科です、東棟の中央に醫局と當直室があります、こゝの醫局は夏は全く暑さ知らずで一日中涼しい風がは入つて晝寢黨には別天地でいつもソファーは滿員です、しかし當直室は朝寢黨泣かせで、朝五時頃から朝日がかん／＼と照り込んでとてもねてはゐられません、それにこの當直室は便所が遠くて不便です、その爲時々洗面器が迷惑な役目をさせられます。

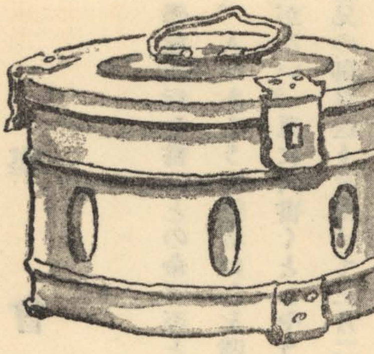
病室は東が三等で三十六床、南が二等で二十六床あります、東の廊下には泰西名畫の數々が掛けられてあつて通る人々の目を樂しませてゐます。

三階中央は内科の結核病棟で二等四床、三等十

二床あります、各部屋毎にベランダがあつて、日光には不自由はしません。
三階の北には外科の標本室があります。
さあ四階へ昇りませう、昇つた所が喫茶部です、その向ひが内科の結核病棟で一等四床二等四床あります。
先づ北の方へと屋上へ出ませう、こゝからグランドは直下に見下されます、ビック、ゲームのある日にはこゝの壁には曝し臺の樣に長い、丸いとりどりの首が並びます、いやこゝばかりではありません、三階の外科、二階の婦人科の看護婦室の窓にもピラミッド型に首が重なります。
屋上の北には一寸おつな障子のは入つた日本間らしい部屋が並んでゐませう、もし〳〵そこへは入つて行つては困ります、そこは男子禁制、看護婦の寄宿舍です。
南の屋上へ出ませう、すぐにしやれた休憩室が二つあるのが目につきます、晩には密會の場所に使はれはしまいかと道學者が心配してゐるさうです。
そんな心配をせずにこゝからの眺望を樂んで下さい、左には新議事堂のドームが見えます、正面には繪畫館、神宮プールが手にとる樣です。そして右にはおゝ素晴らしい、靈峰富士が雪の冠を戴いて立つてゐます。
あまり見とれてゐると風邪をひきます、案內はこれでおしまひです、喫茶部でお茶でも飮んでお歸り下さい。　―さよなら―

動物手術實習

H・N生



學生動物手術實習！　此の設備は我慶應が帝大その他數多い醫科大學に卒先して始めたもので日本一として大いに誇り得るものである。實習を始めてから既に四年になるが回數を重ねるにつれ設備も次第に擴大せられ今年は室も前年の三分の一方も廣くなり、手術臺も七臺並べてある。更に手洗場も新しく本格的なものとなり一度に十人も洗へる樣になつた。又精緻な掛圖も多數完成して手術法が樂に了解出來る樣である。講義、指導は町田助教授の擔當でそのお手傳ひに各臺に一名宛、二年目の助手が付いて居るが彼等も敎へる立場にあるので仲々勉强させられるらしい。實習準備萬端をする講師室の小野さんに聞いて見る、今年丈で此の手術臺に乘せられた犬は五十頭に餘る。手術翌日位に斃れるのが六頭に就いて一頭位、開腹術後はその率も增すと。結局三分の一位は實習後數日で斃れるらしい。生殘つたものは更に一物を奪られたり、腸管をひねくりまわされたりして餘命を保ちつゝ最後に足の切斷術に供せられて屠殺せられる。

學生の爲、醫學の爲、斯くもはかなく犧牲となつた犬等は每年秋の增上寺にて行はれる解剖祭で供養せられ成佛する。

學會行

T・H生

學會紀行を書けとの命で否とも云へず不承不承引き受けたが主として夜の部を書けには些か閉口した。人もあらうに筆者如きを選ぶとは刀林子も人を見る目がなさ過ぎると、つい愚痴も出るが今更仕方がない。兎に角書くとしやう。さて表の作成豫行演習も終り我々整形組は先發隊として多數醫局員諸兄の御見送りを受けて三月二十九日の夜行で西下した。一行は前田先生を筆頭に岩原講師、伊藤、武藤、小平、畠中の六人、何れも從順しい者ばかり故車中は至つて平凡に翌早朝無事目的地に着いた。

三月三十日 花には未だ早いが麗かな春日和、京の街は至つて長閑。寺町美登利屋旅館に落ち着く暇もなく前田先生の御案内で先づ會場の下檢分をすませ、途中丸山公園で名物平野屋の「いもぼう」を御馳走になつて東山を一巡した。更に方向を變へて男山八幡宮に參拜して明日の文運を祈り京の第一日は暮れた。

睡眠不足と終日の見物で相當疲れて居たが夜になれば又街の灯が戀しく京極祇園方面を彷徨う。

三月三十一日 整形外科學會の第一日、我敎室よりの演者、伊藤、武藤、畠中。

睡い目を擦りながら朝八時から最後まで頑張り、やつと日程が終つて宿に歸れば藤原、鍋島、瀬尾、土方、中村、栗本、の諸先生見ぇ家の中が急に賑になつた。早速打ち連れて夜の街に出たが足は自然に祇園から川沿ひのM町方面へ………。

此處には處々に變な家があつて濃厚に化粧した女が身動も出來ぬ程に店一杯に坐つて居る。和裝洋裝お好み次第で食指大いに動いた先生方もあつたらしいが第二夜も先づ無事に終つた。

四月一日　外科學會の第一日、整形外科學會第二日

前田先生の結核性脊椎炎の診斷は宿題演說中の白眉であり、岩原講師亦好評を博して我々教室員は大いに肩身を廣くした。又一方外科學會では中村、栗本兩先生の猫の「デモ」が學會の人氣を獨占した。

今夜も亦一人殘らず外出、前田先生の報告が終つたので大分張り切つて居た者もあつたが一體何の方面へ出掛けたのか唯一人別行動を取つた筆者には知る由もなかつた。

四月二日　外科學會第二日、演者、瀨尾、土方の兩先生。

目醒めれば其處にも此處にも主のない寢床が見出され朝食の顏觸は淋しく「昨夜は大分沈沒したらしいな」と前田先生は微苦笑せられた。

瀬尾、土方の兩先生、何れも上々の首尾で我敎室報告の最後を飾られ一同氣も輕々と宿に引き上げれば木村先生、富田先生見え一座は一入陽氣になる。今夜前田、木村の兩先生が慰勞の爲一同を祇園に御招待下さると云ふ喜びも手傳つて………。

さて我等待望の夜！　何時もと違つて夕食には一本附き一同浮き〳〵と憧れの祇園へ………先づ名物都踊りに輕く氣分を出して愈々會場暇の「吉松」に落ち着く。何れを見ても美人揃ひ物腰なら言葉使ひなら東京あたりの「ジン公」とは比較にならない、「ダラリ」の帶で舞ふ祇園小唄には平助先生方の目が喰ひ入りそうだ。

酒はよし酌もよし「お一つ何うです」の言葉に釣られてつい度を過し、宴果てゝ御大は歸り祇園情緒は滿喫した筈だが誰も歸らうと云ふ者がない。京に詳しいF先生を先頭に祇園「井仲」(若葉ハンの家)で又一しきり………。

親切な京女の「サービス」に疲れて最後に川邊の××町へ………それから？「ウチ、モウ、ヨウ云ハンワ」

四月三日　學會最終日。

ぞろ〳〵と打ち連れて歸る間の惡るさを大勢に紛らはせ、時間つぶしに朝食を攝り歸つて見れば案

外にも御大は未だ知らないらしい。やれ〳〵と思ふ間もなく一同の食事が運れた。流石に「今食つたばかりですとも云へず」何食はぬ顔してやつと一杯茶漬で流し込み、何うやら其場も胡麻化した積りで居たら御大は疾くの昔に感附いて居たらしく、生れて始めて食つた二度の朝食も遂に其の甲斐なし學會最後の笑ひ草となつた。

學會は晝の部も夜の部も共に昨日を「クライマックス」とし今日はもう學會にも中毒の氣味で期待して居た「イレウス」の報告にも氣が進まない。醫局への土産物等調へて居る中に早や夕闇せまり一同の顔が揃へば愈々我等の合宿にも最後の幕が下された。眞直に東京へ歸る人、居殘る人或は他へ廻る人、各々思ひ〳〵に散解した。解散に望み來年も來々年も「學會は京都で」と念じたのは一人筆者のみではなかつたらう。

謝恩観劇會

同窓會主催になる吉例　茂木先生謝恩觀劇會は昭和七年十二月十九日　東京劇場に於て開催されました。

茂木先生御夫妻の御出席を御願ひし木村、前田兩先生御夫妻、佐藤先生、町田先生以下醫局員一同又院外より犬養先生を始め二十五名の大多數の先輩諸先生の御出席がありまして謝恩に相應しい盛會でありました。

本年は松竹少女歌劇團のレヴューでありまして先づ「女王樣御命令」なんて甘いところをふんだんに見せられる。ピカ一のターキーは惜しくも病氣休場のため彼の?彼女のスマートな姿は見られず一沫の淋しさがあつたです、でも決して嫌な氣持は誰にも見えません一同ニコ〳〵として食堂に入る、茂木先生御夫妻の健康を祝して一同乾盃をする。

次は「青い鳥」夜の御　殿花園など奇麗なところを盛澤山に見せられて一同和氣靄々裡に散會致しました。

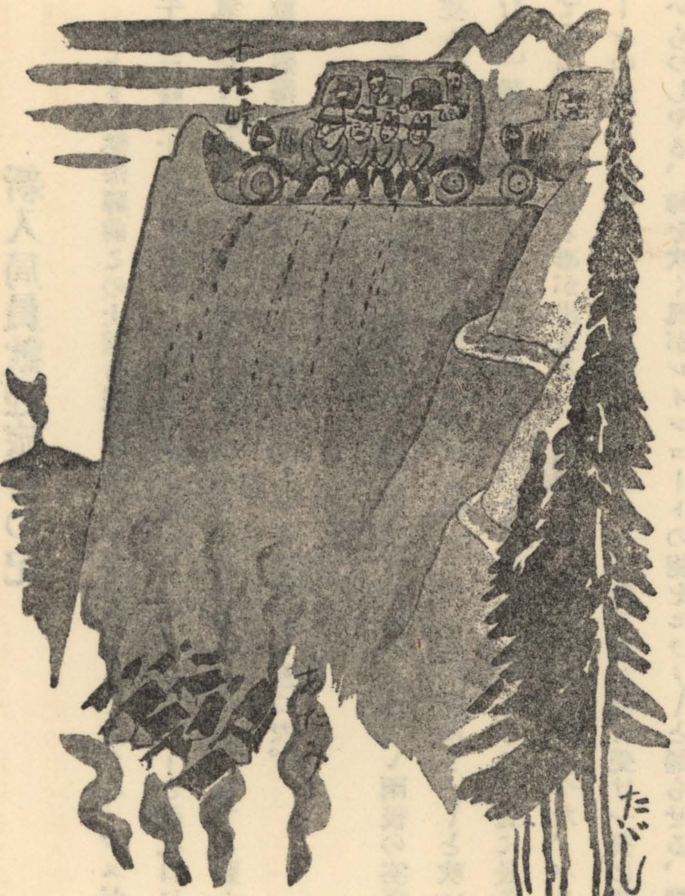
新入局員歡迎旅行の記

雨上りの熱海驛前この土曜日曜の行樂の客がチラホラと見える。バスが何臺か並んで待つてゐる。午後三時三十八分東京から來た列車が今着いた所だ。ぞろ〳〵と改札口に吐き出される中に一段と元氣のいゝ朗かな顏が四十許り、豫め用意された三臺のバスに分乘する賑かな與太を載せて自動車は櫻散る熱海の町を出はづれ、十國峠を指して坂路にさし懸つた。

×

ヂックザックの急坂を登るにつれ四月十五日とはいふものゝ雨後の空氣は冷々と肌をなめる、峠を登りつめる邊り一面の草山には未だガスがかゝつて風がぴゆう〳〵と吹いてくる「運轉手君確かり賴むぜ」誰言ふとなくこんな言葉も出る、この邊は天氣がよければ實に景色のいゝ所なのに生憎の曇天で大島の噴煙も見る事が出來ない、頂上へ來て三臺のバスが止つた、バラ〳〵と降りた先生方アルコールの爲にデイウレーゼが高かつたとみえそぼ降る雨を肩に受け一齊に筒先を太平洋の彼方に向けていらつしやる、峠を吹く風がレインコートの裾をヒラ〳〵と踊らせる、帽子が飛びさうた。峠の下り路霧は段々と霽れてきた見える〳〵雲の切目から富士の淸らかな姿が現れた、日も當つて

きた。里へ下ると流石は春だ、畑には菜の花が今を盛りと咲き亂れてゐる、伊豆の春は和かだ、三臺の



自動車は見え隱れしながら畠の中の道を走つて行く揺られること約三時間いゝ加減へと〱になつた頃修善寺に着く、櫻もやゝ盛りを過ぎて邊りの木々の芽は青い。直ちに仲田屋に落付く。

×

谷川のせゝらぎを聞きながら溫泉につかる人もある、ぶら〱と町を散歩する人、修善寺史跡を

訪ねる人もあらう、かくして七時頃より夜の宴會が始つた。昨年こゝの中豆病院へ來られた神山君は健康を害しこの會には出席せられず殘念であつたが、土肥の中村廣人君、伊東の小澤君は遠い夜路を自動車を驅つて參會せられ又三君より御寄附をいたゞいた事を感謝しなければならぬ。十二人の新入局員諸君を上座に祭り上げて型の如く開會する、酒杯亂れ飛んで會も酣となれば美妓の三味に合せて唄ふ者あり、踊る者あり暫くは興の盡くる所を知らない、果てはグロダンスさへ出てゝ時を過ぐれば一人去り、二人去り會も終つて谷川のせゝらぎだけを殘して修善寺の夜は更けてゆく。

×

明けて十六日朗かな朝である、夕べの出來事を語つては笑が爆發する、傑作の數々も生れた樣だ。午前十一時頃又昨日と同樣に三臺のバスに分乘して修善寺を出發、丁度この時眼科醫局の先生方をのせたバスがすれ違ひ修善寺の町に入つて行つた、小學校の「汽車の旅」の歌にある樣な景色を見ながら靜浦に到着、保養館に入り晝食をとる、奇麗な廣間で酒杯を傾けながら唐人お吉の踊に目を樂します。

×

保養館前にて記念の撮影を行ひ午後三時靜浦を出發沼津驛前にて解散して恙なくこの旅行を終る。

新入局員紹介記

何だつて？　俺に新入局員の紹介をしろつて云ふのかい、よせやい、俺みたいな口の悪い奴にそんな器用な眞似が出來るかい、今さら白々しくほめられるかい、何に、くさしてもかまわない？　だつて無暗にくさして折角の緣談でも破談になつたら氣の毒するぢやないか、それでもかまわないつて？よしそんならチヤンチヤン惡口を云ふから後になつて文句を云つて來ても知らねエぞ。

先づ女房持ちから始めるかな。

大岡保司君　この男は千葉縣の產だ、先づ名前を見て呉れ、一寸何と讀むのか見當がつくまい、ヤスシとよむんだから覺えて置いて呉れ、名前が鹿爪らしい樣に顏も又鹿爪らしいよ、頭が氣に入つたね、こうまい工合にしやくれてゐるんだ、とにかく顏だけ見てゐるとどんな恐しい奴かと思ふがこれで酒を一杯のますと實にだらしなくなるんだからね、この男は女房持ちと云つても黴の生えてゐる方でもう二人目がパンクしそうになつてゐるんだからね、よく夫婦喧嘩の話をするがね、こいつをうつかり聞いてゐちやいけないよ、うつかり聞いてゐると惚氣になるんだからやりきれないよ。

しかしこれで仲々の勉强家だよ、學生の時にアショッフをとにかく一回でも通讀したのはこいつ一

人でクラスを脅したものだよ。

この男がどんなに機嫌が惡くとも一言でニャ〳〵させるお呪ひがあるんだが敎へてやらうか、「お前は仲々スマートだよ」と云ふんだ、嘘だと思つたらやつてごらん、もしきかなかつたらお代は返すよ。

釜江省司君 どうも同じ樣な名前を並べて相すまん、この方はセイシと讀むんだ、產は兵庫縣、これも女房持ちで子供は一人だ、學生時代には女房と長火鉢をはさんでさし向ひで勉强して遊びに行つた友達を卒倒させたこともあるんだが、今ぢや昔の夢となつたらしく、醉つた時でも惚氣を云つたことがない、夫婦者もこうなればおしまひだね、この男は仲々氣が短いんだ所謂向つ腹立てと云ふ奴でね、こんなことを云つてゐるとのされるかも知れないよ、この邊で一寸ほめておかうか、これで何でも物事に非常に熱心だと云ふのが良い所なんだ、要するに生一本と云つた所だね、流石は酒の產地に育つただけのことはあるよ。

一寸恰好を見ると不器用な樣だが、テニスがうまいんだ、もう一つ附け加へれば新入局員中第一の酒豪だ、だからこいつと飮みに行く時は割勘ぢや損をするよ。

中野宗夫君 產は兵庫縣、同じ兵庫縣でも釜江君と違つてこの男はダンデイだ、何だダイデイつて何か知らないのか、「ハイカラ」、「オシャレ」、「オメカシャ」俺流に云はすれば何事でも通り一ぺんの

事ぢや滿足の出來ない男と云ふ事になるんだ、それに仲々器用な男なんだ、野球、テニス、水泳、スケート何でも相當やりこなすし自分から私の趣味は酒とダンスですと云ふだけあつて、ダンスも下手ぢやないそうだ、本年四月に結婚したんでまだまだ樂しい時期だらうと思ふと一寸妬けるね。

この男の良い所と云へば人との交際（つきあひ）の仲々うまいことだらう、酒の席などで何かしら話題を持つてきて、そらさず話をする所はちよいとしたもんだ。

伊藤　原君　東京の產で中野君と相前後してハイラーテンしたんだ、この男のフラウと云ふのが俺達のクラスのＫ君の妹で數ある友達の中から三國一の花婿樣と選ばれただけあつて仲々立派な男だぞ背が高くて肩が衣紋竹を背負つた樣に張つてゐる所は一寸Ｍ先生に似てゐるんだ、親しき仲にも禮儀ありつて云ふがこの人なども全くこの見本みたいな男で、俺達ならチャッとか何とか云つて濟ましてしまふ時でもちやんと「おはやうございます」などゝあらたまわれてちよいちよい恐縮させられるよ。

少しほめすぎた樣だからくさすかな、この男は理窟ぽくつて困ることがあるんだ、これさへなければ全く大したもんなんだが、我輩ひそかに彼の爲に悲しむね。

渡邊　敬君　この人は本年熊本醫大より來たんでやはり中野、伊藤君達と期を同うじてハイラーテンしたと云ふ羨むべき人だぞ、とにかくおとなしいんだ、それに落ち着いてゐるんだ、お前達おつち

よこちよいとは少し違ふよ、唯困るのはこの男は厚つかましくも、惚氣を手ばなしで云ふ癖があるんだ、嘘だと思ふなら「どうだい近頃は?」と聞いて見ろよ、うんざりする程聞かされるから、全くこれだけは獨身者には毒だよ、俺なんざ二三日おかげで寢られなかつたことがあるよ。

以上五人が新入局員中女房持ちの一人前の男達だ、これから陳列する七人は一山幾何の獨身者のがらくたばかりだ、氣に入つたのがあつたら拾ひ上げて女房の世話でもしてやつて呉れ。

萩尾又八君 渡邊君は東京の隣りの神奈川縣だがこの男は昔から江戸の敵を長崎でと遠方で名前を賣つた長崎縣の生れだ、何に? ハギォぢやないハグォだつて、冗談云ふない、そんなことを云ふから人に笑はれるんだ、禿とは髮のなくなることゝ「字源」に書いてあるよ、よく見ろよ、尙數本の毛がいみぢくも最後の努力までに頭にしがみついてるのが見えるだらう、實に淚ぐましい光景だね、全くこの男の前では氣の毒で頭の事は云へないよ、俺もなるべくは云はないことにしてゐるんだ、これだけ云ふだけでも心の中では泣いてゐるんだぞ。

一口に云へばこの男はお人好しだ、人から賴まれたら否とは云へない男だ、借金を賴むならこの男に限るぞ。

長坂謙三君 東京の產だ、一寸見ると雌羊の樣だがこれで仲々獰猛で押しの太い所があるんだから

やりきれないよ、蹴球、野球は本職で、庭球、水泳、バスケトッ、何でも行く所可ならざるはなしと云ふスポーツマンだ、笑ふと金歯が出て愛嬌があるよ、これでこの男は女が嫌ひだそうで、カフエーなどで女給が傍へ來るといやーな顔をするそうだ、本當か噓か一度試して見て呉れ。

高橋眞雄君　山梨縣育ちだ、善人高橋、聖人高橋と異名をとつた人だと云へば多くを云ふ必要はあるまい、もつともこの聖人近頃少し危くなつてきたと云ふ噂もきくがね、この男又同時に俳人高橋なんだ、山を眺め、川を聞いて、なになにや、と口ずさんで樂しむと云ふ心境は一寸たのもしいね。

まだある、繪もかくんだ、彼がある時、林の繪をかいて快心の出來とほくそ笑んだ時、後で見てゐた子供が「叔父さん、そんな葱畑どこにあるんだい」と聞いたそうだ。

重盛福七郎君　この男は最年少者でしかも一番勉强家だ、何をしてもエネルギッシユな男だよ、食堂で山盛りの飯をアップアップと食つてゐる所は壯觀だよ、聲も大きいんだ、第一でムンテラをしてゐる聲が醫局から第二は申すに及ばず婦人科まで聞えるそうだ。

生れは長野縣だ、およそ遠慮氣兼ねのしない男で、云ひたいことはどん〳〵云ひしたいことはさつさとすると云つた末恐しい人物だ。

大塚　廣君　千葉縣茂原の產だ、千葉縣中何處へ行つても親類のゐない所はないそうだ。この男も長坂君と同じで何でも屋のスポーツマンだ、顏の蒼いのと、鼻の大きいのが特徵で、この顏で益々蒼くして、大きな鼻をふりたてふりたて、野球にテニスに奮鬪してゐる所は凄慘な感がするよ。

負けず嫌ひの癖に氣の小さい男で、どうも神經衰弱らしいと云ひ乍らポケツトにブロムを入れてゐると云ふ男だ、酒が好きらしい、以前は煙草も盛んにやつてゐたのだがこの方はとう〳〵やめてしまつて、俺達を感心させたが酒の方は一向やめない所を見ると餘程好きらしい、酒を飮むと俄然大きな聲で歌ひ出す、何時の間に覺えたのかと感心する程色んな唄を知つてゐるよ、とにかくこいつと飮んでゐると幇間がいらないね。

木村知孝君　金澤醫大から來た木村敎授の甥子だ、異名をチーちやんと云ふ、看護婦に云はすと小さい木村先生だ、そう云へば木村先生に笑ひ聲もそつくりだし、腹の小さくない所も似てゐる、たゞ似てゐないのは頭の毛の薄い所だ、今度入營するが歸つて來た時の頭が思ひやられるよ。

この男仲々の大食家で二十錢ぢやあわないと食堂の婆さんがこぼしてゐたよ、この春天ぷらを食ひすぎてアツペになつた、病中何よりもつらかつたのは食へなかつたことだそうだ、全快後曰く「もう

アッペがないから安心していくらでも食へるよ」と、呆れたね。

山口恒造君 大阪の産、「もう十三年も東京に居ながら滴足に江戸辯が話せないと云ふ變つた男だ、この男の顏を上から下へ見て來ると頤まで來ると額の方を忘れてしまふと云つた奴が居るが仲々うまいことを云つたもんだ、こやつは不器用な男で何でもするが、何でも人並以下と云ふ哀れな奴さ、しかしこれで善良なること神の如く、勤勉なること二宮尊徳の如く、又人情の厚さことは、現今の如く人情紙の如く薄き世に於ては稀れに見るべき、え、何だつて、どうしてそんなに譽めるのかつて云ふのかい、譽めるわけさ、かく申す俺が山口なのさ、はい御退屈さま。（文責無筆者）

？　？　？　？

茂木先生御招待
醫局員慰勞前橋遊記

M・N生

汽車は出て行く　サイレン一發
殘るひびき　未練はないが
走る省線　上野の森は
帝都の狂騷　お江戸の色香

朝の日暮里　煙に消えて
進む列車の　ひらめきゆらぐ
三田は輝き　四谷と光る
我等がほまれ　三色の旗

昭和八年十月十五日午前八時廿分、上野驛を出た列車は全醫局員を乘せて一路前橋へ今日一日の行樂の前奏曲はすでに昨夜から始つてゐるもの丶如く都會人が都會を離れる際には恒に一樣に一沫の淋しさが感じられる。

ネオンサインよ　赤い酒
走る自動車よ　ジャズバンド
醫局で飲んだ　生一本
ついふら〳〵と　都大路へ
地下のサローンの　紅葉は
青い電燈か　月光か
ツンテンひびく　細道に
碧い瓦斯燈　彼の娘の瞳

スピードアップした東北線の汽車も全く速くなつた。「時秋なればこれを白舌鳥（もず）と稱せん」といつた刀林分子がありました。朝刊讀んで大宮過ぎ秋の武藏野を一走り。高崎で十五分間停車。ゴカボウをがつゝく男がありました。この男車中すでに木村教授よりのウイスキーでいゝ氣持ちになつてゐました。

ハアー旅と出るならチヨイト家では喰はんヨイ〳〵
　同じ喰ふなら、同じ飲むなら、旅先きでサテ…………

と。一日の行樂。白頭部長への感謝の意は正に百パーセントであります。

前橋着十時五十分、すでに先輩同窓の闘口、今井、諸兄のお出迎へを受け自動車を連ねて前橋公園内の花の茶屋へ、名の如く野趣たつぷりな風雅な料亭である。その入口には

茂木様御連中御宴會之席

と墨痕鮮かに書き示してある、庭には秋の七草萩咲き亂れ秋光を浴びて池の鯉の勇ましい游泳この料亭帝都で想像する様な所謂一戸建ての豪壮なものではない。二間三間の小さい建物が廣い庭の中に五戸、七戸と散在してゐる、刀林分子は數組に分れて晝食の御馳走になつてゐたのである。

部長の家で

部　長「此の頃は皆餘り喰はん様ですな」

前田教授「へへエー」

この間木村教授獨自の御微笑？

部　長「平均體重も以前に比べて減つたでせう？」

木村教授「どうもそうらしいですな」

分子の面々盛んに詰込みながら此處では午後の野球戰の話で持ち切り。

分子の家（一）で

Ａ　氏「池に鯉がゐると思つたら早速刺身だ」

B 氏「ワルクないね」

C 氏「僕は矢張り天プラつて奴がいゝな。海の魚は何でも甘味いよ。殊にエビと來た日にや」

D 氏「こんな山奥？でも海の魚が喰へるんだな」

E 氏「汽車の速いのを知らない奴がゐるからね」

A 氏「今晩の鮎が思ひやられるよ」

B 氏「一尺位あるといふぜ、澁川のはな」

D 氏「澁川つて何處だい」

E 氏「馬鹿！今晩の御馳走ぢやないか」

外には晩秋の太陽がサン〳〵と照り輝いてゐます。C氏は獨り過ぎし夏の日の海邊の思ひ出を浮べながら額に汗して箸を急速度で進めてゐました。

分子の家(二)で

W 氏「こゝの柱は米材ぢやないかな」

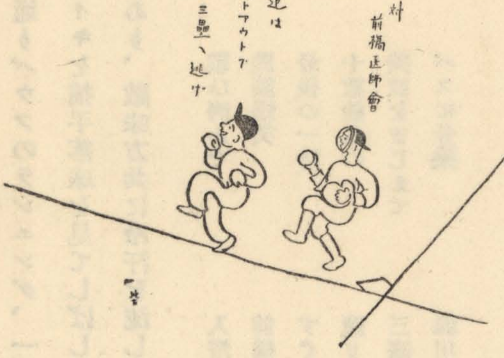
X 氏「こりや立派な國産だよ」

Y 氏「X氏仲々詳しいね、こんな處で色氣抜きの食事とは一寸おしいね」

Z 氏「向ふの方に一軒色彩濃厚なのがゐた様だ」

X 氏「ウフーン！」

W 氏「先輩諸賢仲々いゝ處へ案内してくれたものだ」
Y 氏「思はせぶりタツプリですか」
Z 氏「別室附のかういふ處はな」



番茶をグッと飲んでアーアと長く伸びて鼻歌など歌ひつゝ、「太陽はまだ高し、夜の來るのは又遠し」、「田舍は靜かでいゝな」、「一つ午睡と行くかな」

實にグータラの發散であります。

午後一時三十分。對前橋醫師會野球團との親睦野球戰が公園グランドで別にサイレンのひゞきはありませんが、華々しく開始されました。

相手は博士チームの觀、平均年齡四十餘歳。主將にして投手なる國手は四十二歳、我が軍も亦ピンチヒッター木村教授、前田教授、町田助教授、左翼に藤原講師、投手は百溪講師を以て

し攻防完備且興味は秋の空よりも高いものがありました。ヒットに出た町田助教授の一壘への走壘に文字通りバウフのランニング、一壘到着の刹那一壘にゐたランナーはすでにホームイン。三つ目のストライキを捕手落球を見てしばしその球の行衛を見定めた後三壘に向つて突進せし我が勇敢なる名外野手あり、敵味方共に冷汗を流しての喝采でありました。

戰ひ濟んで　入浴あびて
戰談爆笑　前橋の
最後の一時　すぐ過ぎて
十數餘名の　選り拔きの
美妓をまじえて　三臺の
バスに分乘　澁川へ

ヤナ（梁）の裝置の説明を聽き七、八寸の鮎が次ぎから〳〵へと飛び上つて來る壯觀に一同驚異の瞳を見張つたのでした。夕暗迫る頃川岸の宴席はいよ〳〵高潮、鮎料理を滿喫し若き命を華やかに歌ふ聲高らかに川面を壓する頃には弦月山にかゝり、一同は白髮溫顏の茂木先生を仰ぎ見て先生の益々御健康を祈り、天來の樂事と祝ひ慶んだのであります。

午後十時十五分　新裝の上野驛に

茂木先生萬歲！

慶應義塾大學醫學部外科醫局萬々歲！

の聲が强い〳〵優越の力に滿ちてひびいてゐました。

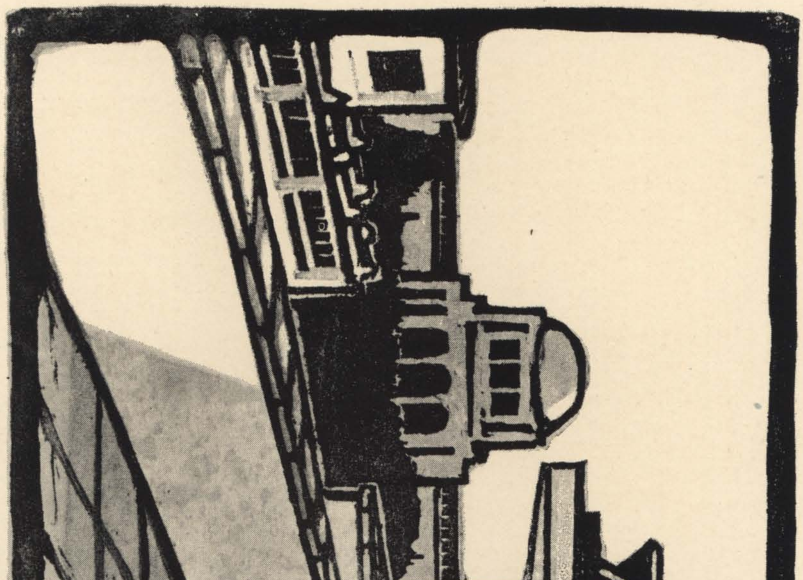
（今日の行樂に就き前橋御在住の同窓員關口、今井、諸兄並びに綿貫氏の御手配を深謝致します）―一九三三、一一、八―

別館屋上の圖

刀林四號に、西病舍の木版を一枚入れたことがあります。そして刀林八號の出版される後、あのオソマツなバラックは別館と云ふ白亞の殿堂と變つてしまいました。

此の圖は吾等が別館の屋上に、秋晴れの日光がさん〳〵と降りそゝいで居る或る日の午後二後頃を彫つて見たものであります。多少其の感じが出て居れば幸です。

左側は本館い號の屋上、中央の圓頂は外苑の繪畵館の屋根であります。此の別館の屋上バルコニーは喫茶店になつて居ます。外科の連中はよく此處でお茶をのんで無駄話をします。すぐ下が外科の醫局と、當直室になつて居ます。（せを）



文苑

江戸時代 情死小考

龍野純山

道徳律の梏桎と經濟的壓迫と、背負ひきれぬ情熱とに喘ぎつゝ若い男と若い女が死んで行く。

死に切つて嬉しさうなる顔二つ　（柳樽）

彼等は追ひつめられた生活苦から逃避せんがために死を選びこそしつれ、その將に死なんとするや無上の感激に顫へつゝ死を以て愛の完成なりと觀じ、戀に殉ずるの榮光に誇る其處に歡喜があり、滿足が見出される。

心中はほめてやるのが手向けなり　（柳樽）

世人はまた情死者に深い憐れみの眼差しを向けてやる。死ぬ程までに思合つたそのつき詰めた心根の不憫さ、いぢらしさ、せめても彼等の殉情をほめてやらうと云ふのである。

さあてさて〳〵横堀のうどん屋の娘が心中したと、もうし母様男は誰や、こちの隣の米屋の手代、物もよく書く算用も能うする、器用な男でござりますさ。（おんごく）

如何にも上方情調の濃い唄だ。無地緋縮緬の單衣に黒びろうどの帶をした幼女たちが手をつないでたそがれ時の大阪の街々を歌ひ乍ら練つて行く（近世舞踊史論）その「おんごく」の唄にある手代の様に心中男は物やさしい、溫和で實直な謂はゞ善人型純情的性格の所有者たる事は情死研究家の等しく認むる所で、事實惡人乃至放蕩無賴の徒には少くそれだけに一層世間の同情をかち得ることが多いのである。

昭和七年六月十五日調所五郎、湯山八重子の天國に結ぶ戀の大磯心中、小說ではあるが牧逸馬の「新しき天」等が世間にいたく大なる衝動を與へたのは何故か、八重子の死體遺棄事件が耳目を聳動せしめたのは云ふ迄もないが、一面に於て是等の情死、何づれも潔いプラトニック・ラブに終始した事が若い人達に强い感動を與へ、一部には讃嘆する者さへ出來た位であつた。此時世間の心持はあの古い川柳「ほめてやるのが手向けなり」を如實に感じては居なかつたらうか。

此様に肉體的純潔を守つた例が異常なセンセーションを捲起したといふのは、その反面に於て常に情死者間に性的關係のあることを物語つてゐる。殊に情死直前に於ける所謂「最後の營み」に就ては

多くの論者に認められてゐるけれど今爰にその事實を開陳することは差控へる（三田村鳶魚著足の向く儘、高田義一郎著自殺學、中山太郎著 情死者と性生活の種々相、犯罪科學創刊號第五二頁等參照）賣文の徒は又情死を美しく粉飾して報導する。元祿の頃の歌祭文、幕末から明治初年にかけてヤンレロ說節は門付の心中歌謠として代表的のものであり、又淨瑠璃、歌舞伎の好題材とされ、明治以後に於ては新聞、雜誌等謂ふ所ジャーナリズムの波に乘り唯迅速、センセーショナルを專らとして競つて誇大に報導する。私は近松の或頁を開いた。

〽此世の名殘り夜も名殘り、死に行く身を譬ふれば仇しが原の道の霜、一足づゝに消えてゆく夢の夢こそあはれなれ。あれ數ふれば曉の七つの時が六つ鳴りて、殘る一つが今生の鐘の響の聞きをさめ、寂滅爲樂と響くなり。鐘ばかりかは草も木も空も名殘りと見上ぐれば雲心なき水の音、北斗は冴えて影うつる星の妹背の天の河、梅田の橋を鵲の橋と契りていつ迄もわれとそなたは女夫星 後略 （曾根崎心中道行）

嗟、何といふ名文、再誦三吟人をして卷を措く能はざらしむ。かの荻生徂徠さへ机を拍つて近松の妙玆にありと嘆賞したと云ふ。

模倣心理と云ふべきか被暗示性とも謂ふべきか、戲曲と同じ境遇にあるかの如き幾組は誘掖され示

唆されて續いて同じ死の路を辿る。その事實は現に吾人の目撃しつゝある所ではないか、故に學者は情死に於て流行性を説く。

「一とせ心中々々と言ひはやらせ、いやな病に命を取られ滅多やたらに情死、その心中の苗代は大阪蜆川天滿屋のはつが情に平野屋の手代が身を曾根崎の森に果してより（前記曾根崎心中を指す）あそこもこゝも心中の書」（寶暦四年美景蒔繪の松）

京阪に於ける情死は天和貞享頃から小流行を重ねつゝ元祿後半期に至つて爆發的な流行を來し、寶永正德と打續き諸國心中女、心中戀の塊、心中名寄鹿子、心中大鑑、風流夢浮橋、心中後日塚等の出版もあり、淨瑠璃には近松、海音、出雲、半二、一鳳等が靈筆を振つたがその弊の餘りに多きに鑑み遂に幕府は享保七年心中狂言差止めの町觸を出した。

一、世上に有之無筋噂事並男女申合相果候類心中と申觸板行いたし讀賣り候儀前々より御停止之事

そして情死者の罰則として

一、不義にて相對死いたし候もの死骸取捨爲弔申間敷候　但一方存命に候はゞ下手人

一、双方存命に候はゞ三日晒非人手下　後略　（德川禁令考）

相對死（あいたいじに）といふ語は此時大岡越前守によつて始められたのである（名君享保錄）然るになほ心中沙汰の止まぬ所から元文二年法令附則を以て男女の情死死體から衣服を剝ぎ全裸體として晒すことに

した。獵奇心にかられて彌次馬が押寄せた事は想像に餘りある所で、ために「寛政五年二月十九日阪町（大阪）にて心中あり、男女の死骸を千日墓所に於てさらさせし處、女の××の毛多き評判にて見物おびたゞしく其後心中のさらしもの止む」（南水漫遊拾遺）の如き結果となつたのである。因みに此の阪町心中は早速芝居に掛けやうとしたが忽ち禁止されてしまつた（攝陽奇觀）民衆獵奇の現はれはひとり右の例に盡きない。文化元年五月四日隅田川に男廿一二、女十六七歳の情死々體が漂流して來た。是が江戸中の評判となり態々舟で見に行く者多く、後には船頭が一人前八文づゝの見料をとりそれが遂に五十文にせり上つた。剩へ何者の仕業か衣服髮道具までも夜の間に盗去つたといふ。（街談文々要集半日閑話）

男女共死損じた場合は三日間大阪では灰山、江戸では日本橋東詰に晒された上非人にされてしまふ。

日本橋馬鹿を盡した差向ひ

四日目は乞食で通る日本橋

など晒しを詠んだ川柳が多い。音羽丹七が世評に上つたのは右の法條に照されて初めて晒し者にされたからだし、又尾上伊太八は武士として最初に晒されたからであつた。然し世事にはいつも裏と拔道がある。非人に落すに忍びないといふ溫い人の情か、同族から非人を出しては一門の名目に拘ると

いふ利己主義か、いづれにしても足洗ひと稱し非人頭に金を摑ませて贖へば復たもとの公民になれる手が暗々に行はれた。

話題は前に戻る。元祿時代に何故情死が勃發したか、その理由の説明はいろ／＼の方面から觀て論ぜられてゐるけれど煎詰めれば經濟組織のルネッサンス（山本—元祿時代の經濟生活、中村—元祿及享保時代の經濟、德富—日本國民史、本庄—日本社會史）即ち武士階級から町人階級へ、米の經濟から金の經濟への經濟的主體の推移及びそれを基調とした道德觀念と解放された戀愛生活の葛藤、平たく云へば義理と人情の縺れと加ふるに都會人としての變質性的素因に根源するものと解釋されてゐる。

享保頃になると文化は上方から江戸に東漸移植され、情死も亦上方に衰へ江戸に盛んとなつた。此頃不景氣による生活苦の深刻化も情死流行説明の一助となるがライターとしての宮古路豊後椽の出現は大きな意味があつた。彼は官權と他流演藝人の壓迫に由り上方から逃れて江戸に向ふ途中名古屋で當込んだ小さん金八睦月連理椽（歌舞伎研究第十九及世輯、町田—江戸時代音樂通解）を携へて江戸に入り又も壓倒的な人氣を煽つた。時恰も情死流行の氣勢漲り居たるため、やるせなきものに喰る様な切々綿々たる哀怨悲調はどうして深く若い人達の胸に喰入らずに居られやう。痛(いたは)しや、心中話は此所の街彼所の巷に飛火の様に燃上つた。斯くて江戸に於ても亦豊後節は爲政者と他流音曲界の干渉壓迫を

招き遂に演奏禁止の令を蒙り敗れし勝利者として歸洛するの已むなきに至つた。然し乍ら豊後椽の門下からは上方に繁太夫、春富士、宮古路、（江戸に鶴賀、富士松（後に新内節となる）、花園、常盤津等輩出し、夫々情死物又は道行淨瑠璃を主として依然江戸上方の音曲界を席捲し、殊に常盤津、その門から出て一流を立てた富本、更に富本から派生した清元の所謂豊後三流は江戸時代音樂一方の王座を占めて今日に及び、就中天明安永頃に全盛を極めな新内節は一時心中を誘發するてう科により吉原に於ける流しを禁止されたことさへある。あの連彈の新内流しを命短かき春の宵、月冴えた凍れる街の冬に聞くとき誰か

蘭蝶を聞きつゝかゝる時
死すも惜しからじとぞ思ひ初めにき

の想ひを同じうせざる、ふとしも三の絃が切れた、そのしゞまの一刻を灯ゆらげば青春の血は流れる―たましひよいづくへ行くや見渡し、うら若き日の夢に別れて　夕暮

私は情死の原因、時代との關係遺書等々話題を殘し乍らもう結辭に急がなければならない。

江戸時代の情死も元祿、享保、天明、化政と夫々時代の姿を反映して次第に戀の遊戯化、手段化に墮し來つた一面に深刻な生活苦に甚く貧しい老夫婦の心中なども文献に現はれるやうになつた、然れども尚大正以後に於ける親子心中乃至は一家心中の如き悲慘事は嘗つて私の耳目に觸れぬ。

二人一緒に死ぬならばと互に手に手を取合ふ若人達には多情多感の華も咲かう、かの深き懊悩の果の自殺、扨は幼兒達の死にざまにあはれ涙のせきあへぬ一家心中にはそも何の華が咲くか、天國と地獄のへだたりと斯くは名付けん。

私は敢へて言ふ、若人達よおん身らは今生命の華を手折らずにやがて來るべき結實の日を待て。實とは何か經濟的獨立だ戀愛は經濟生活と離れた別個の感情生活だ。人若し戀と生活とを結付けて社會に生きんことを冀ふならば先づ經濟的獨立を獲得すべきだ。それまで待て、粘れ、頑張れ、江戸時代の作者達が描出した情死あれは過去の世界だ。今や道徳律の扉はおん身等が純情なる限り廣く開かれて居るではないか、おん身等の前には大きな世界が横つてゐる、「新しき天」が待つてゐる。

終りに——

西鶴の言葉をもつて江戸時代のはかない戀を弔はう。

とりあつめたる戀や哀れや　無常なり夢なりうつゝなり。(好色五人女)　(一九三三・十一・十)

主要文獻　一、日本社會事彙　二、大百科事典　三、情死の研究—大道和一(明治四四)　四、日本自殺情死紀—山名正太郎(昭和六)　五、情死考—小林隆之助(昭和三)　六、情死考—田中香涯(昭和二)　七、情死の研究及其倫理學的觀察(丁酉倫理講演集)—布川靜淵(大正三)　八、情死號—性新年臨時號(大正十二年)　九、心中の精神病學的研究(近代犯罪科學全集第十及東京醫事新誌二六一三號以下)—金子準二　十、自殺學—高田義一郎(昭和五)　十一、近松の心中物、自由戀愛の復活—三田村鳶魚(大正十三年)　十二、情死雜考(三曲第十三卷第七號以下)—龍野純山

獨吟行

馬相

先日の吟行は浦安だつた。病院の都合で不參した僕が今日遽に思ひ立つて出掛けたのが矢張り浦安である。然もたつた一人で。水原秋櫻子が鬼城句集を評するに「ひとりぼつちな淋しがりやな、それでゐて强情我慢な老人の心境」とそんな言葉を使つて居たのを思ひ起して、これを獨吟行と題することにした。

中學時代叔父と一緒に本所の高橋から運河を蒸氣に乘つて浦安まで行つた。その時分浦安はもの寂びた漁夫町だつた。今日の行も高橋の蒸氣發着所から始まる。

薄暗い待合室の壁に懸つた賃銀表は色が褪せて、玻璃戸の中に老人と紫の女事務員がひとり、終點の行德迄の切符大枚十八錢を求める。船は隅田川を上下してゐる一錢蒸氣と變りない。幾つも横に並んだベンチの一隅に寄つて小窓から秋の陽のきらきらする河面を眺めた。

軈て船はぽんぽんと石油の臭を撒散らし乍ら動き出した。間の狹い甲板に鰯箱が幾つとなく積み重ねられて、長靴の漁夫が邊りへ腥い魚臭を漂はせる。船内は忽かに立て混んで來た。

石崖の影を漕ぎゆくキャベツ船

隣りの女がとある發着所へ降りて行つた。その細い頤に薄れ日を見せ乍ら。ロマンチストは場末の街角で時に女の顏に美しい希望を見出す。毎日電車の中で見る女の顏には和かなもの健康なもの、頑ななもの無關心なもの話しかけてみたい樣なもの何やら涙ぐましくなるものなんどがある。こんな事を言つて居たら際限が無いが、何んと言つても中山巍の描く「女の顏」に越すものは無い。

船のコースは高橋を起點として運河—荒川及中川放水路—運河—妙見島の傍—浦安—行德といふ順序になる。荒川放水路迄は水が大變穢くつて靑黑く汚濁して居る。竿の飛沫が顏へとんで來るのに閉口した。然し船が放水路の葦間を縫つて鐵の水門を潛り拔けると水も少しく面目を更める。更に中川放水路が終る頃は稍々透明に。次の運河へかゝると遂にはみどり色に澄んで來る。此處ら邊りではもう河水とは言はれないかもしれない。何故ならばぢき海が近いからだ。明かに潮の色が潛んで居る。水中の石段が透いて見える。

石崖の斜に水へふるせ釣る

乘客といつても全く土地の人々ばかりで浦安邊りの漁夫が多い。そこへスケッチ箱や寫眞機を提げた人達が乘り合せてきた。中に洋裝の女も見られる。「隨分水が多いわね」「まつたく氣分が出るね。こんな近い所でも下田位の感じはあるね。」　隣りの老婆が僕を同行の者と間違へて「寫眞を撮りにお出でるですか」と話しかけた。一寸面喰ふ。「いや遊びに」と濁すと、前の男が「寫眞を撮つたり繪を

描いたり。日曜なもので皆で遊びに來たんですよ」と言ふ。その男が甲板へ出た跡に大きな組立カメラが一つ。老婆は物珍しさうに差覗いて居たがふと片手でその光る捻子の邊りを撫でゝみた。この様子を見て居た僕は何か醜いものに觸れた思ひがして眼を窓外へ轉じた。

上げ潮にかよふ穗草とびにけり
對岸の道白日よふるせ釣る

「水が多いんぢあない、岸が低いのだ」と僕は獨言ってみた。岸の大きなポプラは色着き始めた葉っぱをぎらぎらと秋晴に踊らせてゐる。地平に白雲が湧いた。それはうなばらに特有の雲で寧ろ夏に近い匂だ。妙見島を廻ると浦安へ船は着く來て見るとやっぱり見覺えのある町で貝殼と海苔船と粗朶なんかゞ昔の儘だつた。町を圍むものは海邊まで縹渺とした稻田で畔道には海苔干場と干物場とがしつらへてある。刈田には白鷺が默々と漁って居る。この前來た時は、海岸の葦叢で大きな蛇を見た事を思ひ出した。氣の荒い會話や潮荒れの白ちやけた屋根瓦、それから元氣な赤銅色の子供達なんど、こんな風物は何處の漁村にも共通のものだらう。

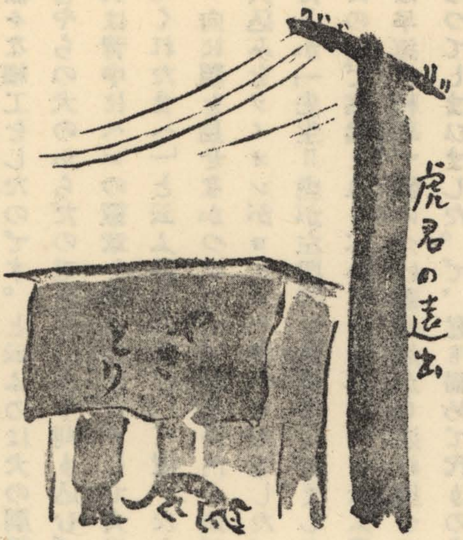
乏しらのコスモスに鯊釣られけり

船は此處で大部分の乘客を降してしまった。僕はがらんとした船内に殘されて窓の弱々しい日ざしを見かへると如何にも晩秋の流れの上にある思ひがした、更に河を一と時遡ると行德の町である。船着場の岸に石の常夜燈が一つ。此處は江戸川沿ひであつて、例へば俠客の名を思ふ程に古めかしい懐かしい町である。人家の裏手の堤に立つと洋々とした江戸川の流れが高まり動いて居る。葦間へ釣を

垂れて居るが、どの竿にも魚がかゝらない。いつも紅い蚯蚓がくるくるとぶら下つて居るばかり。町並の反對側は一望の田圃であつた。「こゝから海岸まで道があるかい」と畔に遊んで居る女の子に尋ねたら「知らねえよ」と意地惡さうに上眼使ひをした。駄菓子屋のおかみさんは「海岸まで小一里はございます」と言つた。小一里も危つかしい畔道を歩くのも大變と思つたので街道へ出て川下へと浦安への道を辿る。途中行徳の大きな木橋をスケッチしたりし乍ら。浦安の町が近づく頃貝殼を積んだ傳馬船が岸に舫はれて、石灰の工場へその貝殼をさかんに運び入れてゐる。その工場の前を通つて行くと眞白な灰の窖の中に半裸の男が幾人も寢そべつて居た。むかつく様な甘たるい惡臭だ。

夕波のこまやかにしてふるせ釣る
夕凪の貝殼浮べ鯊の水

狹い川岸へシボレーが這入り込んで來た。紋付羽織の男が立つて居る。小料理屋の女中が二人、その一人のこはい視線とぶつゝかつた拍子にも一人の女が囁いた。「ほら來たよ。來たよ。」川下の方から角隱しの花嫁さんがやつて來る。人混の中へ立つて暫し見送る。俯向いた花嫁さんの唇が妙に不自然に見えた。後から子供達が多勢人々の眼に好奇心と、或る慘虐味が閃いたかもしれない。がらんがらんと鐘を叩いて居る。東京への蒸汽が出るのだ。離れかけた船舷へ急いで飛び乘る。船は對岸へも一度立寄つて客を拾つた。岸のそこゝに灯がともり始めた。水が忽かに暗みかけて汀の海苔粗朶は寒さうだ。岸に見送る人の顏が何やら淋しい。城東區の運河を走る船の横腹へ工場の眞紅な地爐の窓と青白い鐵板切の仄光とが映つて來た。船は再び高橋へと近附く。



ライオンと虎と私

古 珍 生

私は去る四月以來藥物學教室で仕事をする事になりました。此の教室へ參りました當時は研究室の隨分と淡汚いのに驚きました。住めば都とか云ひますね、全く其の通りです、今ではすつかり慣れてしまつて別に汚いと云ふ感じがしなくなりました。別館は云ふに及ばず、醫局に居りました當時は隨分汚くなつたものだと思ひました本館も今では本當に勿體ない位に奇麗に見えます。

私の居ります研究室では種々様々なアルカロイドに對する動物の習慣性に關する仕事をして居りますが、私は其の中の一つを受持つて兎や犬を習慣させるために毎日注射を續けてゐます。これが中々厄介でしてね。兎は箱の中に飼つて置くのですから、逃げつこありませんが犬は小舍に繋いで置けば衰弱の果斃れてしまひます。それで止むを得ず放し飼ひにして置くのですが、教室では充分に榮養をつける事が出來ないと見えて、御馳走の澤山ある他所へ行つた切りになつてしまふので、犬を

習慣させるのには全く往生して居ります。其處で私はあるだけの腦味噌を搾つてあまりにもいたづらな一策を案出したのです。其當時これは中々經濟的な方法だと自惚れた位なのです。夫れと云ふのは犬を小舍に繋いで置けで何うしても色々な物を買つて食べさせてやらなければ死んでしまひます。放し飼ひにすれば芥溜をつゝいて自然に肥ります。けれども逃げる恐れがありますのでそんな場合に人目につき易い恰好をさせて置いたら何んなものでせう？　そうして置けば敎室を一寸休む場合にも注射を頼んで置かなければなりませんからそんな時に目標しになつて大變都合が好いと云ふわけで犬に様々な細工をしたのです。と云ふのは犬の胴體の毛を横縞に剪み刈つて虎の恰好をさせたり、毛むくじやらの犬のからだの毛をすつかり刈り込むで尻尾と頭に細工を施してライオンの形相をさせたり、又は背中にペンの徽章を刻みつけたりして犬屋に「ね君ライオンには五cc、虎には十cc注射して置いてくれたまへ」と云ふ様な具合にして置いたわけなのです、でもやつぱり逃げる奴は逃げてしまつて一向に顔を見せなかつたのですが其の内小使だとか動物屋が「先生!! 夕邊新寄を散歩してゐましたら人込みをライオンがヨチヨチ歩いてゐました、今晩は吉原か洲崎あたりに現はれるかも知れません」だとか「先生!! 虎が左門町の郵便局に居ました、人が怖がつて追ひ出そうともしないものですから入口の所で悠然とねそべつてゐました」と云ふ様な微苦笑的な情報に接する様になつたのです。結局虎は早速自轉車で馳けつけ郵便局から連れ戻つて來ましたが、其の他の犬は其後すつかり音沙汰無しになつてしまひました。で、私も諦めて代りの犬數頭小舍に繋ぎました。

代りの犬も大部注射量の增した中秋の頃、仕事の餘暇を盜み外科の何日もの連中と別館の四階で雜談に耽つてゐました時其の中の一人が私の顏を見て突然想ひ出したかのやうに「あァそう〳〵昨晚別館の當直だつたがあまり犬が吠えるのでグランドへ出て見たら犬が數匹ワンワン〳〵大變な騷ぎさ月明りでよく見たらライオンがゐるじやないか、今度見つけたらつかまへて置くよ」と云ふことにうれしい報告をしてくれました。それから一週間もしたでせうか私は仕事をすませてあのアスファルトで補裝したばかしの少し勾配のついた道を空腹を抱えながら馳ける樣に家路を急いでゐました時、丁度事務の前あたりに何んだか見覺えのあるやうな犬が淡燈りの中をこちらへやつて來るので立留つてよく見ると何んの事はないライオンではありませんか、早速つかまへて小舍に繫いでおきました。今日も尙ほ虎とライオンは無事息災に每日注射を受けて居りますから何うか御安心下さい。

　私は原則として、仕事の歸りは每晚醫局へ顏を出す事に決めて居ります。一つは醫局諸兄の御機嫌伺ひを兼ね一つは諸兄の雜談の中にも日進月步の外科學の新知識を得んがためです。ところが私の醫局を訪れる時

は奇態にも醫局にはビールが豊富なんです。ですから傍で見ると如何にもビールを飲まんがためにやつて來る樣に見えるのです、即ち嗅ぎつけて來るやうに見えるのですね。とうとう私は良い鼻を持つてゐると云ふやうなデマが亂れ飛ぶ樣になりました。全く御冗談でせうと云ひ度い位です。然しこれはナイショに御願ひしますが此頃は醫局の諸兄も餘り腕を振はれないと見え一向にアルコールらしい香がして參りません。何はともあれ醫局へ一寸寄つて見ると毎晩の樣にビールがテーブルの上に山積ではなく林立してゐるのですから、いくら遠慮勝な私でもコップに一二杯は知らぬ間に御馳走になつてゐるのです。仕事疲れの風呂上りと來てゐますから一二杯とは云へよく効きます。効いて來るとヘンムングが段々とれて來るのは理の當然、然らしむる所で致方もありません「チョイト行かうか」と云ふ聲が全く誘惑的に響いて來るのは從前通りです。私は斯樣に始終醫局に顏を出してゐますので先生の御招待や青山外科との懇親競技會などは勿論其の他醫局の種々の會には缺かさず出席して居りますので、身は醫局外にありましても醫局に居るのと全く同然であります。

今秋の醫局野球リーグ戰には私は醫藥混合チームの投手として憚りなから出場しました。第一戰には首尾よく豫防を葬りましたが准決勝戰に外科のチームに惜敗しました「何が故に外科のチームに敗れたりや」について私の心情を一寸述べたいのですが紙數に制限がありますからこれで失禮ゐたします。不悪。以上私の近況。

俳句の辯

馬　　相

宗匠といふ言葉を吾々は侮蔑としか感じない。それは消極的な低徊趣味の自己滿足といふ意味である。所謂風流がつて居るといふことで、吾々の病類別から言ふと月並の部門に屬するものである。「百年にして天明二百年にして明治の初日影」といふ鳴雪の句がある。芭蕉から二百年目、蕪村から百年目の邊りに正岡子規が現れたのである。この三人は俳諧史の大きな飛石であると言はれて居る。この子規が初めて月並なる言葉を用ひて當時擡頭した學生俳句の旗幟を鮮明にする爲世の中にうようよした宗匠流の邪道を月並と呼んで反抗と侮蔑を投げつけたのである。

俳句の形式は簡潔を極めて居る。この點は近代人に就中 Chirurgiker にとつては最適の詩形であると思ふ。この短詩形に適確な動かない表現を與へるものが季題であつて、これは俳句獨特のものである。何の爲に俳句などを作るのかと聞かれるならば作りたいから作るとしか答へられない。それは作句する事には何の目的も無いからである。嬉しい時に聲をあげたり悲しい時に涙を出す、さういふ事と何の變りがあらう。

「ホ句詠みは馬鹿になる」と吾々は輕蔑されるが、寸暇を得た時に無心に雲を仰ぎ、海を見入るとい

ふ様な事も悪いことでは無いと思ふ。

「ビルの例へば地下室の底に生活して居ても興に乗れば、花野を歩き秋風を聞き山冷に觸れることが出來る。これこそ吾々俳人の特權である」と或俳人が言つた。まことに眞實であると思ふ。どうです、手帳と鉛筆を備へられては。

故郷二句　　馬相

曉の雲からそめや夏の山

月明の途上に鷄の聲おこる

伊豆旅上三句

春潮のいけすに船をつつかけて

島かげの潮みどり濃き山櫻

石垣と石垣とある梨の花

雜詠　　馬相

晴れし日の江の島近き寄居蟲かな

やどかりの水に響きて橋の音

日箭もちて雲流れゐる囮かな
囮かなし眞晝の影のありながら
草の實の空を流るる竹落葉
立秋のうなばらに立つ富士の影
道を歩く七面鳥や秋の海
葱植うる人に夕海曇りおり
初冬の椿咲きゐてたそがれぬ

きさらぎ

マサヲ

あしたの夢の漂へる
とほき南のうなばらは
白日なりてきりぎしの
道に春風冷たけれ
ま青き灘は旅びとに
呼びかけゐるよ雲雀鳴く
丘を越ゆれは入江なる
小さき港に汽船あり

そのぼそぼそのペンキをば
カンカン虫は歌ひ居り
影寒々となつかしみ

A 無題

マサヲ

あを空が陽に喘ぐとき
よきものよ　うき雲
豊かなるかひなと
冷やかなる乳房と
わが眞實なる感謝を知れ

B 別離

近々とみるうなじ
なみだに波うつ
窓は明るい
おゝ　雪解だぞ

女神の歌へる歌

白風寄

奥深き森の湖、そよ風に小波の立つ、
其底の水にかくれし、宮居には女神の住めり。
夜の帳そこはかとなく擴ごれば靜もりの湧き。
夜もすがら手琴奏でゝ、女神こそ悲しみ歌ふ。

わが住む宮居湖の
岸邊に生へし青き花
青き心の便よと
告げましものを知らぬげに

過ぎて行衞は白雲の
いつかは消へむ運なり
運とならばなどてかく
こがるゝものにいこわざる

晝は恐れて出でざれど
出でざるが故、戀ふ故に

小琴の糸のぬるるまで
奏で泣くなり、知るや君

泣けば涙の泉もて
かくもあふれし湖の
水に温味はなけれども
心に燃ゆる火を見ずや

觸れても見んか、觸れよ今
ふるれば立たん小波の
湧きてあふるる水底に
我が金泉の響あり

或る力

潮騒に鷗も飛ばず
南のみ强み暴れ吹き
大海の波背に躍る
たくましき白馬の鬣

巖かな自然の巧
矛取れる、神のたはぶれ
言ひ難く强き力に
ひとりでに頭を垂るる

紫の夢

白風寄

よろこびの、うすむらさきにつゝまれし
　まだ見ぬゆめはいかにたのしき

かはき

死ぬごとく苦しみもだへなほつゝむ
　あが此の心おぞましきかな
あゝさなり、汝が一滴(ひさたり)の涙もて
　死の苦しみは消へ失するもの
砂のごと涸れたる心ただひたに
　涙待てるを知るや美き人

秋深む

枯落葉踏みつゝ行けば山路の

奥に音なし秋深みつゝ
凶鳥（まかどり）の聲うそ寒し柿赤し
　わびしいかなや落葉しきりて
病葉（わくらば）の音なく散りて暮れにけり
　鐘つく堂の石の階
往く秋をかなしと見ればいずこにか
　いよゝ淋しく百舌鳥一しきり

一、アッペを切らぬと頑固な奴は
　今ぢや煙突で斷食よ
一、象皮病の三巾半
　退院する時ゃ一巾よ
一、ヘモにアッペはルンバール
　おなら一發氣にかゝる
一、ゼンクングみられた有閑マダム
　私は毒はないでせう

その昔元祿時代にあつたとさ　赤穗浪士の物語
主君の、仇某を　同志一同散り／＼に
一年有餘苦心して　雪の降る夜に討ち入つて
見ん事晴した君の仇　その人數は誰も知る
四十と七人だつたとさ
上は大石藏之助　下は寺坂吉右衞門

——それは昔の話だよ——

慶應病院外科醫局　人數は同じ四十七
上は茂木の藏之助　下は何の某と、
十有餘年の歴史もて　醫局一同睦じく
日本の爲や人の爲　諸々病　打ち拂ふ
吾が慶應の外科醫局　これ現在の外科醫局

（比古）

駄句

はしもと

遠足のほこりの邑や柿の秋
夕映や飴屋の歸へる道殊に
いささかの雲ある峰や今日の月
名月やはるけき戀のあとを追ふ

前橋鮎狩の日に

鮎の香やヤナに碎くる水の音
夕映の鮎ヒラ〳〵と釣られけり
稻刈るや一畦多き蔓珠沙華

外科を謳ふ

文生

1\. 若草もゆる　外苑(には)ほとり
尊(たか)き理想に　はぐくまれ
榮ある慶應　名もしるく
とこしへに高き　外科の理想

▽　△

2\. 創めてここに　十餘とせ
雄々しき外科の　そのマーチ
榮ある旗幟　押し立てゝ
とこしへに强き　外科の力

▽　△

3\. 穹窿(おほぞら)ひろく　もゆる意氣
自覺の腕(かひな)に　メス執りて
榮ある幸を　めぐみつゝ
とこしへに揮へ　外科の腕

▽　△

4\. 光明に歩む　若人よ
力の限り　高らかに
榮ある外科を　謳歌はなん
とこしへに映ゆれ　外科の榮譽

外科醫局音頭（東京音頭）

T A M

一、踊り踊るならＫＯ音頭
　　花の都の眞中で

一、外科はよいとこ　オヤジの醫局
　　結ぶ師弟の二連球

一、おらが病院　命の波止場
　　四百四病の外もよし

一、醫者になるなら　ＫＯの外科よ
　　世界醫學の花と咲く

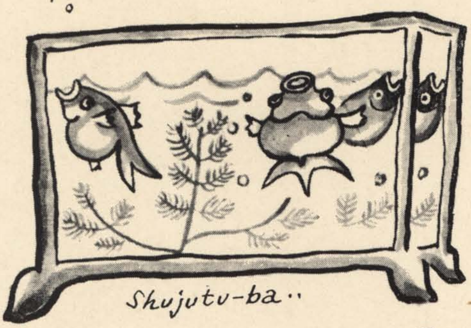
一、何時も馴染の　外苑救護
　　躍る光のうらゝかさ

一、酒は醫局よ　まはれば銀座
　　まはる銀座は六清會

一、寄せて返して　返して寄せる
　　醫局繁昌の人の波

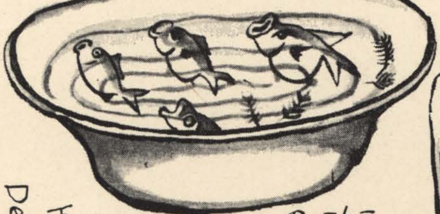
初夏が
訪れて
白亜の別館
でも
思ひ々の
容物に
金魚を
飼った。

四角の立派な容器は
陳腐であるが金魚の数が
沢山に見えてよろしい。。。



Shujutu-ba..

1933. Jun. PK



Minami-Byōtō.

Higasi-Byōtō

。。。また、、
洗面器を見ると
夜店の懐しさ
を想ひ出す。

けれど、、、
一番嬉しいのは、、
露路の中の円タクの様に
せまい思をしてゐる奴で、
後を向くにも仲々骨らしい。
どいつも、、、
O_2欠乏は争へないもので
切角入れた水草を無視して
下顎呼吸の、、、
Demonstrationをやってゐる。。

外科醫局の唄 （大漁節の節）

比古

一つとせ　人も知つたる慶應の
　外科の醫局の賑はしさ
　　外科は慶應だね　（以下同じ）

二つとせ　古い先生も新参も
　皆睦まじく元氣よく

三つとせ　見て呉れ手術出來榮えは
　疵もつかずに　跡もなく

四つとせ　夜でも晝も御研究
　當直室は　大繁昌

五つとせ　いつ來て見てもこの醫局
　笑顔と元氣大溢れ

六つとせ　無理と油斷は怪我の因
　怪我をしたとてすぐ治す

七つとせ　難病苦病も來りや治る
　胸の病も　亦なほる

八つとせ　野球優勝その外に
　何でも御座れ　外科醫局

九つとせ　今夜此れから出かけると
　一杯氣嫌の大元氣

十おとせ　十年有餘歷史ある
　ここ慶應の外科醫局

三十一文字田舍のアツペ

治生

もう少し早く解つてゐたらうに
　手を洗ひつゝ前醫を恨む

ルンバール射さうかしらと思つたが
　尿閉がいやでロカールにする

「うそだよ」と心の中で思ひつゝ
　「痛かないよ」と沃丁を塗る

四角巾一寸持ち上げへそを見て
　見當つけてノボカイン射す

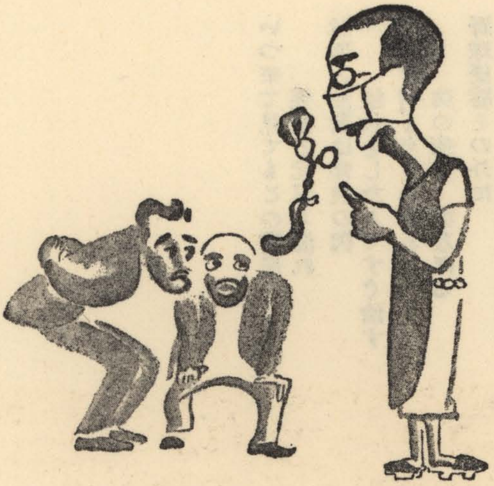
腹壁は痛まないのが當り前
　「痛みますか」とわざとたづねる

腹膜を一寸開くと膿が出る
　「これが膿です」と立會を見る

漸くにアツペを取つてホツとして
　汗を拭つて手術場を出る

親、兄弟、隣の主人、區の役員
　「いかがでせう」とズラリとならぶ

「手おくれ」と口まで出るが飲み込んで
　「たちが悪い」と說明をする



春の雪

治生

赤いマントに
　紫マント
雪の田の道
ならんで歩く

雪は朝から
學校の梅の
花に積つた
　春の雪

鐘のひゞきで
　學校が終えて
誘ひ合せた
仲よし小よし

赤いマントに
　紫マント
歸る田の道
　春の雪

床屋の鏡

治生

鏡の中の床屋さん
赤いネクタイ白上衣
バリカンなか〳〵上手だが
　オヤ〳〵その手がギッチョだね
鏡の中の僕の顔
頭はグリ〳〵一分刈り
お顔も剃りたて綺麗だが
　オヤ〳〵着物が左前

春近し

治生

春が來る樣な陽が照す
　遠い山にも野原にも
　半分出來たお家にも
春が來る樣な陽が照す
春が來る樣な聲がする
　散歩靴にも小川にも
　小板をけづるかんなにも
春が來る樣な聲がする

舘山の夜

治生

夜間飛行の標識燈は
　風の吹く夜に赤く點く
何處を飛ぶやら姿も見えぬ
　主を待ち待ち赤く點く

アルコールの力

つれづれ生

流汗兒の慨歎一方ならぬ恨めしい夏も富士救護を最後に燈下親しむの候とか、天高く馬肥るとか、古より名句を占有する紅葉の季節となつた。流石の彼氏もけろりとして秋色を滿喫してゐる。人並に何か漁つて見ようと燈下に親んでみたが一向に名文も名句も浮びそうにない。

一くさり修善寺旅行での一場面を書いてみる。扨て吾々一行豪の者はバスと汽車で運搬され、四方の景色を賞讃しながらと云ひたいが、寧ろやがて來る酒色にあこがれつゝと云つた方がぴんと來るかも知れない。

かくして一行は目的地になだれ込んだ。仲田旅館に旅裝をといた。一憩の後溫泉に入る者、列車中でのアルコールの爲コツプシユメルツで延びる者、とやかくして一際の疲れを忘れた頃夕食の傳令が飛んだ。

宴會は時と共に酣となつた。突然一隅より現れたる裸體の美少女では無くて、蟻地獄とでも形容した方が良いだらう、全く盜難よけポスターの泥公の足そつくりで而もワーデン筋のいやに膨んだ、寒けのする足の持ち主K氏の裸體、之れには流石に度膽を抜かれた。

春の夜は更け饗宴のさんざめきも何時とはなく消えて大方の人は磁石に引きつけられた樣に思ひ思ひの方向にふつ飛んだらしい。金庫を番して居るんだなんて先手を打たれたてれかくしに痩我慢を張つて居る人が唯二、三人居た。氣の早い人は己は一番槍だなんて意氣揚々と引上げて來た。

然し後での話だが、一番槍が大した品物で、唯單に時間と場所が違つて居た位で同一物だつたそうだ。己惚もこれ位で充分だ。

我もやつぱり人の子ぢや、夜の修善寺を一瞥せんものと表に出た。

アルコールは充分に利いて居る、見てもはつきりしないし、つまづいても差程にシュメルツをクラーゲンしない

全く良い氣持だ。橋を渡つて對岸通りに來た、ぷんと甘い香がするので良く見ると天津栗の露店がある。先づさぐ

りを入れて見た。

N氏、これなんや！甘栗やな、おやぢまけとかんか、こんないやらしい栗見たことないど、日本中探したかてあ

らへんわ、ナK。

K氏、こんな栗食へるかい、皆蟲が食ふとら、あかんあかん、こんなもんあかへんて！

K氏、無邪氣に屋臺を上下左右に振動させた。栗屋はぶつぶつ云ひ乍ら散亂する栗を整理してゐた。

其の間にN氏かんばんの栗袋を一つ物して內診したらしい。

N氏、なんや石ばつかりやがな、おやぢ石を賣るつもりやな、承知せんど、まけときな〳〵。むり云はんとまけ

ときちゆうに。

K氏、酒は飲むべし、醉ふたら喧嘩せ、

店ひつくり返してしまへ、やつてしまへ。

一瞬にして栗は四方に飛んだ、一摑み上衣のポケット二摑みはずぼんのポケットに、金はN氏の責任になつてゐ

る。拂つたか拂はなかつたか不詳だが、僕は多分拂はなかつたと思ふ。

それから暗い道を一丁ばかり上つてコーヒーと稱する飲物を飲んだ事は知つてゐるが、其後は意識モーロー、引

かるゝまゝに呼ばるゝまゝに何處を何う行つたか、何を何うしたか、何が何んだかさつぱりわからない。

「種にならぬ話」

醉狂生

（一）醫學士の過ち

俳聖芭蕉は野宿して旅寢の枕のもとに馬が小便するのを見てさえも、之れを詩的に歌ひこなしたと云ふことは、誰れでも知つてゐる話である。この小便に關聯して思ひ出すのは、彼氏が大學を卒業した翌年のことだ。即ち醫學士樣だ。平常突飛な無邪氣さを演じては誰れ彼れを苦笑させる彼氏と三四人、ある日活動見物に行つた。所が彼氏突然「女のメンスてとても澤山出るもんだナア」と感歎してゐる。「どうしてそんなことを云ひ出したんだ」と聞けば、「今便所に這入つてゐたら、隣の便所に女の人が這入つて來たので、好奇心に耳を澄してゐると、「ジアーツ」と隨分音を立てゝ出た。澤山出るもんだなアあんなに出たら體が弱るだらうなア」と彼氏案外本氣らしい。聞いてて馬鹿らしくもあつたが「それあ小便でせう。まさかメンスが音を立てゝ噴出するもんか。」と云つてやつたら「ア、そうか！道理であまり多いと思つた。」と感心して御座る。而も聖人君子ではなくて天晴れその道の達人であり、且つ又醫學士樣と來てゐるので、イヤハヤ詩にも歌にもならない話さ。

（二）彼れの若い頃

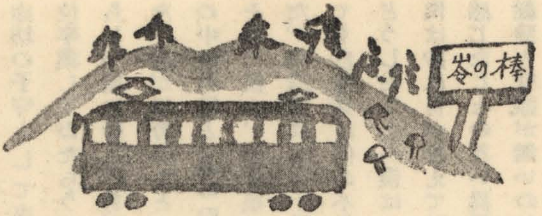
醫學生の最大の難關と云つたら、何と云つても解剖學の試驗だ。この試驗前許りはどんな呑氣者でも安閑たる譯にはゆかぬ。その頃になるとそれこそ傍で誰がどんな事をしようとも一心不亂？に勉强出來たものだ。所がその試驗が目前に迫つた或る日のこと、惡友二人やつて來てトウ〱彼を引張り出して仕舞つた。仕方なく彼れは勉强のノートを懷ろに入れて、親しい「ワルテン」へ行つた。勝手知つた家だし又晝間ではあり、彼れは早速二階の一間に行つて、テーブルを部屋の隅に寄せてノート

を讀み初めた。惡友二人は初め帳場に坐り込んで話をしてゐたが、その内惡友の一人が親しくしてゐる藝者が平常着のまゝ遊びに來たので、一同彼れの部屋に押しかけて來た。一しきり雜談に花を咲かしたが、彼は平氣でノートを讀んでゐた。遂に一人が勝手知つた押入から、かけ布團を一枚出して來て、敷布團もしかずに惡友二人藝者を眞中にして寢轉んで話をしてゐる。その中一人が「俺れは下に行つて來る。」と云つて襖を開け放したまゝ階段を二つ三降る音を立てゝ、ス早く引き返して二人の布團の足の方からソーッと頭を突込んだと云ふ譯だ。無論二人ともそんなことは夢にも知らずにゐる。彼は知らん顏してノートを讀んで居た。藝者はまだ若いし、又彼れが彼れ等の枕の横五六尺の所で勉强してゐるので、多少恥かしがつてしばらくは只コソ〳〵しながら、時々跳發的なクス〳〵と云ふ笑ひ聲が聞える。けれ共彼は平氣だつた。然るにトウトウ二人で……。何を……つて？。

時計のセコンドが廻るに從つて、彼等の呼吸は少しづつ荒くなる。時々感嘆詞的なしのび聲がもれる。初めの間木石と思はれる程冷靜だつた彼氏も、段々クライマックスに近づくにつれて頭が少し混亂し初めた。最後にはもうノートの字を讀んでゐるのではなく、只見てゐる丈けでちつとも頭に這入らない。さては頭や顏のあたりがボーッと熱くさへなつて來た。彼氏も矢張り名僧智識の類じやないと思つたらしい。然るに布團の足の方に頭を突込んで見物してゐたも一人の曰く「もうはずれるか……今度こそは外れるかと思つたが、トウ〳〵最後まで外れなかつた。」と歎聲をもらしたそうだ。彼氏は今ある學校のプロフェッサーになつてゐるとか、何れにしても馬鹿な話しさ。

(三) 棒の折れ

昔京洛に某と云ふ若い僧が居た。或日晝寢をしてゐるところ「火事だ！火事だ！。」と呼びさまされると、僧はむつくり刎ね起きて、いきなり驅けて行く途中物に躓いて轉んだ。所が轉んだ拍子に♂根を折つて仕舞つた。故



人○町○月と云ふ文豪は「其僧こそは稀代の快傑だ。かかる火急の際に於て倘折れる様な元氣に在つたことは以て滿天下の青年を激勵するに足る。」と云つて賞讃おく能はなかつた。隨分妙な處で感心したものだと思ふ。所が更に文献を古に執つて見ると之れと同じ様なことがある。

彼の畠山重忠と云へば、當時關東武士隨一の好男子であつたが、殊にその道にかけては亦あへて人にゆづらなかつた。或日鎌倉より急使が來た。「ソレ鎌倉！」と許り、おつとり刀で武藏野の原を一目散に走つてゐると「女院の山」と云ふ草許りで、樹木が一本もない丘にさしかゝつた。「女院の山」と云ふエロチックな名前を考へて重忠ニヤリと笑つてゐる折から、後方から「重忠様ア！　重忠様イノー！　と息せき切つて呼ぶ女の聲がする。即ち彼れを慕つて秩父の山の娘が追かけて來たのだ。重忠思へらく「折も折、處もよし」と許りニコリとほくそ笑んで…………。

所が彼の持ち物がポツキリ折れたと云ふのである。されど流石に快傑重忠、痛さをこらへて鎌倉には行き着いたかどうか知らんが、以後其の山を「棒の折れ」又は「棒の嶺」と呼んで、今では武藏野電車沿線の景勝となつてゐる。今では秋になると松茸が澤山出るそうだが、或は重忠その時思ひ切つて自分で切り落したか、又は重忠が浮氣をしない様にその娘が不意に切り落したか、何れにしても松茸の多いところから見ると其の山に切つて捨てたのが芽を出して段々繁殖したものと考へるのが一番至當であらう。重忠はその棒の嶺以後遂にイムポテントになつたとか。

（四）春期發動期の一瞬間

僕の友人の兄の思ひ出話しだ。此處ではその兄を僕と

云ふ代名詞で現はすことにする。

僕がたしか中學一年の時の夏休みのことだと記憶する

その頃まだ赤坊が如何して出來るかも知らない程子供で

あつた時の話しだ。僕は或日二三泊の豫定で、田舎の叔

母の家に出掛けた。行つて見るとその家に叔母の長男の

赤坊の子守として來てゐる十一か十二位の、併し尋常

位卒業してゐたらうから十三位だつたかも知れない可愛

らしい娘に妙に心を引かれた。妙に愛くるしく感じてゐ

た。所が田舎のことではあるし、晩になると大きい蚊帳

の中に叔母と、叔母の娘、これは僕より一つ年上だつた。

それに僕と、子守娘と合はせて四人床を竝べて寢かされ

た。無論僕はまだ小供だつたので皆と一つ所に寢かされ

ても自他共に何の不思議もない譯だ。然るにその夜中に

どうしたことか僕はフト目を醒した。勿論眞暗だつた。

僕は妙に目が冴えて眠れない。眠れない許りか、今まで

感じたことのない異樣な興奮にかられた。性的に何一つ

經驗と智識が無いのに…………。果ては自分のすぐ

横に寢てゐるのが、叔母の娘か、或は子守娘だつたかと

考へ出した。叔母の娘なら無論恐しいと考へたし又何の

對稱でもなかつたのだ。併しその何れであるかがはつき

りしない。僕は全く無意識のトリコとなつて、譯の解ら

ぬ興奮で一杯だつた。自分でも何をしようと云ふ確かな

考へもないのだ。只未知のあるものに引きつけられた譯

だ。叔母の娘なら僕より少し、丈が高いし子守娘ならそ

れよりもつと低いことを思ひ出した。無論燈を點ける

譯にもゆかぬし、ゆり起して確かめる譯にもゆかない。

僕はいよ〳〵あせつた。トウ〳〵息を殺して自分の手で

ソーツと相手の頭から足の先まで大體見當つけて計つて

見た。併しはつきりしない。二度もくり返して見たらう

それをするのに恐らく三十分も一時間もかゝつたかも知

れぬ。併し分らない。最後にはもう萬一間違つて叔母の

娘ででもあつたら、その結果が如何に恐ろしい事である

かも考へる餘裕がない程上氣してゐた。僕は全く夢中で

相手の娘に〇〇〇いて仕舞つた。ふくよかな肌の觸感を

へて全く面白い不思議な瞬間だつた。

(五)耳の感覺

音樂家の彼は耳が鋭敏だつた。「女が小便する時は其の音樂的リズムの中に、正に四ケ國の名前を云ふ。」何故かと云ふに「耳を澄して聞いて見給へ、最初に「キシユー、ツデバ〳〵〳〵〳〵」最後に「ビデン、ビチツ」即紀州、出羽、備前、備中だと。

あまり上品な話でもない。

得た瞬間、女ももう多分前から目を醒してゐたのであらう、聲こそは立てなかつたが、膝を上に曲げてゐた兩足を急にバタリと音立てゝ延ばしたので、僕はハツとして夢遊病から吾れに返つたのだ。正氣になつて見ると、しばらく何か知らん不安があつたが、隨分疲れてゐたと見えて、深い眠りに落ちて居た。

翌朝はもう昨晩のことなど全く忘れて仕舞つて、何氣なく起きて行くと、勝手もとの方から子守娘と叔母の家の長男の嫁とがコソ〳〵話しながら、二つの目が自分に注がれてゐるのを見て、ハツとした瞬間昨晩のことを思ひ出した。何か云はれるかなとビク〳〵しながら、まづい思ひをして朝食をすましたが、誰も何も云はなかつたのでホツとした。併しこれは全く自分で意識してやつたことでなく、ほんとに春期發動のある瞬間に偶然起つた所の無我夢中の、抑制し得ない行爲だつたので、自分でもはつきりそれに對して責任感も起らなかつたので、何時ともなく忘れて仕舞つた程の子供の時の話だが、今考

スポーツと救護

青山外科對抗競技

九月廿三日、朝より快晴、選手の意氣益々擧り、早朝より續々醫局に詰めかけた。

八時になるやならぬに、張り切つてぢつとしてゐられぬ四、五名が三色旗を肩に早や先發する。

帝大グラウンドに來て見ると、白線鮮かにダイヤモンドが書かれてあつて我等を待つてゐる、早速山上御殿にて身仕度を調へて練習を開始した。

我等の傍に敵軍も又バッチングを開始した、强敵と噂に聞いただけあつて、皆良い當りをしてゐるこれはうつかりはしてゐられないとひそかにふんどしの紐をしめなほす。

九時二十分　醫局一同の聲援のもとに野球を開始した。

野球メムバー

8 長坂
5 伊藤國
1 大塚
2 畠中
7 齋藤
6 古山
3 中野
9 百溪, 明樂
4 萩尾

三回我軍俄然打つて出て伊藤君より始る連續安打三本と敵失一つに一擧に三點を得四回又敵失を利して一點を加へ四對零とリードして樂に試合を進めた、しかし敵もさるもの六回七回に一點づゝを奪つて我に迫つたが、そのまゝ我軍敵に乘ぜしめず四對二と押し切つてしまつて先づ一勝した。

何年かの間敵軍に勝を讓つてゐたこの野球遂に我軍の復仇成り、幸先良しと、元氣一杯、一同次の競技場たる帝大タンクに向ふ。

水泳メムバー

1 伊藤(由比)
2 武藤
3 野崎
4 布留
5 笹島
6 田村
7 齋藤
8 田中
9 瀬尾
10 岩原

一寸見ると薄氣味の惡い帝大タンク、水面を遙かに見下して鐵の柵につかまつて聲援する。

號砲一發、先づスターター伊藤先生飛びこんだが、二十米ターンにすでに三、四米おくれその後我軍練習不足かピッチあがらず、又ターン描く、最後に瀬尾、岩原先生の力泳も甲斐なく、遂に約三十五米の敗を取る。

リレー・メムバー

1 藤原
2 岩原
3 小平
4 山口
5 布留
6 伊藤(原)
7 畠中
8 大塚
9 伊藤(國)
10 長坂
11 古山
12 百渓

ボートが先づ勝味がないと云ふので、このリレーが勝敗の分け目となつた、足が早く、しかも押し

のさく藤原先生をトップとして、先づスタートより敵軍をおさへんとする我軍の策戰圖に當り、敵のトップ、藤原先生の頑固さに顏負けしたか、轉倒しその爲我軍皆樂に走つて尚三十米を離して、悠々と勝つ。

以上にて二勝しテニスかボートに一勝せばカップは我が物と、先づ〳〵ほつとした。

庭球とボートは午後に行はれることゝなつて、山上御殿にて、すしの御馳走になつた。

ボートの選手は一時に出發した、その他の者はテニスコートへと向ふ。

ボート・メムバー

Cox 齋藤
S 布留
5 伊藤(原)
4 笹島
3 大岡
2 藤原
B 田村

此の日はあたかもインター・カレッヂの當日だつたので言問でレースをすることが出來ず、殘念であつたがしかし船が不足の中を帝大の方の御好意と、御骨折りによつて東京火災の船を借ることが出來たのは幸甚であつた、かくして水神より鐘紡まで六百米のコースによつてレースを行つた、我軍大いに力濟につとめたが遂に一艇身おくれ涙をのんだ。

テニス・メムバー（テニスの部參照）

塚樂　中尾　林　山田　野江
森
(大明　(田萩　(若　(古島　(中釜

大接戰の內に明樂組勝ち、つゞいて田中組が勝を取つた頃、ボートへ行つた連中が引きあげて來て敗戰をもたらす、かくなつてはこの一戰こそ天下分ヶ目と、大いに張り切り、若林組又勝つて遂に勝負を決めた。

斯くして遂に三年振りに、青山、茂木カップは我が手に歸し、一同思はず凱歌を奏す。

續いて山上御殿に於て、青山外科御主催の懇親會が催された、運び出されるヂョッキの數々に快く酩酊し、歡談盡きる所を知らず、宴半ばにして、優勝カップが敵將の手より我が軍の異彩H君に渡された、感極つたS先生この大盃にて乾杯し快哉を叫ぶ。

宴果てた後、幸樂にて祝勝會を催す、優勝カップをめぐつて亂舞又亂舞、遂にカップは入院の憂き目を見るに到る。

病院へ引きあげた一同、茂木部長宅へ御報告に伺ひ、ビールの御馳走にあづかり、F先生を音頭取りに、東京音頭でメートルをあげ、部長宅を騷す。

尚元氣餘れる一同は二次會へ、三次會へと、夜の更けるを忘れたと云ふ。

◎醫局庭球便り

△醫局庭球リーグ戰

毎年勝つ〳〵で勝つた事のないのが外科、併し今年こそどんな事があつても優勝すると云はれたのも外科、それ程今年は優秀な新人醫局員が澤山入つたので大いに元氣よく第一回戰小兒科と爭ふ、所が三―〇とは餘りのみじめさ、淚も出ない、ましてメムバー等。

△對靑山外科庭球

此の日此のテニスがカツプの分れ目となつたとは、お蔭でコートは觀衆に埋り、野次大いに飛び試合氣分滿點、この花々しい場面にて昨年の復讐をせんものと選手一同の意氣大いにあがる。

明樂、大塚トツプをうけたまはり、例の圖々しさにて簡單に2ゲーム取りたるも次の2ゲーム大塚上り氣味にて凡失多く、ゲーム、カウント2オールとなる、いよいよ最後のゲーム觀衆かたづをのんで野次も飛ばない、しかし流石は古豪明樂俄然確實に打ち、大塚も又これに氣をよくして振ひ四―〇にてゲームを奪ひ一勝す。

荻尾、田中トツプの優勝に氣をよくして、十分に技のさえを見せ簡單に三―〇にて勝つ。

若林、森、相手は若林君の弟君、兄貴の貫錄を充分見せ、それに後に鬪將島田、古山あり新進釜江中野の二組が控えてゐることゝて樂々三―一にて優勝す、流石に若林君のテニスには卒がなく、森君

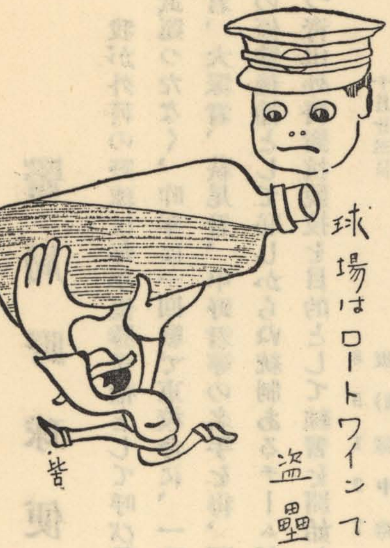
昔忘れぬ腕のさえを見せ、觀衆をやんやと云はせる。

かくして三—〇にて優勝して一同面目を施すと同時に青山茂木カップを三年振りにものす。

かく優勝するにあたり暑中炎天下に部員一同を勵まし共に汗して下すつた百溪、橋本、照井。伊藤(國)、小平、山口、高橋諸兄並びに應援下さいました諸兄に厚くお禮申し上げます。

△暑中醫局へボテニス大いに振へる事（銷夏法の一方面）

七、八月は誰でも暑い、暑い〳〵でひつこんでゐても暑い、そんならいつその事外へ飛び出して思ひ切り暴れて汗を流せと云ふのが事の起りで俄然テニスが流行した、意氣なブレザーコートを着て出掛けるのがM先生、草履をはいてボソ〳〵走るのがH先生、その他A—B—C—D……いづれもあまりうまくないのが特徴で、打つたボールは或は高く或は低く飛び廻る、それでも一週間二週間とやる間に下手は下手なりに當りが出て來て又面白くなつてやめられない。



ぐつしよりかいた汗をさつと流し落し醫局でビールを飲む時の快さ。

こんなことがとうとう九月まで續いたとは嘘の様な本當の話。

醫局野球便り

我が外科の野球は毎年優勝後補として呼び聲高く、敵陣を脅かしてゐる。そして蓋をあけて見ると武運つたなく、昨年は一回戰で東校舍に、一昨年は決勝戰に小兒科に無念の涙をのんだ、本年は長坂君、大塚君、萩尾君、中野君等の名手を得、百溪先生を監督とし意氣大いにあがり、これこそ本年度の優勝後補として恥しからぬ統制あるチームが出來上つた、別館脇の新グラウンド完成を期とし、先づ青山外科對抗競技を目的として練習を開始した。

十月廿三日　對 青山外科

長坂	8
伊藤(國)	5
大塚	1
畠中	2
齋藤	7
古山	6
中野	3
百溪,明樂	9
萩尾	4

四對二　大勝

十月四日　對 東校舍

伊藤(國)	5
大塚	1,6
齋藤	8
長坂	6,1
伊藤(原)	9
山口,畠中	2
若林	3
百溪,小平	7
萩尾	4

六對一　大勝

リーグ戰の前哨戰として兩軍大いに張り切り健闘し、敵軍遂ひに我が威力に屈す。

十月十一日　對 傳染病研究所　於目黑植物園

長坂	6,1
伊藤(國)	5
大塚	1,6
畠中	2
齋藤	8
中野	7
山口 伊藤(原)	9
若林	3
萩尾	4

十五對零　大勝

敵は帝大にて强剛を以て知られた傳研チーム、されど我が軍の打力大いに奮ひ十四本の安打と七個の四球を得て快勝しいよいよ自信を强めた。

十月十七日
醫局對抗リーグ戰第一回戰
對小兒科　五對零　大勝

6	長坂
5	伊藤(國)
1	大塚
2	畠中
8	齋藤
3	若林,古山
7	中野
9	山口 伊藤(原)
4	萩尾

前日の憂欝なる天氣に引きかへて、この日は將に快晴天高く氣澄み、この事實上の決勝戰とも云ふべき對小兒科の試合にまことにふさはしい良き日であつた。

午後二時河合審判のプレイ・ボールによつて試合の幕は切つて落された、我が軍は强氣に出て先攻を取り一回一擧に三點を獲得して意氣大いに擧つた。

四回我が軍古山君をピンチ・ヒッターとして出さんとした時敵主將和泉先生より抗議があつて、先年小兒科於ても福島君を遠慮さしたから、外科の方も何とか考慮して吳れと人情に訴へて來た、百溪監督も人情に訴へられては喧嘩にもならずいさゝか困つたが、流石は千軍萬馬の古山君少しも騷がず

「僕は兵隊ぢやない、將校です」

「兵隊も將校も同じぢやないですか」

「いや違ひます、將校は兵隊ぢやありません」

「…………」

和泉先生遂に何が何やらわからなくなつてしまつて古山君の出場を承諾する、古山君欣喜雀躍バッター・ボックスには入つて打つたのが本壘打と云ひたいが三振した。

其の後大塚投手の調子益々良く敵に乘ずる隙を與へず押し切つてしまいました。百溪監督より豫めお達しがあつて、小兒科の如きに勝つても、徒らに喜んではならぬとのことであつたので、一同苦蟲を嚙みつぶした樣な顏をしたつもりで（その實皆ニコ〳〵してゐた）醫局に引きあげた。

其の夜幸樂で會食をした、（決して祝勝會ではない、）一同同じことを繰り返し〳〵話をして少しも飽きず、議論をしても喧嘩にならず、ビールを飲むのも忘れて快談數時間に及んだ。

十月二十二日
醫局リーグ第二回戰
對　藥物醫化學軍　八對一　大勝

長坂	6,1
伊藤(國)	5
大塚 / 百溪	1 / 8
畠中	2,6
齋藤	8,2
小平 / 古山	9 / 3
伊藤(原) / 中野	7
萩尾 / 山口	4 / 9
若林	3,4

この日は丁度早慶戰の當日であつたが、午前九時より試合を開始した、敵投手は前年の我が投手であつた布留先生、和氣靄々の間に我が軍程よく打つて勝つ、途中から調子を下げて敵に一點を與へたのは返す〳〵も殘念なことであつた。

十月二十五日
醫局リーグ決勝戰
對　東校舍　八對零　優勝

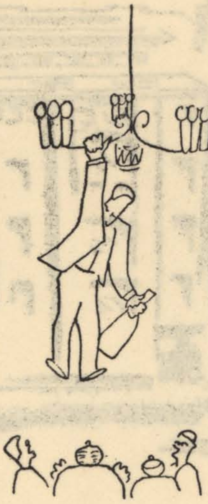
長坂	6
伊藤(國)	5
大塚	1
畠中	2
齋藤	8
古山	3
中野	7
若林	4
萩尾	9

この日特筆大書すべきは敵のノー・ヒット・ノーランであつたことである、我が軍の優勝を飾るに全くふさはしい記録である、尚敵の壘に出でたるもの僅か四人、三壘を踏みたるものなしと云ふ有樣であつた。

ゲーム・セットの聲と共にＩ先生別館屋上より大旗を下げる、曰く外科優勝萬歳

一同醫局に引きあげて婦長御馳走の鳥飯に舌鼓をうち乾杯。

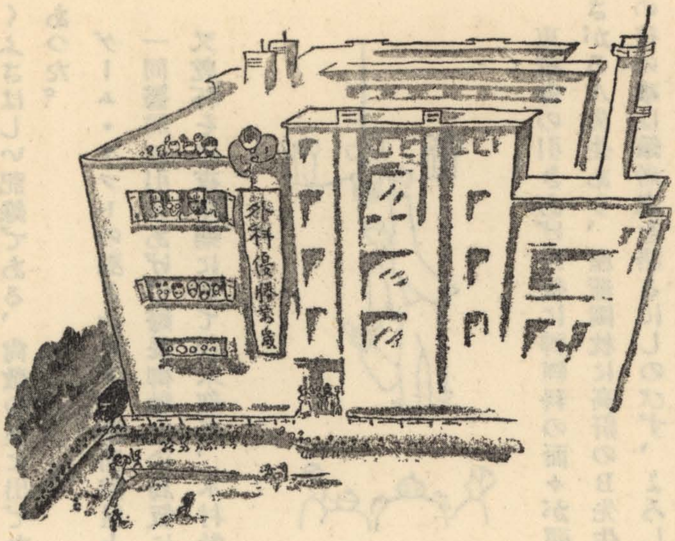
又乾杯その夜幸樂に於て茂木部長、木村教授、町田助教授の御出席を得て盛大なる祝勝會が催された。



宴半ばにして、同夜同所にて慰勞會を催してゐた東校舍の一同が川上教授を先頭に押しよせた、我又これに應じて暫時共に東京音頭を踊る。

我がＨ先生感激の餘り川上先生の顔を嘗めまわす、川上先生泣き笑ひの體にてＳＯＳ。

東校舍の引きあげた後に神經科の面々が顔を見せた、その頃は早や亂鬪の巷でシャンデリアにぶらさがるＡ先生あり、座蒲團枕に高鼾のＢ先生あり、腰を拔かしたＣ先生あり、いやはや落花狼籍、その後の事は筆者之を語るにしのびず、よろしく御想像にまかせる。



野球は如何にして優勝したか

野球定九郎

青山外科を始めとして醫局リーグ戰にも優勝して外科の野球は旭日昇天の勢にある。リーグの決勝戰を見た人は如何にも引緊つた氣持ちのいゝチームを見出した事と思ふ。どうして此麼チームが出來たか徴か何とか貝に近きものを吹いて見よう。第一に歷史である。外科の野球團は決して弱くは無かつた其の昔三度許り優勝した事もある。代々器用な人が多くて最近は何時も優勝後補であつたが、どう言ふものか惜しい處で長蛇を逸して居た。

今年は別館裏に一寸小綺麗な運動場も出來たし數名の素質の良い選手も加はつたので、何となく無敵チームが出現する時機が來たのでは無いかと言ふ様な氣が

して來た。夏休みが濟む頃から運動場が地慣しを終つて九月十六日の運動場開き前にはぼち〳〵個人で練習を始められる様になつたけれども、未だ外科のチームは誕生して居なかつた。いよ〳〵九月二十三日の對青山外科の日取りが定つた頃チームの組織を如何にするかゞ問題にされる様になり、今年は野球だけは青山外科に勝つ事が第一番の問題であると思ふ様になつた。其の當時チーム全體が一致團結する力がどの位强いものであるかと言ふ認識は餘り明かで無かつた。今迄の經驗上試合の最中に思はぬ失策を生じて惜しい負け方をして居たので萬全の準備を以て備へ、計畫的に事を運んだなら後に遺憾の無い試合が出來るだらうと豫想された。醫局内の對抗試合や他の醫局との練習對抗試合に依つて青山外科に對するメンバーは次第に定り、バッター順も打力と走力の順に次第に無理の無いものが生れて來た。三階に集つて一應策戰會議を開いて守備の際の連絡對手バッターのマークすべき人々對手の投手の力量、性質、當方の攻擊に對する一致した主義等を取定めた。更に或人の勵めにより本鄉君に當方の策戰の批評と投手の撰擇をしてもらつた。色々細い點で得る處があつたし策戰等は隱當であると烙印を捺されて愈々自信をつける事が出來た。青山外科の場合攻擊に於ては打擊についてのみ一致した策戰に出たのと、最初の試合であつたので得點に就ては成功したとは思はれ無かつた。併し守備に於ては策戰の適中と幸運があつた。即ち大塚の速球は長打される懼れがあるので外野にも主力を備へる事を忘れ無かつた。果して左中堅に約六七本の長打を飛ばされたが、幸に帝大の廣大な運動場であつた爲に難なく是を喰止め得た。反對に地面の凹凸は可成り甚しかつたに對し當方は匍球を

以て報じたので對手の失策を多からしめて幸にも凱歌を擧げ得た。此の試合には未だ選手は精神的にも技術的にも幾多の不慣れがあつたので上々の出來とまで行かなかつたと思ふ。

十月十七日の對小兒科の試合迄には度々練習試合をして色々の經驗を得た。其の中で最も重大な點は攻撃に於ては打撃と共に盜壘を甚しく重んずる必要のある事を氣付き、一致して走壘する策戰を取つた。此の策戰のテストに用ひられた傳研は七回戰で十五對〇の憂目に會はねばならなかつた。小兒科に對した時は守備に於て自信があつたと共に今迄の單なる攻撃と言へば打撃といふ考へを改め、稍々異つた意味での攻撃即ち得點に對する自信を持つて居た。併し初めて勝たうと言ふ試合であるので選手の氣持ちは樂では無かつた。守備に對しては運動場の狹い關係上外野の兩翼には捕球よりも寧ろ打力の秀れた人を配し、遊撃と一壘に守備範圍の廣い人を置て外野の缺を補ふ事にした是によつて攻撃に付ては打撃の秀れた人を大體に於て全部揃へる事が出來た。勿論速球投手の奥田君が出るか緩球投手の田村君が出るかで此の攻撃の策戰には多少の喰違ひを生ずるのであつた。戰ひに於て攻撃は全然裏をかゝれた奥田君は一夜にして豹變して緩球投手となり我軍の打撃は完全に封じられた。最初に三點の得點が無ければ此の陣容は不安の内に途中で變へねばならなかつたと思ふ。大塚の投球は畠中君の好助を得て次第に巧妙さを增して來た。勿論後助の後を務むる長坂緩球投手も練習試合に於て相當な出來である事が解つて居たので大塚の連打さるゝ事は五回以後に於ては差支へない事になつて居たが其の心配も無く最後迄投げ續けた。

準決勝の藥醫軍は我チームが次第に昇り坂になつて居る際に、かゝる弱軍と試合して倦怠する事を恐れた決勝戰が近いので四五回は大塚の肩ならし、後は長坂の肩慣しに用ひ試合の後半は全然遊戯慰勞の陣にして了つた。

十月二十五日の對東校舍決勝戰は我軍の最も整頓した陣容にあつた。對手としても不足は無く眞に實力を試す時と思はれた。併し殘念な事には鴨打投手は無理なカーブを投げた爲肘を痛めて中頃にして其の位置を譲る憂目にあひ久保田君の苦心は水泡となつた。我軍の大塚投手の出來は完全に對手の打撃を封じ、たま〳〵の好打は好守によつて消散し、二壘を踏む者二者に過ぎず。反之我軍は安打十一本を以て報い完全に勝利を把握して了つた、投手以下の守備と言ひ攻撃と言ひ最も高潮に達した我軍の陣容を現出し長年の夢は此處に事實として現した感があつた。

投球と言ひ捕球と言ひ、打撃と言ひ走壘と言ふも、投げんとする者あるも捕けんとするもの無くば野球は成立しない。走壘せんとする場合打者は是を助けざれば思はざる失策を來す。人の一致せる行動の重んぜらるゝ野球に若くものは無い。勿論何人も知れる處ではある。然しこの僅かの心掛けが斯くも重大なる結果を生じ、斯くも強力なるチームを生むものである事は豫期せざる所であつた。策戰に對し選手は何等介意する處なく一致團結し、醫局員諸兄は多大の後援ををしまざりし事は此の精華を完成せしめ又續かしむる最大の原因であると信ずる。

本シーズンに於ける外科チームの戰蹟

長　坂

「敗軍の將何をか語らん」とは違つて常勝の將大いに語らう。併し主將どころか今年はいつたばかりの一兵卒が先輩諸兄のいらつしやるのにも厚かましく、本シーズンに於ける我が外科野球部の戰績等に就て少しく語り度いと思ひ筆をとつた次第です。併し醫局の皆々樣は野球技や野球術についてはよく御存知の方々ばかりで小生の批評の如き甚だつまらない事ばかりだとおつしやるでせうが、よく知つてゐる樣で知らないのが世の常と申しますが、全くその通りで一つ二つお氣にとまりましたら幸甚と思ひます。

本シーズンに於て青山外科との試合に勝ち、醫局の野球に優勝したのは我が外科が相手より强かつたからだつたに違ひないのです。何故に强かつたか？そこに團體競技たる野球の中に色々ときざまれたる要素が相手より一般に優れてゐたのです、偶然の然らしむる所では決してないと斷言できませう。

先づ**第一**に外科野球部の主將の出來た事。主將のないチームと云ふものは無いけれど、チームを立派に統卒するに足る主將が居なくて强いチームは殆ど一つもないでせう。幸運にも畠中副主將が戰術方面に補佐した爲にます〳〵輝きを增した感が深かかつた。この主將こそ誰も知る脊の高いあごの長

い講師云はずもがなである。

第二に新グランドが出來た事。グランドが出來た事はどの科にも好都合な條件の一つに違ひないが我が外科は他と違つて世帶が非常に大きく、他のグランドで試合したり又練習したりすると手術等でどうもまとまりが惡い。幾ら良いテクニックを持つてゐても練習しなければ駄目だ。下手なものでも練習したものには確實性に於て叶はない。幸にも新グランドが出來てよく練習出來た事は優勝の一大原因と考へます。

第三に外科チームの各人が眞面目にプレーしたる事。今迄のうわさに依ると外科チームは優秀なプレーヤーがゐるが何故負けるのだらう？と聞いてゐた。それは恐らく眞面目にプレーしなかつた事が一大原因だと想像してゐます。例へばボンフライを打ち上げる打者はバットを投げすてゝ走らない。之は今迄でしたでせう。今年は必ず夢中に迄ゆかずとも相當に眞面目に駈けた。神ならぬ人間のする事には必らずエラがある。このエラを生かす事そこに野球の眞に面白味のある所でせう。相手の失敗を喜ぶはスポーツマンライクでないと云ふかも知れませんが、こちらが眞面目にやつて得たエラは實に立派なものと私は考へる。その際に二壘、三壘に走者が居ようものなら悠に二點は得らる。亦眞面目に走ればフライよりもゴロを打つた時の方が遙かに有効である。何故かと云ふにフライはプレーヤーが捕るか否か一度しかないがゴロを打てば先づプレーヤーがゴロを捕るか否か、そのプレーヤーが上手に投げるか否か、次に一壘手がそのボールを上手にキャッチするか否かの三點にある。即ち三倍

の生きる率がある。その上打者が夢中に走ればプレーヤーがあわてゝ失敗する可能性が增す。これは單に一例にすぎないがこの樣に眞面目にプレーした事は外科チームが他と較べて少しうぬぼれてよいと思ひます。

第四に外科チームが非常に元氣だつた事。外科チームは昔より元氣だつたと聞いてゐますが、今年は他と較べてずつと元氣でした。と云ふのも若いのが揃つてゐたと云ふ事もありませう。「元氣を出せ」と云ふ詞はよく云はれる事でありながら中々實行し難い一つなのです。元氣の爲に例令弱くとも立派に强者を負かす事が出來るのです。

第五に非常によくまとまつてゐた事。試合に勝つ爲には單にグランドでのみでは駄目でせう。普段よくまとまつて氣が合つてなければならない。その現れとして今度は試合の度毎に三階で作戰會を開いて相手を硏究し又味方の弱點を云ひ合つて直す樣にした。この集りには誰も缺席する事なく如何に外科チームが張り切つてゐたかを見逃す事は出來ない。

その外未だ色々とありませうが重なる事はすんだと思ひます。ですから外科チームのやつた試合の方に筆をすゝめます。

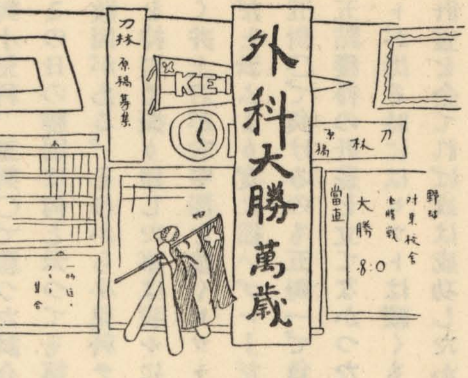
對青山外科、四對三で勝つた。

この日の策戰は初め待球主義に出た。青山外科の淸水投手はさるものどん〳〵眞中を投げて來る。二回目には走者を二人も出して置きながら待球主義が餘り嚴格すぎて失敗した。三回目より策戰を變

へて第一球より打ち出した。之が見事成功し三點を得た。そしてこの日の一大勝因を作つた。この日投手大塚君の出來がよく清水、小原氏等を相當に抑へたのは偉とす。確か四回目位でしたと思ひますが、この時メンバーを變へようとしたのですが、こう云ふ時即ち味方が張り切つてよい調子にある時は決してメンバーを變へるものではない。ひどく點數の差があれば別ですが三對一位の時にはその儘で押し切る樣に努力すべきであらう。と云ふのはかゝる時メンバーを變へた爲に敗因を作る場合が比較的多いからです。

對小兒科、五對〇で勝つた試合です。

この日の勝因は何と云つても第一回の三點がものを言つてゐる。即ち長坂、大塚を四球に出した所に敗因がある。それから小兒科チームが比較的スピードのある大塚投手の球をいつもの癖か長くバットを持つて振り廻した事は我々にとつて有難かつた。第九回の裏に染谷君がヒットで一壘に出る。つゞく井上君が右中間を拔くヒットで出た。その時染谷君が一擧本壘迄走つてアウトとなつたのは氣の毒だと云ふより實に拙いプレーだつた。小兒科に云はせれば一點を取りたかつたと。併し試合する以上五對〇で負けるのも五對一で負けるのも勝負には變りがない何故最後迄勝たう〳〵と云ふ意氣込みで五點獲得の計畫を立てなかつたのか？ 染谷君が三壘に停り一アウトで走者一壘、三壘となる。ヒットが出る時にはヒットは續くもので亦エラも續き易い。その上投手がくさるからこの所自重して五點計畫を企てれば或は成功したかも知れない。



對藥物醫化學、八對一で勝つ。

之は實力の差如何ともし難く外科の勝利は順調であつた。この試合は決勝戰を三日後に控へての試合であつた。この時第二選手を出す或はポヂンションを色々に變へて出す等と云つてゐたが初めよりメンバーをちやんと整へて眞面目に試合した所による所があつた。兎角油斷大敵とはよく云つたもので初めの失敗が最後迄たゝり敵は調子にのり最後迄押し切られる事がまゝある。この日は正メンバーでやつて堂々と勝つたのは賞するに足る。

對東校舍優勝戰、八對〇で勝つ。

この試合には何んと云つても大塚君の出來のすばらしいに較べて鴨打君が腕を痛めてスピードもカーブも大した事なく、その上コントロールを失つてゐたのが一大敗因でした。こちらではヒット性のボールが打たれても古山若林君がよくつかみ、その上左翼中野君が金網にぶらざがる樣にして捕へた等偶然と云ふより練習の賜と考へたい。

去年よりは今年、今年よりは來年と進歩のある所に我々の生活の價値がある。外科のチームも向一層進歩への道をたどつてほしい。かゝる爲に弱點を改め長所を生かしてほしい各個人に就て弱點を一つ〳〵述べようと思ひましたが恐らく自覺して居て述べる必要もないと思ひましてやめる事にしました。終りに望み外科チーム並びに醫局全諸兄の健康を祈つて筆をおきます。（八、十一、十）

「擱筆にあたり終始御鞭撻を賜りたる百溪講師に深謝す」と入れないと又カップが毀れちまいます。（校正係）

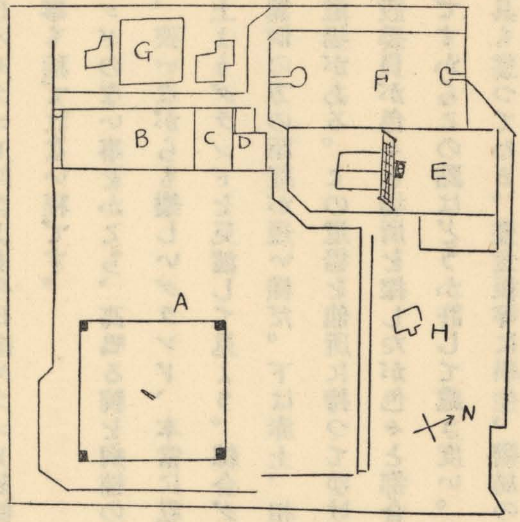
新運動場

長坂

皆様御承知の様に醫學部敷地の西に位し、豫防醫學教室と別館との間に我々の新運動場が建設された、九月十六日のグランド開きより今日迄グランドを使つてない日はなく、グランドの使用權を得るに相當骨折る事も稀ではない程です。

長い間グランドのない事をかこち、高鳴る腕を病棟の庭や道路で僅かになぐさめてゐたその時に出來たグランド、狹いながらも樂しいグランド、本當に私達の大なる喜びであつた。

扨別館の屋上よりグランドを見渡して見よう。綜合グランド之は云ふ迄もなく主に野球の爲に使はれてゐる。左翼側の方の距離が短い樣だ。下は赤土、相當平坦だ。併し神宮球場と迄はゆかぬ。左翼の後ろに新弓道場がある。この道場を他所に持つてゆけばいゝだらうと誰も考へる。成程さうだ。併し之は我々建設委員が色々と場所を探したが色々と都合が惡く仕方なく弓道場は現在の所へ聳えてゐる次第です。ですからこの點はどうか許して戴き度い。その變り弓道場は日當りもよく、立派な道場で色々の諸道具も整つてゐる。晝食後等に學生、醫局の方々が樂しそうに那須の與一を決め込んで白



A　綜合グランド
B　弓道場
C　射場
D　一般更衣場
E　豫防テニスコート
F　籠球コート
G　汚水處分所
H　マラリヤ小屋

い的に向つてプッスーくと云ふ音を立てゝゐる。同じ建物の後ろ半分が一般更衣所になつてゐる。
グランドの一番すみに籠球場がある。新らしい試みとしてアスフアルトのコートだ。元氣潑溂たる若者恐らく部員の猛練習と見へる。猛烈なスピードで縦横に走り廻つてゐる。
籠球場の手前に豫防新設テニスコートがある。相當によいコートだ。二人の敎室員がのんびりと球

を打ち返してゐる。この小さいながらも相當充實したグランドは容易に出來上つたのではない。一二年前から委員長前田和三郎先生以下我々運動部關係者が色々と案を練り、醫學部長始め諸教授、諸先輩や學生も入れて約八百圓の寄附金を集めた。之れと今春體育會四谷部が生れ體育會より千圓以上の金に合して作つたのでした。

九月十六日には盛大なグランド開きが催された。林塾長、北島醫學部長も見へて華々しい國旗掲揚式が先づ催され次いで學生對醫局選拔次いで三田對四谷の先生の野球試合であつた。四谷群多くの學生、看護婦連の居る前で負けては面目ないと思つたか大いに張り切り加藤教授の滿壘の時の二壘打もあつて斷然リードしたが、段々追ひ付かれて仲よく八對八の引き分けになつたのは面白かつた。

その後ビールとサンドウイッチの粗末ながらも華やかな立食會が始まり新グランドを見つめて跳り上つてゐた。

醫局の皆樣方! どうぞこの新グランドを大ひに可愛がつて使つてやつて下さい。溫和しく研究室にのみ閉じこもつてゐる方々……時には Helio therapie の積りでいらつしやるのもよいでせう。野球弓バスケット等何時も準備がしてあります。では皆々樣の健康を尙一層の健康をこのグランドと共に祝福したいのです。(八、十一、十五)

弓道場の話

（有鈎攝子）

左翼に放つた大きな當りは打者にとつては物足りなく、バックして受取る自信のある外野手にとつては又々殘念至極な事であらう。弓道場の爲にグラウンド左翼の狹められたといふことになると、弓も野球もどつちもやらうといふ人は甚だ遺憾な顏付きをせねばならぬ。

が兎に角、今秋はグラウンドのお蔭で皆顏色もよくなるし、野球の話だけでも我醫局は活々としてゐる。別館が出來て病室が增え、四階に登つて見晴しも出來れば、又狹いといつても運動場で樂しめると共に、弓黨は又甚だ心地良い弓道場を作つて貰つて大喜びでゐる。

「正己而後發」北島先生の書が道場に揭げてある。北島先生の文句ではなくて、昔からの弓の精神を云ふた語であらう。良き手術者は心を落付かせて而して冴えたる腕を見せる。我田引水の感あれど弓道に於て正に然りである。弓道が心の鍛練として斯くまで好適なる上に、那須の與一の如き純然たる對抗競技となつた事もあるからには今日のスポーツマンも宜しく一通り心得置かるゝがよからう。道場には時々三田の師範も來るし又學生連中に仲々上手なのが居るから何時でも敎へて貰へる。特に醫局員の爲に暮れてからも引けるようにと電燈の設備もある。寒風身に浸む頃となつても、片肌ひろげ、臍下丹田に氣を修めて滿と引きしぼれば、中らずと雖、身心爽快となること夢々疑無し。

その昔三階の汁粉を賭けて的の黑星を狙つた方々は、四階のぞうにでも賭けて、一つ始めませんか？

三四會運動會

秋の運動シーズンも終らうとする十一月二十二日我が三四會の運動會が行はれた、プロフェッサーのレース等仲々面白いものも見られたが、我々の最も力を入れた對醫局Aクラスリレーはグラウンドの觀衆（餘り多くないが）をうならせた。

午後四時スタート。藤原君スタートダッシュ物凄くも僅かにリードさる。コーナーにかゝるや對手の內科、婦人科を押へて二米をリードしてバトンを畠中君に渡す、畠中君之をその儘持つて齋藤君に渡す時このバトンタッチに際し僅かに婦人科に再びリードさる、婦人科も仲々强い、續く軍醫中尉は古山君、小男の萩尾君、土佐の猛將岩原君、夕陽の蔭を蹴散して手に汗を握らせる、次の走者大塚君にバトンが渡るや十米の差を縮めて五米とす、次の伊藤國君とのバトンタッチ宜しくこゝにて逆に婦人科を五米離す、更に長坂君によりこの差を二十米とし、最後の百溪君フォーム宜しく悠々と約三十米を離してゴールインす。「唯今の一着外科、タイム〇〇分〇〇秒、二着婦人科、三着內科」場內のアナウンスだ賞品のビールの箱を臺に野球優勝杯、リレー優勝杯と並べて夕闇迫る外苑のトラックに外科の萬歲を三唱す。

昭和八年

富士山救護座談會

人　外科醫の卵　拾餘名

時　昭和八年十月　或雨の降る日

所　新宿のとある dinning room ホールの一隅を仕切つて眞中の食卓には白布の上に草花を飾る。一同此を圍んで着席。今は皿の上には扭れ麵麭のみであるが追々酒肴現はるる氣配。忽ちに饒舌が始る。喧々囂々又響々。

「飲んだ奴居るかい。五合目の酒は酷いな。」

「あの酒はさう惡くはないよ。頭には來ない。」

「その代り足に來るんだらう。」

「松茸が一貫目百八十圓だつたからね。」

「噓だろ。」

「僕は食べたよ。いゝや松茸をさ。」

「君の頃は廉くなつてたんだ。」

「俺は毎日オニクの風呂へ入れられたよ。先生は體が惡いとかなんとか言はれてね。お風呂へ這入つてると背中を流しませうと來るんだ。」（嬉しさうにO）

「いや俺もさう言はれたぞ。」（笑聲）

「chi 君の砂滑りは凄かつたんだよ。言はうか。」（K醉顔にて chi を窺ふ）

「實際へばつたよ。apathisch で何も分らなくなつてしまつたよ。ハハーと成つてしまつた。」

「太つた俺が立つて歩くのに、チコさんも縱になつて歩くと思ふから。」

「Kが五合へ着いた時 chi ちやんは未だ三合目だつたつて言ふがね。」

「何しろOに少からず負けてるよ。O先生に宜敷々々つて言はれるんだもの」（一同Oを顧る）

「俺には些つとも言はなかつたが、何か惡い事を爲たかつたか。」

「否その頃は餘熱が冷めたんだよ。」

「八合目の郵便局長の奴が面白いんだ。彼奴迚も救護の助手をやりたがつて。」

「兎に角、女學生つたら、注射を一筒宛打つた人があるんだから。」(一同Sを顧みて爆笑しばし)

「毎年人が死ぬなんて事は無かつたさうだが、今年はあつた。高山病の酷いのに會つたのは誰?」

「内科のg君が會つた。俺は Magenkrampf の凄い奴だ。」

「俺の妹が行つた時は妹は元氣だつたが、妹の友達がぶつ倒れて脈が殆んど觸れない。」

「結局山を下げるに限るね。俺がさうなんだ砂走りを降り始めると頭痛が無くなつて來て、五合へ着いたらすつかり癒つたね。」

「お金ちやんが居るせいだらう。」(笑聲)

「あれは別だよ。」

「お金ちやんと小御嶽へ行つたよ。」

「だからフラウが怒るんだよ。」

「ブレと一緒に下りたら濯ぎの水も出さないで、お金ちやんぷんとして」(一同思はず大聲)

「や、あれは貴様酷い。五合で待つてるのになか〳〵戻つて來やあしない。」(尙笑聲鎭まらず)

「お鉢廻りをして居てすつかり遲くなつちまつた。」

「話は違ふが、Iが非常にいゝんだつてね。八合で介抱を受けた女子醫專の生徒が、友達が先に下りても歸らないんだつてそして下迄送つてくれと言はれたんだ。」

「東京へ手紙が來るさうだ。」(諸君心配無用I君は内科の先生である)

「俺は往診料を取り殘してるが。」

「そりや請求しろよ。愚圖々々言つたら縣廳の學務課へ出せ。本當に取る權利があるんだよ。」(と盛んに示唆する聲)

「さあこの位にして殘は各人が何か傑作を一つ宛話すことにし樣ぢやあないか、先づ席順にW君から一つ始めたらどうだい。」

W君―

啞で盲の夫婦が登山したんだ。(どちらが盲人だい)兩方ともなんだ。(ぢや聾ぢやないか。それから)二人で下山してる時石が降つて來てフラウの首に當つたんだ。それをマンの方は識らずに五合迄下つてしまつたら、人に言はれて氣が付くと、フラウの首が自分の背中にくつついたつていふんだ。(本當は腦味噌なんだな。それが首になつたんだらうな)(頭は着いてたが齒が無かつたから話しだつてね)(そりや實話だよ。)

S君―

（甘い話しもあるだらう）それもあるが怒られるからな。（心配するな怒りはしないよ。）何しろ俺の時は毎日女學生が二百人以下といふことは無いんだからね。（腕を振つたかい。）割に重い高山病が多かつた。女學生だからでも無いんだよ。Pubertät だろ。そして皆んな Menses が早くなつてるんだよ。（お前そんなことを厚かましく聞いたのかい）（おい〳〵男の一生長しと雖も Menses の手當をするなんてことは無いだらうな）（まあ一生そんなことは無いね。よくやつたね。Sはにかむな。それは實際の人助けだ）（Sがにたつと笑ふところが良いんだね。）先生と言つたら俺の時は巡査と隣り合せだろ。巡査は體が迚も良いから、そつちへ先生つて行くんだよ。巡査の奴は迚も生意氣なんだ。何處が悪いねと言やあがつた。診て貰ふならこつちだと言つてやつたら兩手で顔を隱して眞赤になつた。

H君—

俺の時は駄目だね。雨ばかり降つて（失禮だが何歳に見られた）（おいH。H先生はいゝ先生だと言つてたぞ。何かいゝ話がある譯だな）（俺の事は三十五だと言つたぞ。Hなんぞは俺以上に見られたらう）（兎に角Hの評判はとても良かつたぞ。）

San 君—

八合の下の奴は感じが悪いな。いゝ加減の勘定書を持つて來たから。ぎゆうぎゆう絞つてやつた。（妹の友達を介抱した話はないかね）Iは凄かつたよ。斷然信用があるんだ。（それが女子大か）それが病院へ來たさうだね。（嫉くな嫉くな）

N君—

いと平穏無事かね。リス捉へた話位のものやな。リスやない兎の仔や。リス捕りに行つて兎を捉へた。生きてたら捉へて飼つてやらうと思つたんだが。色氣の話なんか些つとも無い。

K君—

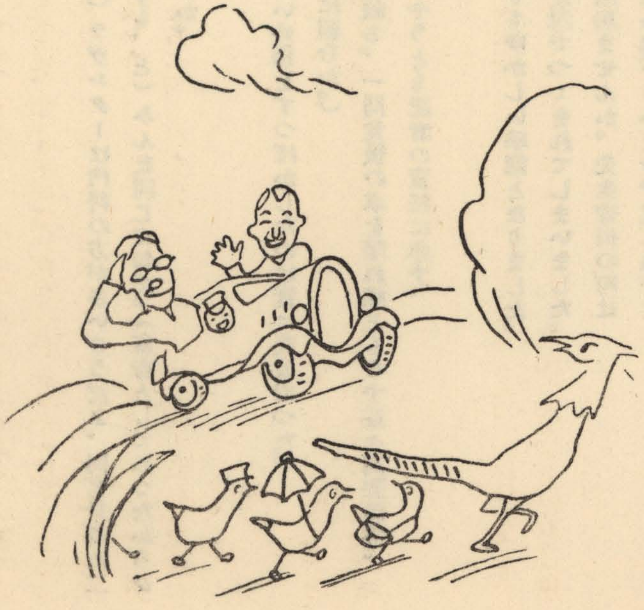
何んにも無い。あゝさうだ。自動車で裾野を走つてる時な、何か道の行く手へ現はれて横ぎるものがあるぢやあないか。よく見ると雉の親が仔をつれて行く。(仔が先きかそれとも親が先に歩いて行つたか。) 親が先きに立つてたよ。(ほう、本當らしいな)

chi 君—

俺は山に參つたんで。お金ちやんでは無い。(お金ちやんは處女だらうか)、救護に行つて救護され。正にその通り實行したからね。アハハハ。

Y君—

俺の研究によるとお金ちやんは一人の先生の時に何か一つ病氣を作る様に思へる。お前の時は何も無かつたか。(無い。いや有る有る、救護日記にも書いた。Furunkel だ。)(Oの時はお金ちやん思はれ面皰が出來てしまふたら。も



う人の事なんか言はんがえゝは。）それから知事をやつつけたよ。（百圓値上の事かい。）どんな病氣が多いかね。大抵高山病です。注射すれば癒るかねと尋ねたから。癒りますが九百圓ではそこ迄やつてけませんと言つた。來年から値上になつたら俺のせいだよ。

O君―

（どうだね一週間五合に頑張つてたんだから女臭いだらう。）ラヴレターは内科の方が多いさうだよ。同じ封筒に二つも三つも這入つてるんだから。（深み行く秋、菊のかほりも、と）みんな同じ文句だ。（富吉としてあつたからジンゲルから來たのかと思つた。なる程富士山で吉田だからか。

T君―

俺の時もシーズン末で何もなかつたが、或日御中道して重い外傷をすつぽかしたのは實に失敗だつた。

（來年からは五合迄馬車が行くさうだよ。）（來年は chi 君に頼むか。）

　窓外の秋雨止みたる樣にて濡れた屋根に、ネオンの色映る。一同食後の卓を離れ樣ともせず益々高聲談笑。

（追補）此處に秘密を公開する。たとへ重大問題を惹起しやうとも記者の責任に非ず。

　　拜啓

　深みゆく秋、しだい〳〵に菊の香りもゆかしい季節となりました。

又あの懷かしい富士山も薄絹の樣な雪でつゝまれてしまいました。

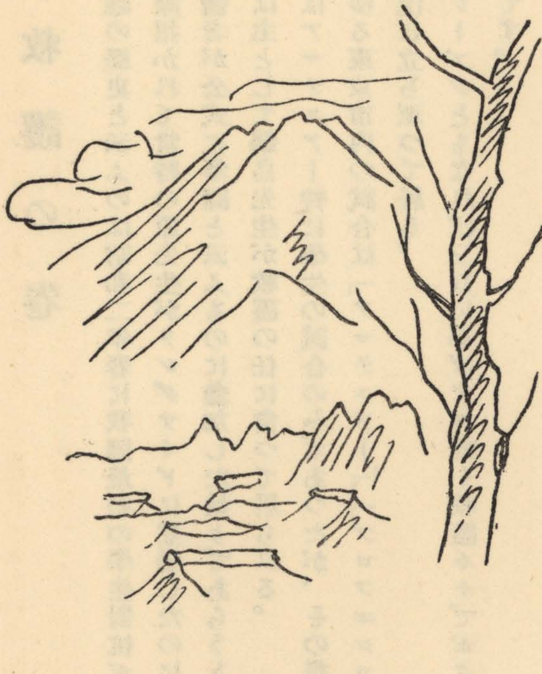
御先生には其の後何のお變りも御座居ませんか。先生吉田の町はね紅葉狩で賑かです。先生お遊びにお出下さいませ。私しね今よ

り楽しくお待して居ります。先生御身御大切になさいませ。

かしこ

きん子

御先生



拳闘救護の巻

抑々我が醫局の拳闘救護の歴史と云ふのは昭和二年春に我國最初の學生對抗ボキシング試合が慶明兩大學の間に擧行された際招かれて當時の原先生がリングサイドに登場したのに始つて居る。

此れが恐らく我が國で醫者が公式に拳闘と云ふものに參加した始りであらうと思はれる。

其の後原先生去り現在は主として鍋島先生が救護の任に當つて居られる。

救護の範圍も最初の頃はアマチユアー特に學生の試合のみであつたが、その後次第に此の範圍は擴げられ近年では殆んど總ゆる東京市内の試合は「アマチユアー」、「プロフエショナル」を問はず吾が醫局の救護を懇請する盛況に立ち至つて居る。

春秋二季のボキシングシーズンともなれば三日に擧げず打續く救護々々でボクサーならぬ救ゴ子がノックアウトされる仕末です。

× ×

扨て拳闘とかボキシングとか云ふと直ぐに血塗れになつて毆り合ふ場合が想像され勝ちな凡そプリミテイーブなスポーツの一種になつて居るが見物した事もなくて物識り顔の世人が云ふ程左樣に殘酷なものでもない樣です。

それでも或る以前可成りやつた事のあるボクサー上りの紳士が云つたものだ「野球でも庭球でも總

て運動は唯の見物より幾何ら下手でもやつてる當人が一番面白いものだが拳鬪だけは自分でやるより見る方が面白いと」

まあ相當のものです。

火花の散るダブルパンチの連續や、奇麗に決つたクロスカウンターの鮮かさ、さては電光の凄まじさに似たストレイトパンチのスピードに、思はず喚聲を擧げる樣になると虚飾と儀禮に飽きた世界を超越した、徹底した、痛快味も湧くと云ふものです倒れる迄、力盡きる迄やる。手に嵌すは一枚のグローブ。體に纒ふは一枚のパンツ。唯腕。唯力。其處にまる裸な、果斷な、男の意氣が溢れてる。人間本來の姿が流れてる。まあ此んな處が拳鬪の魅力？

×　　×

さてこそ此の魅力を求めて拳鬪場に集る御人の何んと多き事よ。

此の春讀賣新聞で主催した日佛試合が戸塚で行はれた時等は一晩に三萬五千人以上の人が戸塚のグランドに雲集したと云ふ。此の地方では前後未曾有の人出と稱されて居る位です。

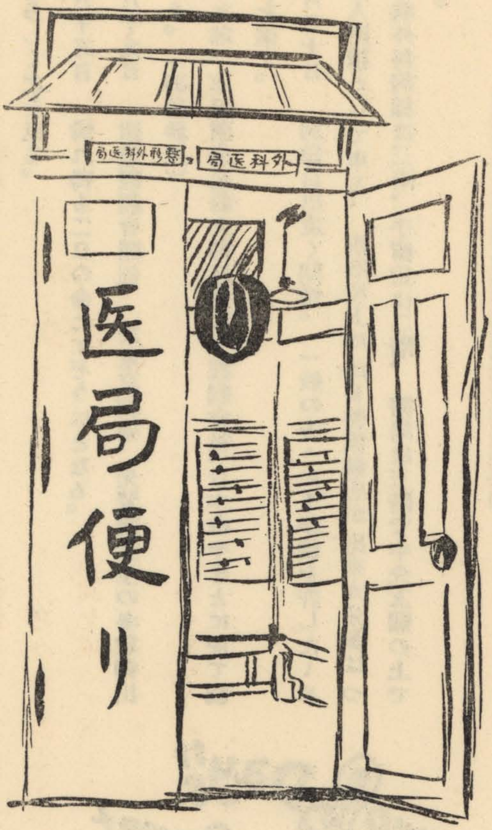
眞紅のルウジユの口唇を裂いて飛出すモガの聲援、シツクなハンドバツクの所在も忘れて「ヤッツケテヨ」「ノシチマヘ」はまだしも「チヨイト樂ニシテオヤリ」「コロシチマヘ」に至つては一沫の鬼氣なきにしもあらずだ。

×　　×

初めて拳闘を御覧になる方々に申し添えて置きます。血を見て顔をおふせになる必要は御座いません。彼等は此の衂血を出して失つた方が却つてすつとして氣持が良いとさえ云つて居りますぞ。

拳闘を見ようとお思ひになる御人は鼻血に驚かない位の度胸は持合して下さい。

輕快なフットウワークに配したカウンターブローの巧みさや鈍重牛の如きアッパーカットの猛撃弧圓を描いて飛ぶスウィングの物凄さ、さてはストレイトのスピードに目を見張る様になると拳闘も仲々愉快な處のあるものです。



外科整形外科醫局も段々狹くなつてきますが相變らず皆仲よく醫局に集つて居ます。只だ以前と多少異つたことは日暮れになれば醫局に殘る顏ぶれが當直ばかりになる日が多いやうです。醫局小作が地主に劣勢となつたためかも知れません。從つて酒量も減じました。でも未だ酒のある夕方は賑かです。醫局も十三年、世の中の考へも多少變つて居ます。この位の變りかたも仕方ないでせう。しかし古きは新しきを聽き新しきは古きを尋ねつゝ醫局和氣靄々たる氣分の未だ連綿と續いて居ることは眞に誇りであり嬉しきことであります。しかし今や世を擧げての非常時、恩師茂木先生の本年六月開局紀念日に於ける訓辭を體して吾等は共に相戒め又自からに省みて教室の研究はも

とより醫局員として恥なき人格の修養と共に醫局の發展に精進することそ師恩に酬ゆるものではないかと思ひます。

例年通り當直日誌を以つて醫局便に代へる次第であります。

▲十二月 二 日　神山地眞氣先生送別會、島田宮尾兩先生歡迎會開催、於新宿白十字。

▲十二月 八 日　神山地眞氣先生東京驛午後一時四十分發にて阿曾院長と共に赴任せらる。

▲十二月 九 日　開館間近に迫せる別館を木村敎授先導にて醫局員多數見學す。

▲十二月十三日　君塚先生御令息誕生の御馳走あり抄讀會後頂く、小野田先生鴨を一番御寄附あり醫局前の池に放つ皆珍らしく之を見る。

▲十二月十五日　憐れ鴨も二日の命にてぞうにとなる。

▲十二月十九日　謝恩觀劇會開催。於東京劇場、先輩諸先生の多數御出席あり。（別項參照）

中村次郎、志田兩先生論文御通過にて觀劇會後、日本橋やまとに於て祝賀會を催す。

▲十二月二十日　別館目出度く開館。一般の方々にも參觀を許したゝめ參觀人陸續として來る。四階屋上には多數模擬店が出來大分賑はつた。我外科病棟は三階、手術室は二階、醫局は三階で中央玄關の上である。

▲一月一日　新年祝賀會。昨夜新人の努力によつて立派に大手術室は飾られて新年祝賀會に相應しい、多數先輩諸先生の御出席あり廣き大手術室も溢れるばかりである。一同目出度く新年を祝し餘興福引には抱腹絶倒し新年氣分百パーセントである。終つて茂木先生、木村先生のお宅へ御祝に行く。

▲一月二日　今日は前田、佐藤、町田、犬養諸先生の御宅に一同御目出度にく。

▲一月六日　新年氣分も半ば去り當直はストウブに暖をとり、かん酒をグイツと引かけて當直室に引あげるや、阿佐ヶ谷より刄傷沙汰の女給來る。日頃の馴染にサービス悪しと肉切庖丁にて逃ぐるところを滅多切り兩手の指をバラ〳〵名はオトミ早速「昭和オトミ」の稱號を授く。

▲一月九日　別館に標本の一部を移すので婦長始め大童である。舊西病舍廢止されて入院患者は全部ほ號の下に收容す。

▲一月十二日　本日より別館の當直も二人泊る。高橋(福)先生、濱名先生がお初に泊る。

▲一月十三日　別館初めての部長廻診あり未だ地下道が完成しないために、に號から別館に通ふのである、寒風に曝されて相當寒い。食研經營の地下室食堂はサービスよろしく大繁昌。

▲一月十四日　今日は當直日誌其儘拜借する。

午後七時より茂木先生御招待の新年宴會が幸樂に於て開催せらる。部長以下六十七名、院外の諸先輩も多數出席下され支那料理の御馳走で一同大愉快、先づ部長先生の御挨拶あり今年も元氣で内外的に共に協力せられんことを望まれ續いて木村先生、犬養先生、前田先生の御挨拶後乾盃、續いて各テーブルよりの歌廻しに競ひ踊ともなれば犬養先生の特意の踊、新人門橋先生の安東節踊り佐藤先生のダンス、實に多士多才吾が醫局の前途益盛んなるを思はしむ。宴酣なる頃滿洲の曠野に矛とりて長らく祖國の爲に盡されし林一等軍醫芽出度く凱旋なされて町田、神山兩先生に迎へられて來る。一同此處に揃つて先輩の輝しき凱旋に乾盃す。

▲一月廿三日　林先生歡迎會。門橋、中村寛、古山先生の壯行會を於新宿モナミ開催す。二次會赤坂幸樂。

近來ヨーヨー流行、醫局に於てはヒゲの先生まで大童にて盛んに妙技を振ふ。

▲一月廿七日　門橋先生入營のため東京驛發午後九時四十五分にて郷里廣島に向ふ。

▲一月廿八日　醫局スキーヤー連大擧して出發す。

▲二月　一　日　古山、中村兩先生近衞第一聯隊入營。

▲二月　七　日　森文雄、小澤兩先生の送別會。於新宿寶亭開催す。犬養先生御出席せられ大變賑かであつた。

▲二月　九　日　整形外科集談會　前田、岩原兩先生の御講演あり。

▲二月十四日　抄讀會後茶話會開かる。役員任命及腹藏なき意見の交換ありて散會。

▲三月　四　日　森先生退職研究生とならる。上石、高巢、木村先生に震害見舞狀を發送す。

▲三月　五　日　今井金治先生午前九時上野發にて高崎に赴任せらる。

▲三月十三日　今井金治先生論文御通過。
▲三月十四日　抄讀會後佐藤先生の御馳走あり。
▲三月十六日　堀田先生豫防醫學科(寄生蟲)へ轉科。
▲三月廿三日　木村知孝先生入局。
▲三月廿七日　午後三時より病院階段講堂にて學會の豫演あり畠中、武藤、瀬尾、土方、中村次諸先生の後前田教授の宿題報告の豫演あり。
▲三月廿八日　佐藤太平先生、靜岡日赤病院に向け富士にて東京驛發赴任せらる。內科西野教授、外科木村教授其他御見送り多數あり倘女子醫專の美しき方も多數見えられた。
▲三月廿九日　前田教授、岩原、伊藤由、武藤、畠中、小平諸先生學會出席のため東京驛發にて出發せらる。
▲三月卅一日　藤原、鍋島、土方、瀬尾、中村次、栗本諸先生燕號にて東京驛發學會に向ふ。
木村教授は前日一行に先ち御出發の由。
▲四月　六　日　數日前怪盜醫局內に押入り手提金庫を盜み庖丁にて破壞し湯殿橫に捨てたるを發見す。被害相當?の由。
▲四月　七　日　當直日誌を其儘、夜の外傷の特診あり患者は泥醉せる者にして醫局空前の暴行事件突發す!!!件の二名の外傷醉漢は醫局に亂入し、
一、椅子を一回醫局にて投げ飛ばす。(婦長に向けて)
二、野○君一回毆打さる。

三、膿盆二枚クシャ〳〵にさる。
四、小便數名毆打さる濕布す。
五、大廊下より醫局處置室等血だらけにさる。

◀四月 十 日　新入局員初めて顏を見せる、新婚旅行の中野君は少々遲れる。

◀四月十三日　新入局諸先生の御馳走あり。町田助教授、藤原講師昇格せらる。

◀四月十五日　新入局員歡迎旅行伊豆半島修善寺方面に行く、信濃町―熱海―十國峠―修善寺（一泊）―靜浦―沼津にて解散、修善寺の宴會には中村廣、小澤兩先生御出席せらる。

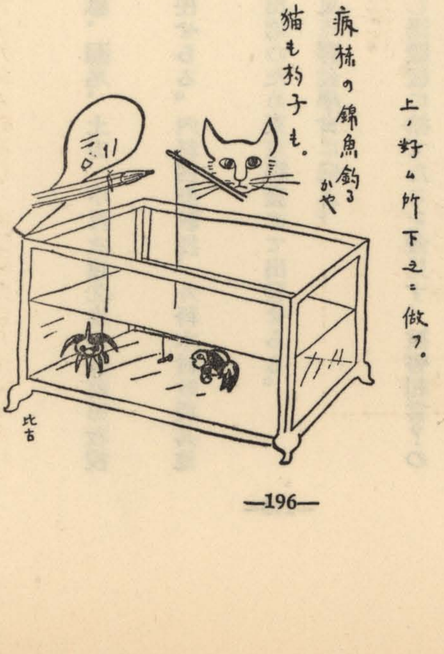
小野田先生長男を擧げらる。

◀四月廿二日　午後六時より赤坂幸樂に於て佐藤、川田、志田、栗本諸先生の送別會。町田藤原兩先生の昇格祝あり。院外より犬養、戸田、大庭、鎌田、關、大會根、豊田、四條、關口、小口、辻岡、森文、森豊、佐藤盛諸先生御出席あり盛大なり。

兄弟の盃事や同窓會

成内先生別館に入院せらる。（ヘモ）

◀四月廿六日　茂木先生新入局員を御宅に御招待せらる。



▲五月 三 日　藤原先生二男をあげらる。

　鯉のぼり此處にも日本男子あり

▲五月十三日　三四會鐵門クラブ合同水上運動會に於て我醫局クルーは青山外科と對戰し、前田教授自ら出場せられ見事三艇身の差を以て破る。メンバー左の如し。

軸　齋藤
二　森山
三　大岡
四　笹島
五　伊藤原
整　田村
舵　前田

▲五月十四日　川田、志田兩先生靜岡へ、午後一時東京驛發赴任せらる。

▲五月十七日　茂木先生國技館見物に御出かけになる。

▲五月二十日　栗本先生午後一時東京驛發他醫局の方と共に赴任せらる。

▲五月廿二日　横山先生論文通過。

▲五月廿九日　成内先生送別會開催。　川田先生靜岡より又古山、中村兩軍醫も出席せられ盛大なり。

▲六月 一 日　百溪先生講師に昇格せらる。

▲六月 三 日　佐藤太平先生に在職記念として同窓會より記念品を贈呈す。

▲六月 五 日　畠中先生長女を擧げらる。

　成内先生午後八時廿五分東京驛發滿洲に赴任せらる。

▲六月 六 日　田中周吉先生中目黑瀨尾病院御赴任、田村先生隔離入院。

目　録

一、金メタル　一ケ
一、プラチナ鎖　一本

以上

右
在職記念として贈呈仕り候

同窓會有志

佐藤太平様

▲六月七日　午後四時より例年通り手術室で茂木先生を初め醫局の先輩多數出席して開局記念祝賀會を催す。茂木先生始め木村、前田兩先生からも數々の激勵の御演說あり、午後七時和氣靄々裡に閉會す。來賓犬養、大庭、戸田、鎌田、大曾根、竹下、古川、横山、川田、桑野、森、布留、辻岡、渡部（見學）の諸先生。

▲六月九日　町田先生い號の下入院せらる。

竹下先生鄕里にて御開業のため歸鄕せらる。

▲六月十一日　靜岡日赤開院。木村先生御出席せらる。又醫局より祝電を打つ。

▲六月十二日　町田先生全快退院す。

▲六月十五日　木村（知）先生アッペ、大塚先生發熱にて入院。

▲七月五日　外科對小兒科野球戰あり。於目黑球場。

▲七月九日　富士山救護班として大塚先生先發す。

▲七月十日　明樂先生論文通過祝賀會。田中先生送別會。百溪先生昇格祝賀會を催す。

▲七月十五日　武藤先生長野縣へ、相見先生御病氣のため出張す。

▲七月廿六日　プレ三名、ラボランチン一名、院內より四名のアッペ入院手術す。

▲八月三日　葉山便り、前田先生六哩遠泳に參加、見事完泳せられたる由。

▲八月五日　燈火管制豫行演習にて院內暫く暗闇なり。

▲八月六日　戸田先生患者を御連れになり當直室に泊る、感慨深く「五年ぶりだなあ」と云はれた。

▲八月十日　燈火管制施行。午後八時より十一時迄病院眞の闇の如し。

▲九月一日　横山先生病理教室より歸局。
▲九月十五日　別館四階に食養部經營の喫茶店開かる。
▲九月十六日　待つこと久しかりしグランドも愈々此處に完成せられ、今日は目出度も開場式あり、四谷教授連又塾長始め三田教授連多數參會、前田先生の御挨拶、醫學部長の祝辭あつて直ちに助手團對學生撰拔チーム野球戰及び四谷教授團對三田教授團野球戰があつた。後和氣靄々裡に園遊會を総つて散會す。
▲九月十七日　茂木先生御招待にて一同前橋に淸遊す。(詳細別項)
▲九月廿三日　青山外科對抗競技會。三對二にて優勝す。祝勝氣分にて一同大いに醉ひ、懇親會より醫局→幸樂→醫局と流れ茂木先生の御宅に親父萬歲に出掛ける。
▲十月三日　中村次郎先生入院せらる。七日退院せらる。
▲十月十日　横山先生歡迎會。高橋(福)先生濱名先生送別會あり。二次會成駒。
▲十月十四日　渡邊浩生先生來局。島田信勝先生結婚式を擧げらる。
▲十月十七日　對小兒科野球戰。五對〇にて大勝す。
▲十月二十日　山本順生先來局、歡迎會を有志にて幸樂に於て催す。
▲十月廿一日　酒井先生長男を擧げらる。
▲十月廿二日　靜岡日赤の諸先生早慶戰の爲續々御上京。
▲十月廿五日　對東校舍野球戰八對〇にて優勝。於幸樂祝賀會を開催。

▲十月廿七日　濱名先生午前十時三十分上野發にて御赴任。

▲十月廿八日　第七回明治神宮大會始まる。例年の通り我が外科醫局より救護班出張。醫局總動員にて大活動。又青年館に當直員毎日一名宛出張す。

▲十月卅一日　志田先生鄕里に於て結婚式を擧げらる。

▲誰れの書いたものか………月末ともなればそこらあたり飲み散らしたる書き付けの秋の木の葉の散る如く醫科の廊下より舞いこむにあわてたる關係者一同相集りて外科醫局經濟會議を開きたるに右より左に又左より右にそれぞれ頭をしぼり袋をしぼりてのやりくりにいつ果つべしとも思へねど無きものは無し、或る者は有りか？　とゞのつまりは閉會のさて又一ぱいと出かけしあと當直は殘つたビールにて氣分出しか。

▲十一月二日　中村廣人先生、志田先生來局。

▲十一月四日　富田勝郎先生來局。

▲十一月八日　佐藤太平先生來局。

▲十一月九日　病院階段講堂にて整形外科集談會あり醫局より野崎、龍野、岩原三先生の講演があつた。

▲十一月十日　對帝大小石川分院野球戰　我軍はメンバーの半數も揃はず惜敗す。

▲十一月十三日　吉岡勝衞、相見兩先生來局。

▲十一月廿日　醫局內ＯＢ對新人野球戰あり。八對八

大連よりの便り

謹啓晩秋の候愈々御清穆之段奉賀候陳者

市太郎次男　加藤銀治郎
三郎次女　土井　文子

右兩人豫て結約中の處此度遠藤繁清殿千種峰藏殿兩御夫妻の御媒妁に依り來る十一月十日（金曜日）擧式致す事と相成候就ては今後とも御指導と御懇親を仰度當日午後五時半より市內連鎖街扶桑仙館に於て御披露旁々粗餐差上度候間御多用中眞に恐縮に存候得共何卒御來駕の榮を賜度此段御案內申上候　敬具

昭和八年十一月吉日

にして引分け。

百溪先生御結婚式を擧げらる。

▲十一月廿二日　醫學部三四會運動會。我外科醫局は對教室リレーレースに於て婦人科内科を斷然拔いて今年も亦優勝カップを獲得す。

▲十一月三十日　相見先生信州より歸局さる。

或る日こう云ふ落書きをしたものあり。どこから持つてきた種か知らぬが

Ermahnung an die Brautleut !

Sobald euch beiden die Wangen glühn,
Müsst ich in ein dunkles Zimmer fliehn.
Ritze vor dem Akt zu beschauen ist nichts,
Im Akte selbst bedürft ihr nicet des Lichts.

* * *

Du musst aufs Bett dich hin am Rücken strecken,
Den Kopf etwas gesenkt und tiefer halten,
Die Beine weit auseinander spalten
Und untern Hintern dir ein Polster strecken.

* * *

Damit die gegend um die Scham recht hoch
Heraussteckt und frei daliegt das Loch;
Dann stiegt der Mann auch nackt dazwischen,
Damit die Glieder sich da vermischen.

* * *

Ergreif nun schnell den Schwanz mit deiner Hand,
Gib ihn in deiner Voze Mundesrand.
Dann bohrt der Mann sich mit Gewalt hinein,
Dabei wirst du, fürcht ich, ein bischen schrein.

* * *

Allein man glaubt, man höre alle Engel singen,
Wenn so die Schwänzetief am Herzen dringen;
Drum stosse ihn entgegeen mit der Voz
Und lieg nicht da als wie ein toter Klotz!

（皆樣此れを譯して見て下さい。）

同窓會會員名簿

（昭和八年十二月現在）　（入局順）○印は在局者

四谷區東信濃町二八（電四谷四五六八）　○茂木藏之助
四谷區三光町五四（電四谷六二一六）　犬養六郎
福岡縣嘉穗郡桂川村平山鑛業所醫院　成松清敏
北海道札幌市北四條西十五丁目一（北大柳外科）　柳壯一
神奈川縣鎌倉材木座　大庭國紀
中野區沼袋南二丁目一六〇　中村復一郎
靜岡縣濱松市八幡町七二九（電長八六五）　梅村六郎
麻布區笄町八〇（電青山六五二五）　○木村博
新潟縣柏崎本町六丁目　高桑武夫
水戸　常磐病院内　柴沼薫
神奈川縣小田原萬年町四丁目五七三（仁天堂病院）　戸田四郎平
神奈川縣都築郡田奈村長津田一四二四　森信彦
川崎市貝塚一二　阿部貞治
深川區西平井町九三　片柳常作
茨城縣結城郡結城町一四一六　稻葉俊雄
蒲田區新宿町三六九　大槻正路

芝區白金三光町二六九　○町田謙二
桐生市西久方町二丁目七八六　赤松常信
南滿洲　四平街病院　○高木宗吉
長野縣　富士見高原療養所　中村武重
芝區濟生會病院舍宅　鎌田竹次郎（休）
岐阜縣武儀郡西武藝村　山田晟
北海道小樽市　小樽病院　山本順
京都市宇治郡醍醐村　本郷光美
杉並區和泉町三四一　關市衛
群馬縣高崎市柳川町六二（綿貫病院）　今井金治
深川區木場三丁目八　新田龜三
宮城縣牡鹿郡石巻町新田町三九　上石英造
栃木縣栃木町萬町二丁目　澤江六太郎
杉並區阿佐ヶ谷町三丁目四八四　新住所（阿佐ヶ谷町四丁目九〇〇）　篠原靜夫
大連市　聖愛病院　牛久昇治
靜岡市東鷹匠町（靜岡三二一二）（靜岡日赤）　佐藤太平

杉並區馬橋五二九(陸軍)　林　利治
横濱市中區本郷町三丁目一五四(横濱山下町山下病院)　大曾根幾次郎
杉並區東田町二ノ一六四　○神山敏雄
樺太廳眞岡病院官舍　中村勝之助
澁谷區代々木深町一六六七　近藤宗彥
樺太大泊　三橋外科病院　三橋　弘
福井縣小濱町住吉八三　濱野碩太郎
市外武藏野町吉祥寺二八三五(生理)　豐田秀穗
千葉縣北條館山町長須賀(館山病院)　渡邊治生
大分縣北海郡小佐井村　神野澄晴
富山縣高岡市旅籠町　吉崎　純
熊本縣鹿本郡山鹿町　竹下貫一
滿洲國四平街　滿鐵醫院外科　高巢三四一
品川區五反田一丁目一二五(病理)　駒井忠雄
八王子市八日町三一　四條龍作
北海道十勝國帶廣町　小內　昇
福島縣石城郡四倉町(電四倉三五)　木村守江
目黑區駒場町七九七(横濱濟生會病院)　原　廣治

横濱市鶴見區生麥町三八(電鶴見三四六)　佐藤盛二
杉並區清水町二一〇(電荻窪三三四)　○横山虎雄
靜岡市安東本町六三(靜岡日赤)　川田正雄
山口縣大津郡人丸　吉野史朗
杉並區阿佐ヶ谷二丁目五八六　○中村次郎
四谷區右京町二二(理學科)　桑野鐵四郎
足利市伊勢町　槍田　榮
赤坂區青山北町一ノ八　○岩原寅猪
四谷區須賀町四二(電燈病院)　森　文雄
朝鮮京城府漢江通二ノ一(一四號官舍)　松井八郎
四谷區左門町二八(病理)　河內野弘德
淺草區七軒町四　東京痔病院　高橋福三郎
赤坂區青山北町三ノ六七　○藤原道純
麻布區新網町一ノ五五(濟生會)　古川　明(休)
豐橋市　松橋　一
杉並區成宗一丁目一〇一　○君塚　正
中野區沼袋町南二丁目二一五　○鍋島　勉
麻布區本村町二二五(電高輪九二五)　○前田和三郎

青森縣五所河原町　増田病院　村上晋
前橋市北曲輪町　關口林五郎
北海道小樽市　小樽病院　井上太郎
長野縣小諸町赤坂町（樋口病院）　吉岡勝衞
靜岡縣田方郡土肥村土肥　尾形別莊（土肥慶應堂病院）　中村廣人
ブラヂル、リオ・デ・ヂャネイロ　八木勝郎
四谷區南寺町一　金扇館　○土方久顯
世田ケ谷町代田二丁目六八二　○百溪定七郎
四谷區大番町一〇三　古川方　○瀨尾宥三
橫濱市　眞金町病院　小口宇一
宮崎縣南那珂郡油津町私立日南病院　弓削中
本所區厩橋三ノ二六　本島方　○小野田肇
大連市外小平島　南滿洲保養院內　加藤銀治郎
靜岡市春日町一二六三ノ五（靜岡日赤）　志田元秀
靜岡縣濱松市　森下病院　森下貫一
埼玉縣川越市小仙波一一一　埼玉病院（電川越三七六）　○橋本文吾
杉並區東田町二丁目一五〇　○伊藤由比
世田ケ谷區代田一丁目六五二ノ五　蓮江英男

淺草區八幡町四（寄生蟲）　堀田善二郎
三重縣一志郡小野江村　西井病院（電カラス二四）　富田勝郎
青森縣西津輕郡森田村　増田分院　小方則太郎
靜岡縣伊東町　伊東病院　小澤武雄
小石川區原町十二　千家莊（三〇）（電大塚四四五六）　○田村信介
目黒區中目黒二丁目四三五　瀨尾病院內　田中周吉
淺草區田中町八〇　辻岡元
中野區住吉四八　山靜莊內　○武藤藤太郎
四谷區東信濃町二八　川添方（藥物）　布留文夫
大森區池上德持町三六二　寺田泰三
橫濱市神奈川區篠原町七六七　○相見三郎
京橋區槇町二丁目七（電京橋二三〇二）　○酒井欣郎
橫濱市山下町　山下病院　森豊明
在ブラヂル　細江靜男
茨城縣　日立鑛山病院本山分院　濱名元中
中野區上高田一丁目四七　○若林研爾
靜岡縣田方郡下狩野村小立野　中豆病院（電本立野三）　神山地眞氣
滿洲國撫順　滿鐵撫順醫院外科　成內顯三郎

横濱市中區西戸部町七二二（長者町六〇八）　○森山成一
靜岡市安東三ノ七八中村方（日赤）　栗本勝之進
日本橋區橋町一ノ九（電浪花二六四六）　○笹島彥次郎
市外杉並區阿佐ヶ谷五〇四　○島田信勝
中野區朝日ヶ丘二　○明樂治部輔
中野區打越町二四　○照井侃
赤坂區新町四丁目一八（電青山七二六四）　○井手行乎
豐島區駒込五丁目九八〇　○伊藤國男
澁谷區澁谷町神泉三二（電青山七八四〇鴨志田取次）　○板橋剛
四谷區愛住町七三　○畠中卓助
廣島縣福山歩兵第四十一聯隊附（荒川區三河島町四ノ三四六二）　門橋勇（休）
本鄕區弓町一ノ二六（電小石川五八八一諸橋取次）　○龍野一雄
近衞歩兵第二聯隊附 城東區龜戸町六丁目一一〇有川方（電隅田一四九六大藤呼出）　中村寛（休）
目黑區洗足一四七二番地ノ四（電荏原三六二〇）　○野崎寛三
近衞歩兵第三聯隊附 豐島區池袋四丁目四三六（電大塚二二五三）　古山實（休）
淀橋區西大久保二丁目二八三　○小平正

澁谷區永住町一五（電青山五五〇八）　○齋藤修二
小石川區同心町一〇 大坪方　○宮尾啓
中野區沼袋南二ノ八四（電中野二一六七）　○伊藤原
世田谷區北澤四ノ三八五　○萩尾又八
中野區城山　○大岡保司
杉並區高圓寺三ノ二二九　○大塚廣
芝區白金臺町一ノ八三　○釜江省司
荒川區日暮里渡邊町一〇五五（電下谷五六三六）　○高橋眞雄
葛飾區金町四ノ一五一九　○中野宗夫
小石川區久堅町六九（電小石川四二〇九）　○長坂謙三
目黑區東町三一　○山口恒造
牛込區市ヶ谷河田町一一 山中遜方（電牛込六三二）　○重盛福七郎
麻布區笄町八〇（青山六五二五）　○木村知孝
横濱市西戸部町山王山六五五六　○渡邊敬

編輯後記

昭和八年の刀林發行にあたり。會長茂木先生の大部なる玉稿により卷頭を飾るを得ましたことは誠に感激の至りであります。そして又御多忙にも拘ず早速口繪の寫眞と成つて頂きましたことを感謝いたします。又木村先生の種々と御助言を賜りましたこと、前田先生の玉稿を下さいましたことを深謝いたします。又靜岡日赤佐藤院長を始め諸先輩の御用多き中にも多數の原稿を送られ、醫局諸兄の又ほがらかなる御投稿を得ましたことは編輯一同有難く御禮申し上げます。

さて非常時の聲も三年目、實に早く時は去ります。刀林も發行八年と成りまして相變らずの組合せ方で恐れ入りますがこれは編輯不德の致すところと御詫び申し上げます。せめて體裁だけでもと思ひまして印刷、製本、表紙を更へて見ました。活字刷で今までと何んだかそぐわぬやうな氣もしますが、八號の試みとして御批判を願ひます。今年は木村先生の發案に成る先輩諸兄御發展の現況を小平君を煩はして地圖にして見ました、名簿と合せて御覽下さい。又醫局に外科の歌を募つて見ました。これは〆切も間近かだつたためか少數でありましたが中々傑作があります。尚編輯にあたり笹嶋、伊藤、板橋、小平、山口の諸君のそれ〴〵天分を發揮せられて、原稿の整理に、漫畫カットと盡力されたる御苦勞に對し謝意を表するものであります。

最後に茂木先生始め皆樣の益々御健勝に、無事御越年あらんことを、そして又外科整形外科醫局の益々隆盛ならんことを祈りて筆を擱ます。—(せを)—十一月三十日夜—

昭和八年十二月十三日 印刷
昭和八年十二月十五日 發行

【非賣品】

發行者 東京市四谷區西信濃町廿二番地
慶應義塾大學醫學部
外科整形外科教室同窓會

編輯者 瀨尾甯三

印刷人 東京市京橋區入船町二丁目一番地
高橋與作

印刷所 東京市京橋區入船町二丁目一番地
正進社印刷所

不許複製

發行所 東京市四谷區西信濃町廿二番地
慶應義塾大學醫學部
外科整形外科教室
振替口座東京二九二七五番

昭和八年十二月十八日
新橋演舞場観劇会之日、

高級諸印刷物
の御用命は
是非左記へ

東京市京橋區入船町貳丁目（市場通）
正進社印刷所
電話京橋三二三一番